enfocus CONNECT 2019

ユーザーガイド

06 - 2020

enfocus

目次

1. Enfocus Connectを理解する 5
1.1. Enfocus Connectについて 5
1.2. Connect YOUおよびConnect ALLとの比較 6
1.3. Enfocus ConnectとConnectorを使用した作業 7
1.3.1. Connectorのプロパティ 10

2. Enfocus Connect のインストールとアクティベート 12
2.1. インストールの開始前に 12
2.2. Enfocus Connectのインストール 12
2.3. Enfocus Connect のアクティベート 13
2.3.1. ［Enfocus Conenctのバージョン情報］ウィンドウ 13
2.3.2. 試用版のアクティベート（オンライン） 14
2.3.3. 試用版のアクティベート（オフライン） 15
2.3.4. Enfocus Connectのアクティベート（オンライン） 17
2.3.5. Enfocus Connectのアクティベート（オフライン） 17
2.4. 使用するEnfocusライセンスを管理する 20
2.4.1. ライセンスの修復 21
2.4.2. ライセンスをアクティベート解除する 21
2.4.3. コンピューター間でライセンスを移動する 21

3. Enfocus Connectアプリケーションを使用した作業 23
3.1. ワークスペースの概要 23
3.1.1. Connector プロジェクトのプリセット 26
3.1.2. ［プロジェクトプロパティ］ペイン - タブ 26
3.1.3. Connector プロジェクトリストのアイコン 27
3.2. Connectorの設定と作成 28
3.2.1. Connector プロジェクトの作成 28
3.2.2. Connectorのプロパティの設定 29
3.2.3. Connector の作成 30
3.3. Connector プロジェクトの管理 32
3.3.1. グループでプロジェクトを整理 33
3.3.2. プロジェクトの削除 33
3.3.3. プロジェクトの複製 33
3.3.4. プロジェクトの編集 34
3.3.5. デフォルトにするプロジェクトの設定 34
3.3.6. プロジェクトの書き出し 35
3.3.7. プロジェクトの読み込み 35

3.3.8. プロジェクトのロック 36
3.3.9. プロジェクトのロック解除 37
3.4. Connectのユーザ環境設定の設定 37
3.4.1. 全般的な環境設定 38
3.4.2. 検証の環境設定 38
3.4.3. 回復環境設定 (Connect ALL) 39
3.4.4. アップデートの環境設定 40

4. Connectorのカスタマイズ - 機能概要 41
4.1. 表示のカスタマイズ 41
4.1.1. 定義 タブ 42
4.2. ジョブチケット 43
4.2.1. ジョブチケットタブ 45
4.2.2. 新しいジョブチケットグループの作成 47
4.2.3. ジョブ チケットグループの管理 48
4.2.4. ジョブチケットのプレビュー 49
4.2.5. Connectでの基本ジョブチケット定義の編集 49
4.2.6. HTMLジョブチケット定義の編集 52
4.2.7. Connectのジョブチケットのレイアウトの定義 55
4.3. PDF作成 55
4.3.1. PDF 作成タブ 57
4.3.2. Connectプラグインの使用 62
4.3.3. 仮想プリンタの使用 63
4.4. プリフライト 64
4.4.1. プリフライトタブ 65
4.4.2. プリフライトプロファイルについて 70
4.4.3. アクションリストについて 73
4.4.4. スマートプリフライトについて 76
4.4.5. StatusCheckについて 80
4.5. 配信オプション 82
4.5.1. 配信 タブ 83
4.5.2. 配信ポイント 84
4.5.3. 配信ポイントのプリセットの作成 85
4.5.4. 配信ポイントのプリセットの編集 86
4.5.5. 配信ポイントの変更 87
4.5.6. 配信方法:プロパティ 88
4.5.7. 通知メールの設定 99
4.5.8. 許可されたファイルタイプの定義 100
4.5.9. ファイルタイププロパティ 101
4.6. 更新オプション（Connect ALL） 102
4.6.1. 更新 タブ 103

4.6.2. 自動更新メカニズム....104
4.6.3. 更新プリセットの作成....107
4.6.4. 更新プリセットの編集....107
4.6.5. 更新サーバーの詳細の変更....108
4.6.6. 更新方法:プロパティ....109
4.6.7. Connector の更新....112
4.6.8. HTTP更新 - サーバ側....113
4.7. Connectorのリモートダウンロード（Connect ALL）....116
4.7.1. リモートダウンロードの有効化....116
4.7.2. Remote Connectorの配布....116
4.7.3. Remote Connectorのインストールと使用....117
4.8. HTTP(S)応答システム....117
4.8.1. HTTP(S)応答システムの例....118

5. Connectorの使用....**120**
5.1. Enfocus Connectorの使用....120
5.1.1. Enfocus Connectorの設定....125
5.1.2. Enfocus Connectorへのファイルの送信....129
5.1.3. 追加情報の入力....133
5.1.4. ファイルの進行状況のチェック....135
5.1.5. プリフライト結果の検証....137
5.2. Connector環境設定の設定（オプション）....138
5.2.1. Connector環境設定 - 全般....138
5.2.2. Connector環境設定 - ネットワーク > Eメール....139
5.2.3. Connector環境設定 - ネットワーク > プロキシ....140
5.2.4. Connector環境設定 - ネットワーク > フォルダの配信....140
5.3. トラブルシューティング....141

6. さらにサポートが必要な場合....**143**

7. サードパーティのライセンス情報....**145**

8. 著作権....**155**

1. Enfocus Connectを理解する

このセクションでは、Enfocus Connectは何であるか、何のために使用されるか、また異なるConnectのバージョン（YOU、ALL）間でどのような違いがあるか、といった基本的なことを説明します。Enfocus Connectを使用するのが初めての場合は、ここをよくお読みください。

注：Enfocus Webサイト(*https://www.enfocus.com/en/support/product-videos*)上で製品のビデオを見ることも可能です。

1.1. Enfocus Connectについて

Enfocus Connectは、次のようなさまざまな事前定義のタスクを実行する（*Connector*とよばれる）小規模なアプリケーションの作成を可能にするツールです。

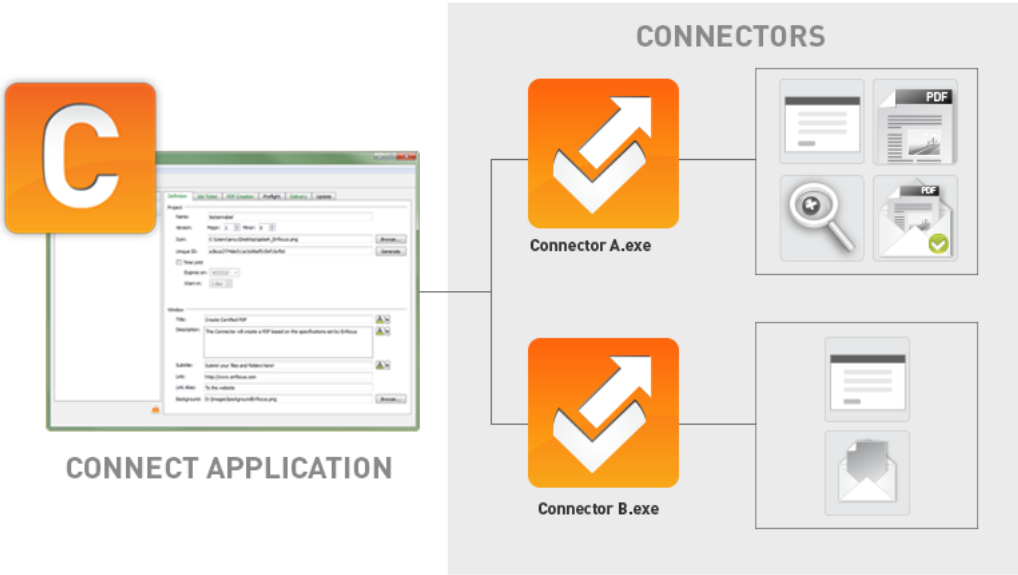
- PDFの作成
- （プリフライト）PDFの検証
- 一般的なPDF問題の修正
- ジョブチケット情報の修正と配信
- リモートサーバへのあらゆるファイルタイプの配信

上記の機能の組み合わせはすべてConnector内で定義可能です。ただし、Enfocus Connect（YOU/ALL）のバージョンによって、使用可能な機能は異なります（*Connect YOUおよびConnect ALLとの比較* 6 ページのを参照）。

例

InDesignからPDFファイルの作成と検証を行うためのConnectorを1つと、すべてのファイルタイプを特定のFTPサイトに配信する別のConnectorを1つ、作成することが考えられます。また、1つのConnectorを作成して新聞広告をプリンターAに配信し、別のConnectorでは雑誌広告をプリンターBに配信するようにすることも可能です。

下記の画像は2つのConnectorを作成するために使用するConnectアプリケーションのサンプルです。Connector Aにはジョブチケットの収集とPDFの作成/プリフライトを行うための機能がある一方で、Connector Bはジョブチケットの収集のみが可能です。これらのConnectorは両方とも、ファイルを同じプリンターに配信するように設定されています。



注: ほとんどの時間で、*Connector*を使用して作業することになります。Connectorを作成するには、Connectアプリケーションのみが必要です。作成したConnectorに満足できたら、その後Connectアプリケーションを使用する必要はありません。

最も典型的な操作は次のとおりです。

使用するもの...	操作内容...
Connectアプリケーション	Connectorを定義して生成する場合: • *Connector*を作成します • *Connector*のプロパティを設定します • 実際の*Connector*を生成します
Connector	ファイルをConnectorに送信して処理する場合: • *Connector*上にファイルをドラッグアンドドロップします • 仮想プリンタで*Connector*へ印刷します • *Connector*を*CS/CC*アプリケーションから書き出します

1.2. Connect YOUおよびConnect ALLとの比較

Enfocus Connectには、Connect YOUとConnect ALLの2つのバージョンがあります。

Connectの2つのバージョンはすべて、同一のアプリケーションに基づいていて、機能およびConnectorの動作の一部に違いがあります。

Connect YOU

Connect YOUは個人ユーザを対象としています。Connect YOUで作成されたConnectorは、1つのワークステーション上でのみ実行され、配布したり共有することはできません。

Connect YOUには、ジョブチケット、PDF作成、PDFプリフライト、ファイル配信といった、Connectorを作成するための基本的な機能がすべて備わっています。

Connect ALL

Connect ALLは、Connectorを内外のユーザに配布することを考えている企業や組織のユーザを対象としています。

Connect ALLには、Connectorのブランディング、ジョブチケット、PDF作成、PDFプリフライト、ファイル配信およびConnectorのリモート更新のための機能がすべて備わっています。

機能比較

次のマトリックスは、Enfocus Connectの3つのバージョン間の主な相違点をまとめたものです。

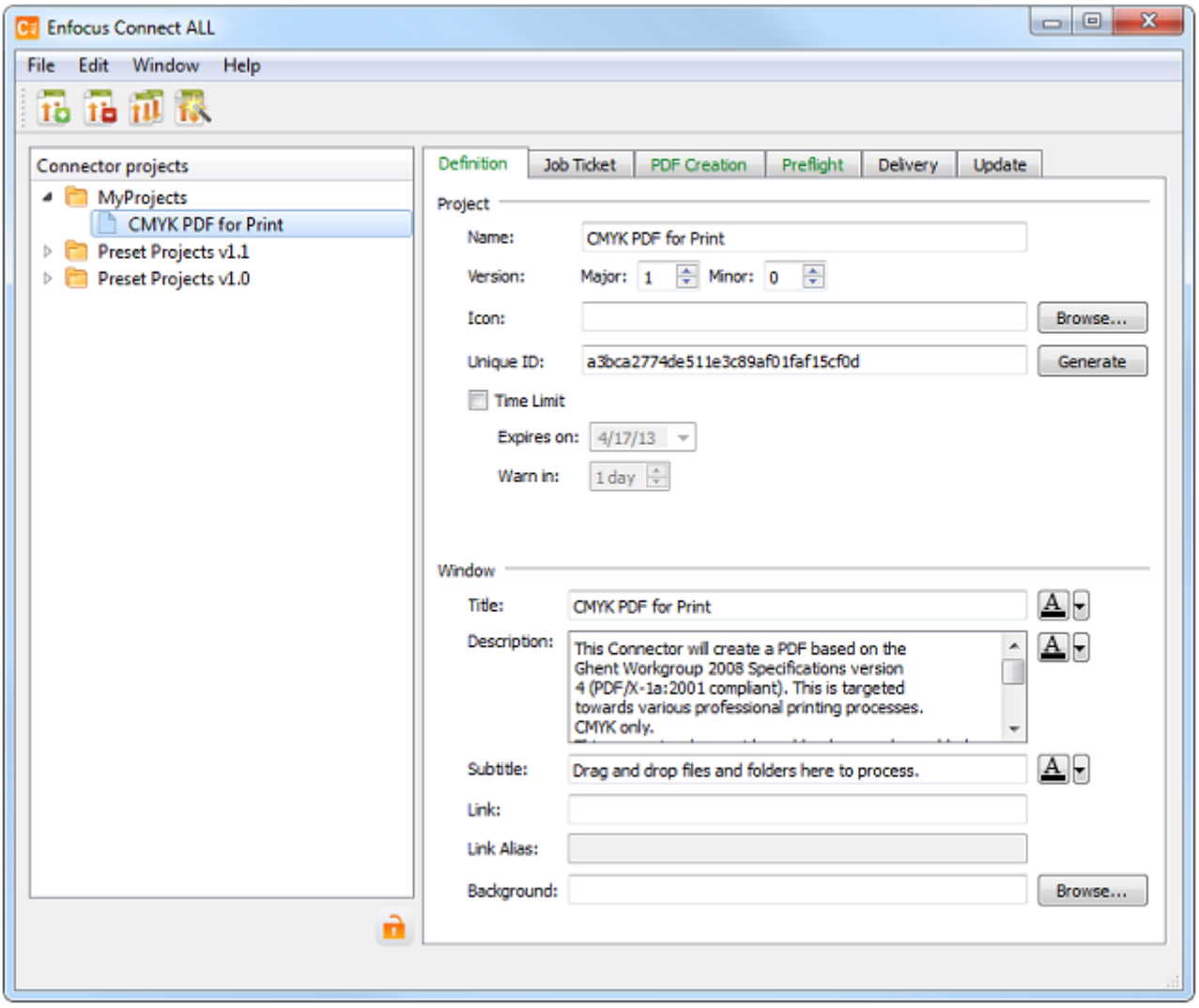
機能	**Connect YOU**	**Connect ALL**
主な用途	個人利用	配布
PDFファイルの自動作成、プリフライト、修正	X	X
電子版のジョブチケット（ジョブ情報の収集を行える機能）	X	X
リモートファイル配信	X	X
無制限のConnectorの配布	-	X
Connectorの自動更新	-	X

1.3. Enfocus ConnectとConnectorを使用した作業

Enfocus Connectアプリケーションでの設定

ConnectorはEnfocus Connect YOUまたはALLで定義され、作成されます。

アプリケーションを開始するときに、Connectorの定義（*Connector* プロジェクトと呼ばれます）の一覧が左側に表示されます。プロジェクトを選択するときに、対応するプロパティが右側のタブに表示されます。タブのタイトルが緑色の場合、このタブのプロパティが有効化されます。



Connectorを作成するには、次を実行する必要があります。

1. 新しいConnector プロジェクトを作成するか、既存のプロジェクトを選択します。
2. 新規作成の場合は、各機能のタブのプロパティを再確認して、正しい設定であることを確認します。
3. Connector を作成します。

この結果、ファイル（.exeまたは.app）が生成されます。このファイルは、ご使用のデスクトップなどのコンピュータ上に保存できます。

注:

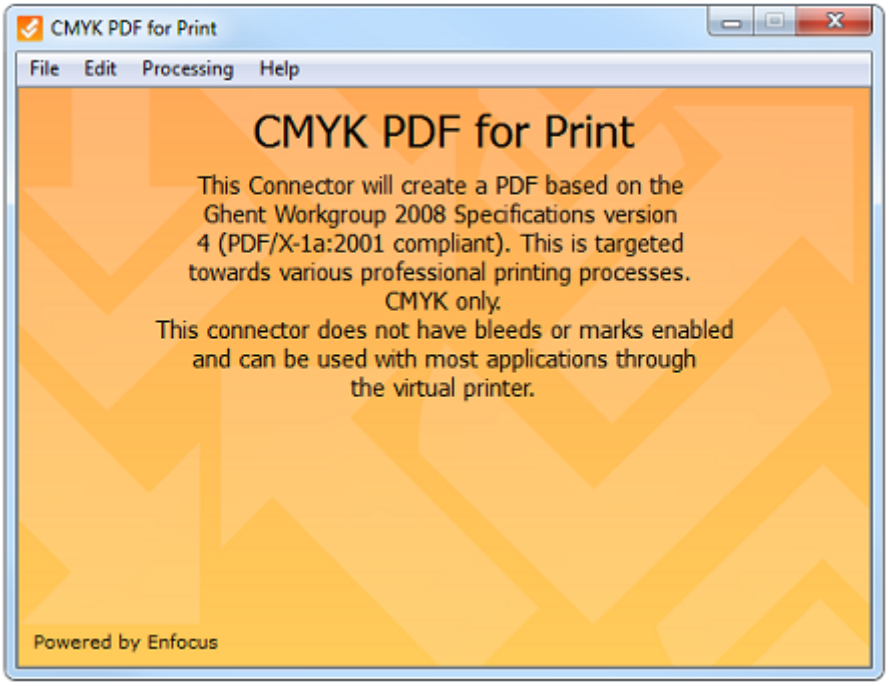
- Connect YOUを使用している場合、Connectorを作成するために使用されるオペレーティングシステムに応じて、（.exeまたは.app形式の）アプリケーションファイルが1つのみ生成されます。
- Connect ALLを使用している場合、2つのアプリケーションファイルが生成されます。1つはWindows用で、もう1つはMac OSX用です。アプリケーションのパッケージが確実にプラットフォーム間で保持されるように、Windows PC上で生成されたMac OSX のConnectorは、自動的に.ZIPファイルに圧縮されます。Connector設

定によっては、さらに2つのアプリケーションが生成される場合があります。例えば、emote_<Connector名>.exeやremote_<Connector名>.app (.ZIPファイルに圧縮)です。これらは小さいバージョンのConnectorで、簡単に配布されるように設計されています。また、初めて起動すると、完全なConnectorをダウンロードしてインストールします。

Connectorの使用

Connectorが作成されると、それが期待通りに機能するかテストできます。

.exe（Windowsの場合）または.app（Macの場合）をダブルクリックしてConnectorを簡単に起動することができます。

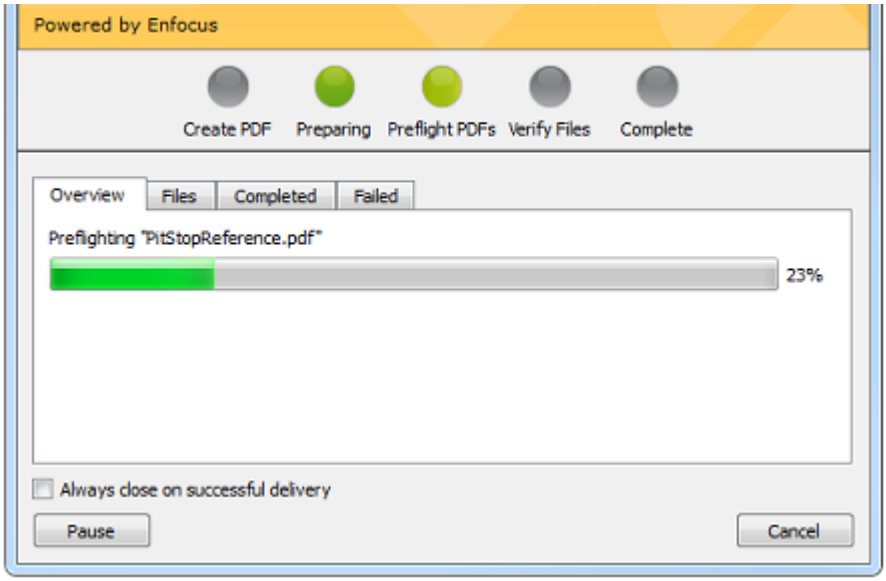


Connectorに仮想プリンタがある場合、またはプラグインダウンロードが有効になっている場合、Connectorの初回起動時にこれらのオプションをインストールするよう求められます。ローカルディレクトリが配信用として選択されている場合、ファイルがConnectorに初めて送信されるときに、その設定を行うよう求められます。

Connectorを使用するには、次を実行する必要があります。

1. 1つ以上のファイルを送信します。以下のことを実行できます。
   - Connector上にファイルをドラッグアンドドロップ、
   - ファイルをConnector仮想プリンタに印刷、
   - Creative Suite/Cloudプラグインからファイルを書き出し。
2. Connectorのプロパティによって1つまたは複数のダイアログがポップアップ表示され、追加情報（配信サーバの認証情報、ジョブ関連の詳細）を入力するよう求められます。
3. Connectorのメインウィンドウの下部（スクリーンショットを参照）に示されている、進行状況を追跡することが可能になります。ConnectorがPDFファイルをプリフライトして検証

するよう設定されている場合、プリフライトの結果が表示され、プリフライトレポートをチェックする機会を得られます。



4. Connectorのプロパティによって、処理済みファイルが自動的に配信されます。または、ローカルファイル保存が有効になっている場合、ファイルを保存するように求められます。

注: これは高レベルの概要です。詳細な説明は、「Enfocus Connectを使用した作業: *Connectorの設定と作成* 28 ページのおよび*Connectorの使用* 120 ページの」に記載されています。

1.3.1. Connectorのプロパティ

Connectorは、Enfocus Connect YOUまたはALLで定義済みの機能を実行するスタンドアロンのアプリケーション（.exeまたは.app）です。

選択したEnfocusバージョンに応じて、次の設定を行うことが可能です。

	YOU	ALL
***Connector*の特徴**		
Connectorの名前	X	X
Connectorのアイコン	X	X
Connectorのバックグラウンド	-	X
カスタムURLリンクの追加	-	X
Connectorのバックグラウンドへのカスタム説明文の追加	X	X
ジョブチケット		
オプションのジョブチケットの有効化	X	X

	YOU	ALL
カスタムジョブチケットのエントリの作成と編集	X	X
PDF作成		
PDF作成の有効化	X	X
使用するPDF作成の設定の有効化	X	X
ブリード、マーク、およびスプレッドの印刷を行うプラグインオプションの有効化	X	X
新規PDFファイルのローカルファイル保存の有効化	X	X
変数に基づいたファイル命名のカスタマイズ	X	X
カスタムPPDファイルのサポート（仮想プリンタでの使用）	X	X
プリフライト		
PDF プリフライトと修正の有効化	X	X
レポート用の優先スタイルの選択	-	X
配信		
リモート配信を有効にする	X	X
HTTP(S)応答システムの有効化	X	X
更新		
自動更新の有効化	-	X
リモートダウンロードの有効化	-	X

2. Enfocus Connect のインストールとアクティベート

このセクションでは、Enfocus Connectのインストールとアクティベートについて説明します。

2.1. インストールの開始前に

システムの要件

システムの要件は、Enfocus Webサイト*http://www.enfocus.com*で確認できます。

ダイレクトリンク:

- Connect YOU : *http://www.enfocus.com/en/products/connect-you/system-requirements*
- Connect ALL : *http://www.enfocus.com/en/products/connect-all/system-requirements*

手順

手順は次のステップで構成されています。

1. アプリケーションのインストール、Enfocus Connectのインストーラを実行して行います。
2. アプリケーションのアクティベート。試用版のアクティベート、または有効なライセンスキーを入力して永続ライセンスのアクティベートを実行できます。

注:

- Enfocus Connecをオンラインまたはオフラインでアクティベートできます。
- Enfocus IDが必要です。
- 以前にEnfocus製品をインストールしていない場合。Connectをオフラインでアクティベートする場合は、まずアプリケーションを初期化する必要があります。「*Enfocus Connectの初期化（オフライン）* 19 ページの」を参照してください。

2.2. Enfocus Connectのインストール

注: Enfocus Connect をインストールし、ライセンスを登録するには、管理者権限が必要です。

Enfocus Connectをインストールする手順

1. 次のいずれかを実行します。
   - Enfocus製品DVDをご使用のシステムのDVDドライブに挿入します。
   - Enfocusから受信したリンクを使用してEnfocus Connectをダウンロードします。

2. 必要に応じて、Enfocus Connectのインストーラの場所を特定してダブルクリックします。
3. 画面に表示されるインストールの指示に従います。

インストールされると、Enfocus Connectをアクティベートする必要があります。

2.3. Enfocus Connect のアクティベート

Enfocus Connectのインストール後、［**Enfocus Connect**のバージョン情報］ウィンドウからアクティベートできます。このウィンドウはEnfocus Connectの初回使用時に自動的にポップアップ表示されます。

次の2つのオプションを選択できます。

- 購入する前にアプリケーションを試用する場合、試用版としてアクティベートできます。このバージョンは15日間（Connect YOU）または30日間（Connect ALL）アクティブ状態で使用できます。
- アプリケーションを購入した場合、永続ライセンスのアクティベートを行うことになります。

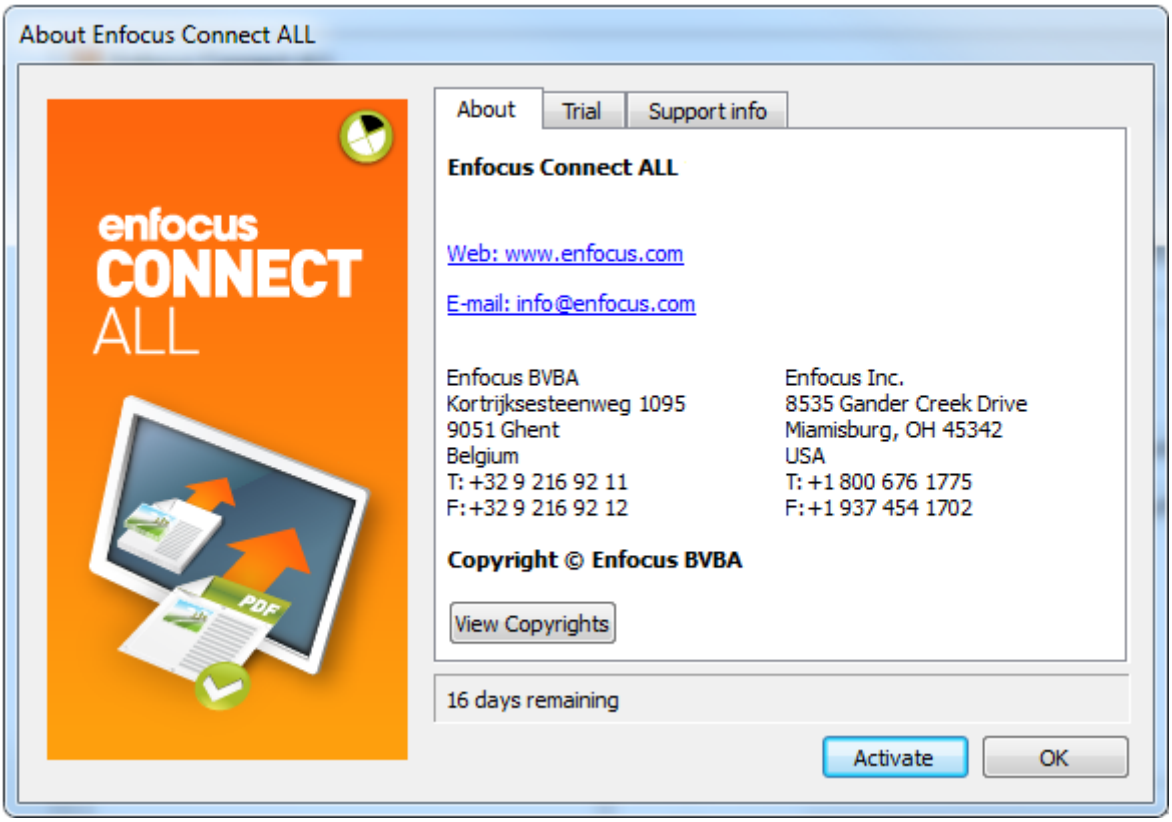
Enfocus Connectをアクティベートするには、（試用版と製品版ともに）次の2つの方法があります。

- Enfocus Connectをインターネットにアクセスできないコンピュータにインストールした場合は、オフラインアクティベーションについてのトピック（試用版のアクティベート（オフライン） 15 ページのおよび*Enfocus Connectのアクティベート（オフライン）* 17 ページの）を参照してください。
- Enfocus Connectをインターネットにアクセス可能なコンピュータにインストールした場合は、オンラインアクティベーションについてのトピック（試用版のアクティベート（オンライン） 14 ページのおよび*Enfocus Connectのアクティベート（オンライン）* 17 ページの）を参照してください。

2.3.1. ［**Enfocus Conenct**のバージョン情報］ウィンドウ

Enfocus Connectを初めて使用するときに、［**Enfocus Conenct**のバージョン情報］ウィンドウが自動的に開きます。このウィンドウでは、ソフトウェアに関する情報が表示され、Enfocus Connect のコピーの試用を開始したり、アクティベートできたりします。

このウィンドウには、**[**ヘルプ**]** > **[Enfocus Connect YOU/ALL**のバージョン情報**]** (Windows) または **[Enfocus Connect YOU/ALL]** > **[Enfocus Connect YOU/ALL**のバージョン情報**]**を選択することによっても、アクセス可能です。



［バージョン情報］タブ

このタブには、ソフトウェアのバージョンおよびEnfocusの連絡先情報が表示されます。また、**[**著作権情報を表示**]**ボタンをクリックすると、著作権情報が表示されます。

［試用版］タブ

このタブでは、ソフトウェアの試用を開始したり、アクティベートを行うことができます。また、アクティベート後にライセンス情報が表示されます。

［サポート情報］タブ

このタブはご使用のシステムの情報を表示します。ソフトウェアの問題が発生した場合は、その情報をEnfocusのサポートに伝える必要があります。

この情報をコピーして貼り付けるには、［クリップボードへコピー］ボタンをクリックしてから、テキストファイルまたは電子メールの本文に情報を貼り付けます。

2.3.2. 試用版のアクティベート（オンライン）

試用版はアプリケーションの完全機能版で、限られた日数の間のみ動作します（Connect YOUは15日間、Connect ALLは30日間使用可能）。

注**:** Enfocus Connectの試用版では、ユーザはConnectorを生成したシステム以外のシステムでConnectorを使用することはできません。これは、Enfocus Connectをイン

ストールしたコンピューターでのみ Connector を使用できるということを意味します。Connectorの配布についての評価を希望する場合は、お近くの*Enfocus*販売店に問い合わせてください。

この手順では、インターネットにアクセス可能なコンピュータで試用版をアクティベートする方法を説明します。

試用版をアクティベートする手順

1. Enfocus Connectを開始します。
   ［**Enfocus Connect**バージョン情報］ウィンドウが自動的に開きます。
2. **[**試用版のアクティベート**]** ボタンをクリックします。
   ［**Enfocus**ソフトウェアアクティベーション］ウィンドウが開きます。
3. **[**オフラインモード**]**チェックボックスがオフになっていることを確認します。
4. Enfocus IDとパスワードを入力します。

   Enfocus IDを持っていない場合、［**Enfocus ID**の作成］リンクをクリックします。フォームへの入力が完了すると、アカウント名とパスワードが記載された電子メールを受信します。

   ［**x**日間の試用版をアクティベート］チェックボックスが自動的にオンになります。
5. **[**アクティベート**]**をクリックします。
6. **[**閉じる**]**をクリックします。
7. **[OK]** をクリックします。

2.3.3. 試用版のアクティベート（オフライン）

試用版はアプリケーションの完全機能版で、限られた日数の間のみ動作します（Connect YOUは15日間、Connect ALLは30日間使用可能）。

注**:** Enfocus Connectの試用版では、ユーザはConnectorを生成したシステム以外のシステムでConnectorを使用することはできません。これは、Enfocus Connectをインストールしたコンピューターでのみ Connector を使用できるということを意味します。Connectorの配布についての評価を希望する場合は、お近くの*Enfocus*販売店に問い合わせてください。

この手順では、インターネットにアクセスできないコンピュータで試用版をアクティベートする方法を説明します。

必要条件**:**

- Enfocus Webサーバーとの通信を行うには、インターネットにアクセス可能な追加のコンピュータが必要です。
- Enfocus IDが必要です。インターネットに接続しているコンピュータでEnfocus IDを作成するには、*http://my.enfocus.com/user/register*に移動し、画面の指示に従います。フォームへの入力が完了すると、アカウント名とパスワードが記載された電子メールを受信します。

- このコンピューターでEnfocus製品をアクティベートするのが初めての場合、アプリケーションをまず初期化する必要があります。*Enfocus Connectの初期化（オフライン）* 19 ページのを参照してください。

動作手順:

Enfocus Connectのオフラインでのアクティベートには3つのステップがあります。

1. Enfocus Connectをインストールしたコンピューター上でアクティベーション要求を作成します。
2. このファイルを、インターネットにアクセス可能な別のコンピューターに保存して、EnfocusアクティベーションWebサイトにアップロードします。Enfocusはこの要求ファイルをチェックして、応答ファイルをユーザに提供します。
3. Enfocus Connectをインストールしたコンピューターに応答ファイルをアップロードします。

これらの各ステップについては以降で説明します。

試用版をアクティベートする手順

1. Enfocus Connectをインストールしたコンピューター上で次の操作を行います。
   a. Enfocus Connectを開始します。
      ［**Enfocus Connect**バージョン情報］ウィンドウが自動的に開きます。
   b. ［試用開始］をクリックします。
      ［**Enfocus**ソフトウェアアクティベーション］ウィンドウが開きます。
   c. **[**オフラインモード**]**チェックボックスがオンになっていることを確認します。
   d. Enfocus IDとパスワードを入力します。
   e. **[**アクティベート**]**をクリックします。
   f. ［オフラインアクティベーション］ダイアログで、［保存］をクリックして、アクティベーション要求ファイル requestactivate.xml をご使用のローカルコンピューターに保存します。

2. インターネットへのアクセスが可能なコンピュータ上で次の操作を行います。
   a. requestactivate.xmlを使用できる状態にします。

      ヒント: requestactivate.xmlをUSBスティックにコピーし、USBをオンラインシステムに接続します。

   b. *http://www.enfocus.com/products/activation?lang=en* にアクセスします。
   c. requestactivate.xmlをアップロードし、**[**続行**]**をクリックします。
   d. アカウントパスワードを入力し、**[**続行**]**をクリックします。
   e. **[**続行**]** をクリックして確認します。
      Enfocus Web サーバーによってresponse.xmlが生成されます。
   f. ファイルをダウンロードします。

3. Enfocus Connectをインストールしたコンピューター上で次の操作を行います。
   a. response.xmlをこのコンピューター上で使用できる状態にします。
   b. ［オフラインアクティベーション］ダイアログ（ステップ1gを参照）の、右の部分で、［読み込み］をクリックしてresponse.xmlをアップロードします。
   c. **[**アクティベート**]**をクリックします。
      Enfocus Connectの試用版アクティベートしました。

d. **[**閉じる**]**をクリックします。

2.3.4. Enfocus Connectのアクティベート（オンライン）

この手順では、インターネットにアクセス可能なコンピュータでEnfocus Connectをアクティベートする方法を説明します。

必要条件**:**

- 有効なプロダクトライセンスキー（製品の販売代理店によって提供されたものか、直接Enfocusから取得したものか、製品パッケージ内に同梱されているもの）が必要です。通常、ライセンスキーはHTMLファイルで提供されます。
- ファイアウォールを使用している場合は、必ずポート80と443を使用してEnfocus Connectと*https://licensingservices.esko.com*との通信を許可します。

Enfocus Connectをアクティベートする手順

1. Enfocus Connectを開始します。
   ［**Enfocus Connect**バージョン情報］ウィンドウが自動的に開きます。
2. **[**アクティベート（**Activate**）**]** ボタンをクリックします。
   [Enfocus ソフトウェア アクティベーション**]** ウィンドウが表示されます。
3. **[**オフラインモード**]**チェックボックスがオフになっていることを確認します。
4. Enfocus IDとパスワードを入力します。
   Enfocus IDを持っていない場合、［**Enfocus IDの作成**］リンクをクリックします。フォームへの入力が完了すると、アカウント名とパスワードが記載された電子メールを受信します。
5. ご使用のプロダクトライセンスキーを提示するには、次のいずれか1つを行います。
   - テキスト領域にプロダクトキーを入力します。
   - テキスト領域にプロダクトキーファイルをドロップします。
   - ［参照］をクリックして、ローカルシステム上の場所からプロダクトファイルを選択します。
6. **[**アクティベート（**Activate**）**]** ボタンをクリックします。
   アクティベーション ウィザードによって、アカウント情報が確認され、ライセンス キーが登録されます。
7. **[**閉じる**]**をクリックします。
8. **[OK]** をクリックします。

2.3.5. Enfocus Connectのアクティベート（オフライン）

この手順では、インターネットにアクセスできないコンピュータでEnfocus Connectをアクティベートする方法を説明します。

必要条件**:**

- Enfocus Webサーバーとの通信を行うには、インターネットにアクセス可能な追加のコンピュータが必要です。
- 有効なプロダクトライセンスキー（製品の販売代理店によって提供されたものか、直接Enfocusから取得したものか、製品パッケージ内に同梱されているもの）が必要です。通常、ライセンスキーはHTMLファイルで提供されます。
- Enfocus IDが必要です。インターネットに接続しているコンピュータでEnfocus IDを作成するには、*http://my.enfocus.com/user/register*に移動し、画面の指示に従います。フォームへの入力が完了すると、アカウント名とパスワードが記載された電子メールを受信します。
- 特定のコンピューターでEnfocus製品をアクティベートするのが初めての場合、アプリケーションをまず初期化する必要があります。「*Enfocus Connectの初期化（オフライン）* 19 ページの」を参照してください。

動作手順**:**

Enfocus Connectのオフラインでのアクティベートには3つのステップがあります。

1. Enfocus Connectをインストールしたコンピューター上でアクティベーション要求を作成します。
2. このファイルを、インターネットにアクセス可能な別のコンピューターに保存して、EnfocusアクティベーションWebサイトにアップロードします。Enfocusはライセンスをチェックし、そのライセンスが有効であれば、応答ファイルをユーザに提供します。
3. Enfocus Connectをインストールしたコンピューターに応答ファイルをアップロードします。

これらの各ステップについては以降で説明します。

Enfocus Connectをアクティベートする手順

1. Enfocus Connectをインストールしたコンピューター上で次の操作を行います。
   a. Enfocus Connectを開始します。
      ［**Enfocus Connect**バージョン情報］ウィンドウが自動的に開きます。
   b. **[**アクティベート**]**をクリックします。
      ［**Enfocus**ソフトウェアアクティベーション］ウィンドウが開きます。
   c. **[**オフラインモード**]**チェックボックスがオンになっていることを確認します。
   d. Enfocus IDとパスワードを入力します。
   e. 次のいずれかの方法でプロダクトキーを入力します。
      - [プロダクトキー]フィールドにプロダクトキーを入力するか、コピーして貼り付けます。
      - プロダクトキーライセンスファイルを参照するか、[プロダクトキー]フィールドにドラッグします。
   f. **[**アクティベート**]**をクリックします。
   g. ［オフラインアクティベーション］ダイアログで、［保存］をクリックして、アクティベーション要求ファイル requestactivate.xml をご使用のローカルコンピューターに保存します。
2. インターネットへのアクセスが可能なコンピュータ上で次の操作を行います。
   a. requestactivate.xmlを使用できる状態にします。

   ヒント**:** requestactivate.xmlをUSBスティックにコピーし、USBをオンラインシステムに接続します。

b. *http://www.enfocus.com/products/activation?lang=en* にアクセスします。
c. requestactivate.xmlをアップロードし、**[続行]**をクリックします。
d. アカウントパスワードを入力し、**[続行]**をクリックします。
e. **[続行]** をクリックして確認します。
Enfocus Web サーバーによってresponse.xmlが生成されます。
f. ファイルをダウンロードします。

3. Enfocus Connectをインストールしたコンピューター上で次の操作を行います。
a. response.xmlをこのコンピューター上で使用できる状態にします。
b. ［オフラインアクティベーション］ダイアログ（ステップ1gを参照）の、右の部分で、［読み込み］をクリックしてresponse.xmlをアップロードします。
c. **[アクティベート]**をクリックします。
Enfocus Connectをアクティベートしました。
d. **[閉じる]**をクリックします。

2.3.5.1. Enfocus Connectの初期化（オフライン）

この手順はEnfocus Connectを初期化する方法を説明します。この手順は、次の場合にのみ必要です。

- Enfocus製品を特定のコンピュータ上で初めて使用する場合。
- Enfocus Connectをオフラインでアクティベートする場合。インターネットへのアクセスができないコンピュータなどを使用している場合です。オンラインアクティベーションの場合、初期化はバックグラウンドで自動的に実行されます。

必要条件**:**

- Enfocus Webサーバーとの通信を行うには、インターネットにアクセス可能な追加のコンピュータが必要です。
- Enfocusアクティベーションアカウントが必要です。アクティベーションアカウントを（インターネットへのアクセス可能なコンピューター上で）作成するには、*http://www.enfocus.com/products/activation/createaccount?lang=en*に移動して画面の指示に従います。フォームへの入力が完了すると、アカウント名とパスワードが記載された電子メールを受信します。

動作手順**:**

Enfocus Connectの初期化には3つのステップがあります。

1. Enfocus Connectをインストールしたコンピューター上で初期化の要求を作成します。
2. このファイルを、インターネットにアクセス可能な別のコンピューターに保存して、EnfocusアクティベーションWebサイトにアップロードします。Enfocusはライセンスをチェックし、そのライセンスが有効であれば、応答ファイルをユーザに提供します。
3. Enfocus Connectをインストールしたコンピューターに応答ファイルをアップロードします。

これらの各ステップについては以降で説明します。

Enfocus Connectを初期化する手順

1. Enfocus Connectをインストールしたコンピューター上で次の操作を行います。

a. Enfocus Connectを開始します。
［**Enfocus Connect**バージョン情報］ウィンドウが自動的に開きます。
b. **[**アクティベート**]**をクリックします。
［**Enfocus**ソフトウェアアクティベーション］ウィンドウが開きます。
c. **[**オフラインモード**]**チェックボックスがオンになっていることを確認します。
d. Enfocusアカウント名とパスワードを入力します。
e. 必要に応じて［**30**日間の試用版をアクティベート］または［プロダクトキーをアクティベート］を選択します。
f. プロダクトキーがある場合は、使用するプロダクトキーを次のいずれかの方法で入力します。
   - [プロダクトキー]フィールドにプロダクトキーを入力するか、コピーして貼り付けます。
   - プロダクトキーライセンスファイルを参照するか、[プロダクトキー]フィールドにドラッグします。
g. **[**アクティベート**]**をクリックします。
h. ［オフライン初期化］ダイアログで、［保存］をクリックして、アクティベーション要求ファイル requestactivate.xml をご使用のローカルコンピューターに保存します。

2. インターネットへのアクセスが可能なコンピュータ上で次の操作を行います。
   a. requestinitialize.xmlを使用できる状態にします。

   ヒント**:** requestinitialize.xmlをUSBスティックにコピーし、USBをオンラインシステムに接続します。

   b. *http://www.enfocus.com/products/activation?lang=en* にアクセスします。
   c. **[**オフラインシステム初期化**]**を選択し、**[**続行**]**をクリックします。
   d. requestinitialize.xmlをアップロードし、**[**続行**]**をクリックします。
   Enfocus Web サーバーによってresponse.xmlが生成されます。
   e. ファイルをダウンロードします。

3. Enfocus Connectをインストールしたコンピューター上で次の操作を行います。
   a. response.xmlをこのコンピューター上で使用できる状態にします。
   b. ［オフライン初期化］ダイアログ（ステップ1hを参照）の、右の部分で、［読み込み］をクリックしてresponse.xmlをアップロードします。
   c. ［初期化］をクリックします。
   Enfocus Connectを初期化しました。

Enfocus Connectを初期化すると、［オフラインアクティベーション］ダイアログが表示されます。直ちにオフラインアクティベーション手順のステップ1g（requestactivate.xmlのダウンロード）に進むことができます。

2.4. 使用するEnfocusライセンスを管理する

Enfocus Connectをインストールすると、Enfocus Connectのライセンス（および適用可能な場合は他のライセンス）を、アプリケーション内で管理できます。たとえば、他のEnfocusライ

センスのステータスをチェックしたり、使用しているEnfocus Connectのライセンスのアクティベート解除や修復をおこなったり、ライセンス情報を書き出したりすることなどが可能です。

2.4.1. ライセンスの修復

ライセンスは、コンピュータ内のハードウェアの識別特性に関連付けられます。ハードウェアを大幅に変更する場合、ライセンスが破損する恐れがあります（例えば、メモリを追加し、ハード ドライブがクラッシュして、さらにネットワーク カードが破損した場合など）。

コンピュータのハードウェアの要素が 3 つ以上同時に変更される場合、ライセンスは無効化され、破損していることを宣言されます。

ライセンスのアクティベートおよびアクティベートの解除と同様に、修復手順はオンラインまたはオフラインで行えます。

オンライン ライセンスの修復の場合、**[Enfocus Connect** について（**AboutEnfocus Connect**）**]** ウィンドウの **[**ライセンス（**License**）**]** タブにある **[**修復（**Repair**）**]** ボタンを押すだけでそれを実行できます。システムがアクティベーション サーバーと通信している間、ステータス バーが表示されます。その後、修復が正常に完了してコンピューターで製品が使用できるようになったことを示すメッセージが表示されます。

オフライン ライセンスの修復は、Enfocus Connect のオフライン アクティベーション解除に非常に似ています。破損したライセンスを含むワークステーションから、**[Enfocus Connect**について（**About Enfocus Connect**）**]** ウィンドウの **[**ライセンス（**License**）**]** タブで修復要求を作成する必要があります。次に、このファイルをインターネット アクセスを介して別のワークステーションに移動し、*http://www.enfocus.com/activation* にアップロードする必要があります。修復応答ファイルを受け取り、Enfocus Connectに読み込んでライセンスを修復する必要があります。

2.4.2. ライセンスをアクティベート解除する

ライセンスをアクティベートする場合と同様に、ライセンスのアクティベーション解除はオンラインでもオフラインでも実行できます。ライセンスを別のコンピューターに移動する前には、アクティベート解除する必要があります。

オンラインのアクティベーション解除では、**[Enfocus Connect** について（**About Enfocus Connect**）**]** ウィンドウの **[**ライセンス（**License**）**]** タブにある **[**アクティベーション解除（**Deactivate**）**]** ボタンを押すだけでそれを実行できます。現在ご使用のライセンスをエクスポートするよう求めるプロンプトが表示されます。これは、後で別のワークステーション上で再アクティベーションする場合にお勧めです。

注: オフライン アクティベーション解除では、**[Enfocus** ソフトウェア アクティベーション**]** ダイアログ ボックスの右上隅にある **[**オフライン モード（**Off-Line Mode**）**]** チェックボックスを選択して、ウィザードの指示に従い続行することができます。

2.4.3. コンピューター間でライセンスを移動する

コンピューター間でライセンスを移動するには、次の手順を実行します

1. 対象のライセンスを今後使用しないコンピューターで、ライセンスをアクティベート解除します。
2. 対象ライセンスを使用する予定のコンピューターに、プロダクト キー ファイルをコピーします。
3. ライセンスを取得するコンピューターで、このプロダクト キー ファイルを使用してライセンスをアクティベートします。

   「*Enfocus Connect のアクティベート* 13 ページの」を参照してください。

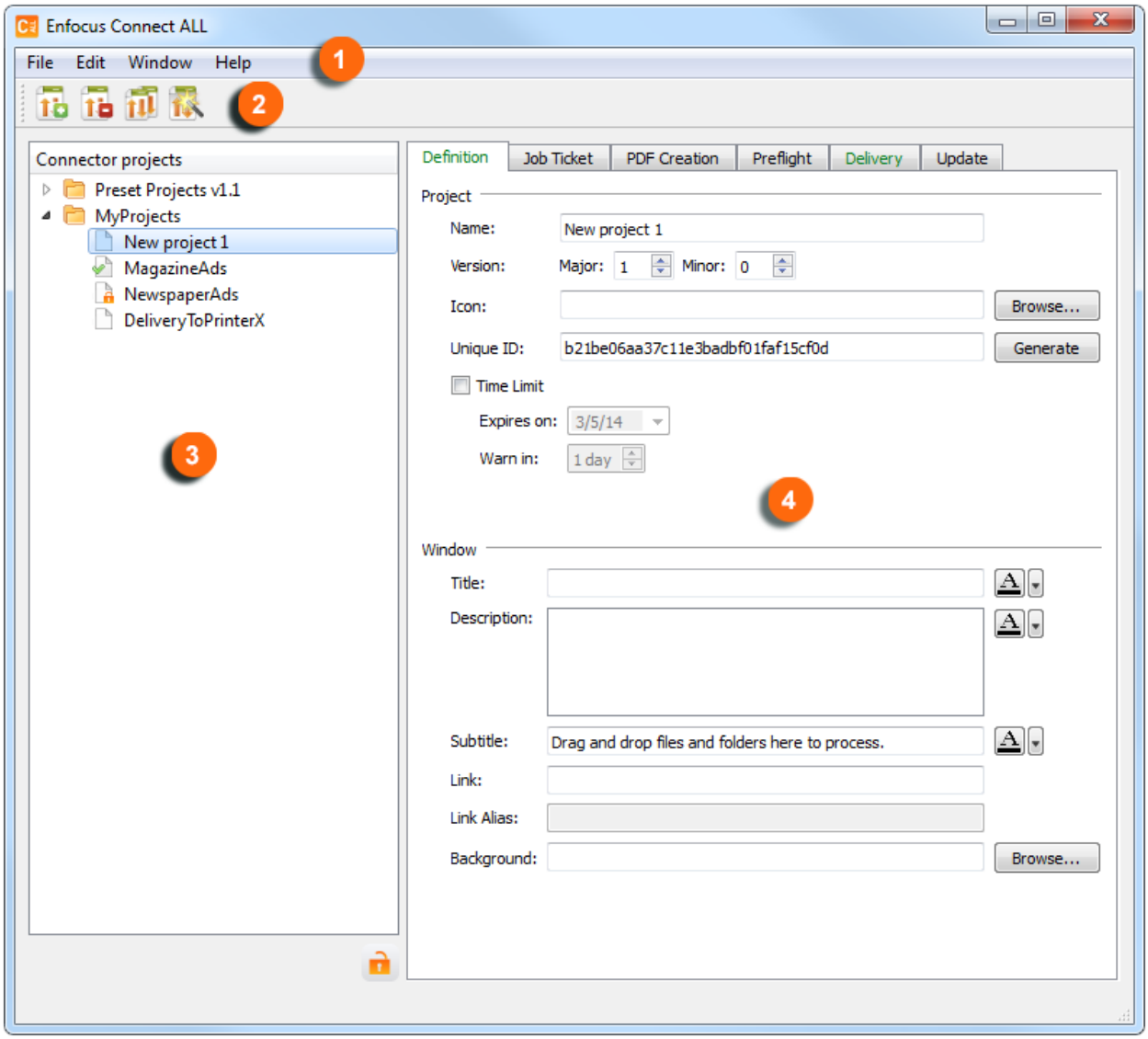
3. Enfocus Connectアプリケーションを使用した作業

このセクションでは、Connector プロジェクトの定義と編集、それらのプロジェクトからConnectorの作成を行うために**Connect**アプリケーションを使用して作業する上で知っておくべき情報をすべて説明します。このセクションを通して、Connectの各エディション（YOU/ALL）別に、含まれている/含まれていない機能を明示します。

3.1. ワークスペースの概要

アプリケーションのメイン画面には次の画面構成要素があります。

1. ウィンドウ上部のメニューバー
2. 複数のボタンを備えたツールバー
3. **Connector** プロジェクトの概要
4. **Connector** プロパティペイン



次の表で、これらの画面構成要素についての簡単な説明を示します。

#	画面の要素	説明
1	メニューバー	メニューバーはEnfocus Connectの各種の機能やペインへのアクセスを提供します。メイン機能の一部には、ショートカットすなわちボタンがツールバーにあります。
2	ツールバー	Connector プロジェクト（つまりConnector定義）を作成、削除または複製するためのボタンや、Connector（実際のアプリケーション: .appまたは.exe）を作成するためのボタンを備えたツールバーです。 • 新しいプロジェクトを作成します。「*Connectorの設定と作成* 28 ページの」を参照してください。

#	画面の要素	説明
		• 選択したプロジェクトまたはグループを削除します。「プロジェクトの削除 33 ページの」を参照してください。 • 選択したプロジェクトを複製します。「プロジェクトの複製 33 ページの」を参照してください。 • 選択したConnector プロジェクトからConnectorを作成します。「*Connector の作成* 30 ページの」を参照してください。
3	**Connector** プロジェクトリスト	［Connector プロジェクトリスト］にはすべての Connector プロジェクトが表示されます。プロジェクトを、たとえばタイプ（雑誌広告と新聞広告で区別）や、顧客別に基づいてグループに整理することができます。 「*Connector プロジェクトの管理* 32 ページの」を参照してください。 いくつかの事前定義されたプロジェクト（プリセットプロジェクト）はEnfocus Connectのインストールに含まれます。これらをそのまま使用したり、必要に応じてカスタマイズすることができます。 「*Connector プロジェクトのプリセット* 26 ページの」を参照してください。 Connector プロジェクトのリストの下にあるアイコンに注目してください。 • 選択したConnector プロジェクトがロックされていて、編集できない状態であることを示します。これにより、ユーザが誤ってConnector プロジェクトを変更することを防げます。 • 選択したConnector プロジェクトがロック解除されていて、必要に応じて編集可能であることを示します。 「プロジェクトのロック 36 ページの」を参照してください。 一部のプロジェクトの前には小さいアイコンがある場合があります。「*Connector プロジェクトリストのアイコン* 27 ページの」を参照してください。
4	**Connector** プロパティペイン	**[Connector** プロパティ**]**ウィンドウでは、リストで選択されたConnector プロジェクトのプロパティを設定できます。 このペインは複数のタブで構成されています。 タブの数と各タブの内容はConnectのバージョンによって変わります。たとえば、［定義］タブはConnect YOUでは常に3つのフィールドのみ（［名前］、［アイコン］、［説明］）を表示します。

#	画面の要素	説明
		タブ上のテキストのカラーは、このタブのプロパティが設定されているかどうかを示します。有効になっているのは緑色タイトルのタブのみです。 概要については、［プロジェクトプロパティ］ペイン - タブ 26 ページのを参照してください。

3.1.1. Connector プロジェクトのプリセット

Enfocus Connectのインストールには、仮想プリンタおよび/またはConnectorプラグインを使用してさまざまなタイプのPDFを作成するための、複数の定義済みConnector プロジェクトをまとめて備えています。これらのプロジェクトには、目的の結果を生成するための定義済みのAdobe PDF設定、アクションリスト、およびプリフライトプロファイルがあります。

これらのプロジェクトはそのまま使用するか、複製したり修正することによって、定義済みプロジェクトに基づく独自のプロジェクトを作成できます。

プリセットプロジェクトの復元

プリセットプロジェクトフォルダを削除し、復元したい場合は、Ctrl+Alt+J (Windows)またはCmd+Alt+J (Mac)ショートカットを使用します。

3.1.2. ［プロジェクトプロパティ］ペイン - タブ

Connector プロジェクトはいくつかのカテゴリに分かれるプロパティのセットで構成されます。各カテゴリには、**[Connector**プロパティ**]**ペインに独自のタブが用意されています。次の表で、それぞれのタブの概要と対応するプロパティの概要を示します。

タブ	プロパティ
定義	プロジェクトプロパティでは、Connectorを識別できます。このセクションには、結果として生じるConnector名と、Mac OSとWindowsの両方に対応するアイコン（*.png）が含まれます。アイコンを指定しない場合、デフォルトのアイコンが使用されます。 ウィンドウプロパティはConnectorのメインウィンドウに関するものです。Enfocus Connect ALLでは、プロパティにタイトル、説明、サブタイトル、Webリンク、および背景画像が含まれます。Enfocus Connect YOUでは、説明フィールドのみが使用可能です。 定義 タブ 42 ページの を参照してください。
ジョブチケット	このタブでは、ジョブチケットが使用されるかどうか、どのグループ、形式、メタデータが使用されるかを定義できます。

タブ	プロパティ
	ジョブチケットタブ 45 ページの を参照してください。
PDF作成	このタブでは、Connectプラグインや仮想プリンタを使用したPDF作成を可能にすることができます。ローカルファイル保存を有効にしたり、変数に基づくファイル名の定義を可能にするなどの、追加パラメータをいくつか設定できます。また、ブリード、マーク、およびスプレッドの印刷を行うためのプラグインオプションを有効化することもできます。 *PDF 作成タブ* 57 ページの を参照してください。
プリフライト	このタブでは、どのプリフライトプロファイルをPDFの承認に使用するかを決めることができます。オプションとして、どのアクションリストおよび変数セットを適用するかについても指定できます。別個の注釈レポートを要求したり、プリフライトエラーに対するサインオフを許可したりするための環境設定をいくつか設定できます。 プリフライトタブ 65 ページの を参照してください。
配信	このタブには、ファイルの配信方法を指定するプロパティが含まれています。Enfocus Switch、FTP、sFTP、電子メールなどさまざまな送信方法を利用できます。1つまたは2つの廃品ポイントを選ぶことができます。 配信 タブ 83 ページの を参照してください。
更新 (Connect YOUでは使用できません)	新しいバージョンのConnectorを利用できる場合に、どのようにConnectorが更新されるかを指定するプロパティです。 更新 タブ 103 ページの を参照してください。

3.1.3. Connector プロジェクトリストのアイコン

読み込まれたConnector プロジェクトが次のアイコンに表示されます。

アイコン	意味
	プロジェクトはロックされています。「プロジェクトのロック 36 ページの」を参照してください。 ロック解除されたプロジェクトにはアイコンがありません。

次のアイコンは、更新がオフのプロジェクトにのみ表示されます。「自動更新メカニズム 104 ページの」を参照してください。

アイコンは、更新サーバーのプロジェクトのステータスを反映します。

アイコン	意味
	更新サーバーにアップロードされたConnectorがプロジェクトに含まています。Connectorは最新です。変更はConnectorへのアップロード後にプロジェクトにありません。
	プロジェクトは変更されましたが、変更はまだ更新サーバーにアップロードされていません。
	エラーでアップロードされたConnectorがプロジェクトに含まています。アップロードが途中でキャンセルされ、ファイルが破損した場合に発生する可能性があります。

3.2. Connectorの設定と作成

Connectorの設定と作成を行う手順は、次のステップで構成されています。

1. Connectorプロジェクトを作成します。*Connector プロジェクトの作成* 28 ページのを参照してください。
2. Connectorのプロパティを設定します。これらのプロパティはConnectorの作成時に、Connectorに含まれます。
   - プロパティの概要については、［プロジェクトプロパティ］ペイン - タブ 26 ページのを参照してください。
   - 手順については、*Connectorのプロパティの設定*を参照してください。
3. Connector を作成します。「*Connector の作成* 30 ページの」を参照してください。

3.2.1. Connector プロジェクトの作成

Connector プロジェクトにはConnectorのすべてのプロパティが含まれています。Connectorを生成する前に、（以下で説明されるように）まずConnector プロジェクトを作成してそのプロパティを設定する必要があります（*Connectorのプロパティの設定*を参照）。

まったく新しいプロジェクトを最初から作成するか、既存のConnector プロジェクトに基づいて作成することができます。

ヒント：プロジェクトを最初から作成する場合、初めに空のConnector プロジェクトを作成します。ただし、既存のConnector プロジェクトをデフォルトに設定している場合は（Connector プロジェクトリストに斜体で表示されます）、新規に作成されたConnector プロジェクトはこのデフォルトのプロジェクトのすべての設定を使用しま

す。これにより、プロパティを定義する時間を省けます。「デフォルトにするプロジェクトの設定 34 ページの」を参照してください。

新しいConnectorプロジェクトを作成するには、次の手順に従います。

1. 新しく作成するには、以下のいずれかを実行します。
   - ツールバーで、（プロジェクトの作成）をクリックします。
   - ［ファイル］メニュー上で、［新規］ > ［新規プロジェクト］をクリックします。
   - ［**Connector** プロジェクト］リストのコンテキストメニューで、［新規プロジェクト］を選択します。

     注: プロジェクトはグループで整理することができます（グループでプロジェクトを整理 33 ページのを参照）。

     - 既存のグループに新規プロジェクトを追加するには、グループのコンテキストメニューを開きます。
     - リスト内の既存のプロジェクトの後に新規プロジェクトを挿入するには、このプロジェクトのコンテキストメニューを開きます。

2. 既存のConnector プロジェクトに基づいて新規プロジェクトを作成するには、次の手順に従います。
   a. ［**Connector** プロジェクト］リストから、新規プロジェクトの基となる［Connector プロジェクト］をクリックします。
   b. 次のいずれかを実行します。
      - ツールバーで、（プロジェクトの複製）をクリックします。
      - ［ファイル］メニュー上で、［複製］をクリックします。
      - 選択したConnector プロジェクトリストのコンテキストメニューで［複製］をクリックします。

新規Connector プロジェクトが作成されます。［**Connector** プロジェクト］リストに表示されます。

注: Connector プロジェクトの名前は、**Connector** プロジェクトリストでダブルクリックするか、**[定義]**タブの**[名前]**フィールドのテキストを編集することによって、変更できます。

3.2.2. Connectorのプロパティの設定

新規Connector プロジェクトの作成後、［Connectorプロパティ］ペインでConnectorのプロパティを設定できます。プロパティはいくつかのカテゴリに分かれています。各カテゴリには、独自のタブが用意されています。

プロパティのカテゴリの概要については、［プロジェクトプロパティ］ペイン - タブ 26 ページのを参照してください。

Connectorのプロパティを設定するには

1. アプリケーションの右側で、さまざまなタブを1つずつ操作し、各タブで該当する機能が必要かどうかを決定します。
   - 特定の機能を使用する場合は、タブの左端で**[<機能>を有効化]**チェックボックスをオンにします。
   - 該当する機能を使用しない場合は、**[<機能>を有効化]**チェックボックスをオフにします。

   詳細については、「Connectorのカスタマイズ」を参照してください。

   有効なタブのタイトルが緑色になり、このタブ上のすべてのオプションが編集可能になります。

2. 有効なタブで、必要な詳細情報を入力します。

   概要については、「<名前>タブの構成」を参照してください。

   注: **[定義]**タブは既定で有効です。このタブのプロパティは任意ですが、1つ以上のConnectorを入力することをお勧めします。

プロパティを設定したら、Connectorを作成できます。

3.2.3. Connector の作成

Connectorのすべてのプロパティを定義すると、Connectorを作成可能になり、すなわち実際のアプリケーションファイルを生成できます。

Connect YOUを使用している場合は、Enfocus Connectを実行しているオペレーティングシステムに対応する1つのファイルのみ（.exeまたは.app）が作成されます。Connect YOUで作成されたConnectorはConnect YOUアプリケーションを実行しているワークステーションでのみ使用できます。

Connect ALLを使用している場合、Windowsで使用されるConnector（.exe）が1つと、Mac OSで使用される（.app）ものが1つ、合わせて2つのファイルが実際に作成されます。アプリケーションのパッケージが確実にプラットフォーム間で保持されるように、Windows PC上で生成されたMac OSX のConnectorは、自動的に.ZIPファイルに圧縮されます。Connectorsは無数の顧客に配信することができます。

注: リモートダウンロードを有効にした場合、さらに2つのファイルが生成される場合があります。例えば、emote_<Connector名>.exeやremote_<Connector名>.app (.ZIPファイルに圧縮)です。これらは小さいバージョンのConnectorで、電子メールなどの通信チャネルでの配布を簡単にします。

Connectorを作成する手順を

1. **[Connector** プロジェクト**]**リストからConnector プロジェクトを選択します。
2. 次のいずれかを実行します。
   a. ツールバーで、［**Connector**の作成］ボタンをクリックします。
   b. メニュー上で、［ファイル］ > ［**Connector** の作成］をクリックします。
   c. 選択したConnector プロジェクトのコンテキストメニューから、**[Connector** の作成**]**を選択します。

3. （**Connect ALL**のみ：Connect YOUユーザーはこのステップをスキップできます。）ポップアップ表示されるダイアログで、任意のオプションを選択し、**[続行]**をクリックします。

Option	意味
ローカル**Connector**: • **MacOS** • **Windows**	選択したConnectorだけが生成され、ローカルシステムに保存されます。例えば、Windowsで使用するためのConnectorだけです。
更新サーバーにアップロード	このオプションは、自動更新システムを使用している場合に適用されます(自動更新メカニズム 104 ページのを参照)。 選択すると、Connectorが更新サーバーにアップロードされます。古いバージョンは新しいバージョンに置換されます。 ヒント：実際にConnectorを更新サーバーに発行し、顧客が使用できるようにする前に、Connectorをローカルでテストすることをお勧めします。 Connectorを作成すると、[アップロード]タブが淡色表示(コンテンツの変更不可)になり、Connectorプロジェクトペインに緑色のチェックマークが表示されます。更新サーバー設定を変更する必要がある場合は、すべての新しいプロジェクトを作成する既存のプロジェクトを複製する必要があります。
設定を記憶する	選択すると、現在の設定がこのダイアログの既定の設定と見なされます。すべてのConnectorプロジェクトで記憶されます。例えば、Windows用Connectorだけが必要な場合、このオプションが既定で選択されるようにすると便利です。 注：このダイアログで設定を有効または無効にする場合、**[設定を記憶する]**オプションが自動的にオフになります。**[設定を記憶する]**チェックボックスをもう一度オンにして、既定にしないかぎり、行った変更は1回だけの変更と見なされます。

4. 問題が発生した場合（あるプロパティフィールドが（正確に）入力されていないなど）、ダイアログがポップアップ表示され、すべてのエラーと警告の内容が示されます。警告またはエラーが表示された場合は、次のいずれかを実行します。

- 問題を解決するには、［キャンセル］をクリックします。

  問題を解決したら、Connectorの作成を再試行します。
- 問題を無視するには（警告の場合のみに可能）、［無視］をクリックして、この手順の次のステップに進みます。

5. 必要に応じて、Connectorの場所を定義します（ローカルConnectorが生成される場合など）。

Connectorが作成され、起動できます。

注:

- Connect ALLを使用している場合、Connectorを検索してダブルクリックして、起動する必要があります。
- Connect YOUを使用している場合、使用可能なプラグインまたは仮想プリンタサポートをインストールするために、Connectorが自動的に起動します。

重要: Connect ALLをご利用の方は、Mac用コネクタには公証の上、Windows用コネクタには署名をしてから配布してください。そうすることで、お客様に信頼できるコネクタであるという安心感を与えることができます。弊社ホームページのドキュメントをご参照ください（*Notarizing Connect ALL Connectors*、 *Signing Connect ALL Connectors*）。

3.3. Connector プロジェクトの管理

現在のConnector プロジェクトは、**Connector** プロジェクトリストに表示されます。Connector プロジェクトはシステム上に作成されたEnfocus Connect用ユーザーアプリケーションサポートフォルダーに自動的に格納されます。プロジェクトの変更内容はすべて直ちに保存されます。

注:

ユーザー アプリケーション フォルダーは次の場所にあります。

- /Users/<###>/Library/Application Support/Enfocus/Connect#ALL###YOU#（Mac OS）
- \Users\<###>\AppData\Roaming\Enfocus\Connect#ALL###YOU#（Windows Vista、Windows 7、Windows 8）
- \Documents and Settings\<###>\Application Data\Enfocus\Connect#ALL### #YOU#（Windows XP、Windows Server 2003）

Connector プロジェクトでは次の処理を実行できます。

- グループを使用して、*Connector* プロジェクトを整理する。
- プロジェクトをロックまたはロック解除する。
- プロジェクトを削除する
- プロジェクトを複製する

- プロジェクトを編集する
- デフォルトのプロジェクトを設定する
- プロジェクトを書き出す、または 読み込む

新規プロジェクトを作成することも可能です。

3.3.1. グループでプロジェクトを整理

［**Connector** プロジェクト］リストでは、グループを作成し、Connector プロジェクトを整理できます。

グループでプロジェクトを整理する方法

1. 新しいグループを作成するには、以下のいずれかを実行します。
   - ツールバーで、［グループの作成］ボタンをクリックします。
   - メニュー上で、［ファイル］ > ［新規］ > ［新規グループ］をクリックします。
   - ［**Connector** プロジェクト］リストのコンテキストメニューで、［新規グループ］をクリックします。
2. グループ名を変更するには、名前をダブルクリックし、新しい名前を入力します。
3. *Connector* プロジェクトをグループに追加するには、追加するプロジェクトをグループにドラッグアンドドロップします。
4. グループを展開または折りたたむには、グループの前のアイコンをクリックします。
   - グループを展開するには をクリックします。
   - グループを折りたたむには をクリックします。

3.3.2. プロジェクトの削除

注: ロックされたプロジェクトは削除できません。「プロジェクトのロック 36 ページの」を参照してください。

Connector プロジェクトを削除する手順

1. Connector プロジェクトリストで、削除するプロジェクトを選択します。
2. 次のいずれかを実行します。
   - Connector プロジェクトリストのコンテキストメニューで、**[削除]**をクリックします。
   - ツールバーで、**[削除]**ボタンをクリックします。
   - メニューで**[ファイル]** > **[削除]**をクリックします。

3.3.3. プロジェクトの複製

Connector プロジェクトの複製手順

1. Connector プロジェクトリストで、複製するプロジェクトを選択します。
2. 次のいずれかを実行します。
   - Connector プロジェクトリストのコンテキストメニューで［複製］をクリックします。
   - ツールバーで、［複製］ボタンをクリックします。
   - メニュー上で、［ファイル］ > ［複製］をクリックします。

3.3.4. プロジェクトの編集

Connector プロジェクトを編集する手順は次のとおりです。

1. Connector プロジェクトリストで、編集するプロジェクトを選択します。
2. ［プロジェクトプロパティ］ペインで目的のプロパティを編集します。「［プロジェクトプロパティ］ペイン - タブ 26 ページの」を参照してください。

注:

Enfocus Connectプロジェクトは自動的に保存されます。

3.3.5. デフォルトにするプロジェクトの設定

新しいプロジェクトを最初から作成する場合（*Connector プロジェクトの作成* 28 ページのを参照）は、空のConnector プロジェクトを作成します。

既存のConnector プロジェクトをデフォルトに設定すると、すべての新しく作成されたConnector プロジェクトでデフォルトプロジェクトのすべての設定が使用され、Connector プロジェクトを定義する時間を節約できます。

Connector プロジェクトをデフォルトに設定する手順

1. Connector プロジェクトリストで、デフォルトに設定するプロジェクトを選択します。
2. 次のいずれかを実行します。
   - Connector プロジェクトリストのコンテキストメニューで［デフォルトの設定］をクリックします。
   - メニュー上で、［ファイル］ > ［デフォルトの設定］をクリックします。

   Connector プロジェクトの名前は斜体で表示され、デフォルトプロジェクトであることを示します。

注: プロジェクトをデフォルトにしないようにする場合は、デフォルトプロジェクトを選択してステップ2を繰り返します。

3.3.6. プロジェクトの書き出し

Connector プロジェクトを書き出すということは、プロジェクトを拡張子.ecpの外部ファイルとして保存することになります。

この操作は、たとえば、次のいくつかの理由がある場合に行うことができます。

- Connector プロジェクトのバックアップを作成するため。
- プロジェクトを他のConnectoユーザと共有するため。

Connector プロジェクトを書き出す手順

1. Connector プロジェクトリストで、書き出すプロジェクトを選択します。
2. 次のいずれかを実行します。
   - Connector プロジェクトリストのコンテキストメニューで［書き出し］をクリックします。
   - メニュー上で、［ファイル］ > ［書き出し］をクリックします。
3. プロジェクトの保存先の名前と場所を指定します。
4. **[**保存**]** をクリックします。

3.3.7. プロジェクトの読み込み

Connector プロジェクトを読み込むということは、拡張子.ecpの外部ファイルを読み込むことになります。この読み込むファイルは、以前に書き出したプロジェクトのバックアップであったり、別のConenctユーザから受け取ったプロジェクトになります。

Connector プロジェクトを読み込む手順

1. 次のいずれかを実行します。
   - **Connector** プロジェクトリストのコンテキストメニューで［読み込み］をクリックします。
   - メニュー上で、［ファイル］ > ［読み込み］をクリックします。

   カーソルの場所によって、読み込まれたConnectorがConnector プロジェクトリストのどこに配置されるかが決まります。

   - グループを選択すると、Connectorはそのグループ（最後）に追加されます。
   - プロジェクトを選択すると、読み込まれたConnectorは選択したプロジェクトの後に配置されます。

   プロジェクトの順序は後で変更できます。その場合、プロジェクトを望む場所までドラッグします。
2. 読み込むConnector プロジェクトを選択します。

3. **[開く]** をクリックします。
   読み込まれたConnector プロジェクトがConnector プロジェクトリストに表示されます。同じ名前を持つConnector プロジェクトがすでに存在する場合、サフィックス「copy」がプロジェクト名に追加され、*Project1 copy*のような名前になります。読み込まれたプロジェクトはデフォルトでロック解除されるため、必要に応じで、直ちに編集できます。

3.3.8. プロジェクトのロック

Connector プロジェクトをロックすると、誤って変更が行われないようにすることができます。ロックされたプロジェクトは編集や変更をしたり、削除したりすることができません。その他のすべてのアクション（書き出し、読み取り、複製、...）は変わらず実行できます。

注: ロックされたプロジェクトの読み込みや複製を行うと、読み込まれた、または複製されたインスタンスは、新しい別のプロジェクトとして見なされます。このプロジェクトはデフォルトではロックされておらず、必要に応じて変更できます。ソースのプロジェクトはそのままの状態でロックされています。

プロジェクトを1つずつロック解除したり、特定のグループに属しているプロジェクトを一回の操作ですべてロックすることができます。

Connector プロジェクトをロックする手順

1. 1つの特定のConnector プロジェクトをロックする場合
   a. Connector プロジェクトリストで、ロックするConnector プロジェクトを選択します。
   b. 次のいずれかを実行します。
      - 選択したConnector プロジェクトを右クリックして、［ロック］を選択します。
      - Connector プロジェクトリストの下で、 をクリックします。
      - ［ファイル］メニュー上で、［ロック］をクリックします。
2. 特定のConnectorグループに属しているすべてのConnectorプロジェクトをロックする場合
   a. Connector プロジェクトリストで、ロックするConnectorグループを選択します。
      選択したグループの下にあるすべてのプロジェクトがロックされます。また、サブグループがある場合は、その中のプロジェクトもロック解除されます。
   b. 次のいずれかを実行します。
      - 選択したConnectorグループを右クリックして、［すべてロック］を選択します。
      - ［ファイル］メニュー上で、［すべてロック］をクリックします。

Connector プロジェクトリストで、ロックされたプロジェクトの前に小さな錠が付いた次のアイコンが示されます: 。ロックされたConnector プロジェクトを選択すると、Connector プロジェクトリストの下のアイコンが に変わっていることが分かります。［プロジェクトプロ

パティ］ペインのフィールドはグレーアウト表示になり、すべての設定が無効になります。必要に応じて、別のタブに切り替えて、設定を確認することができます。

3.3.9. プロジェクトのロック解除

ロックされたプロジェクトは編集や変更をしたり、削除したりすることができません。ロックされたプロジェクトは、Connector プロジェクトリスト内で、アイコン で判別できます。また、プロジェクトを選択するときは、Connector プロジェクトリストの下にあるアイコン で判別可能です。

プロジェクトを1つずつロック解除したり、特定のグループに属しているプロジェクトを一回の操作ですべてロック解除することができます。

Connector プロジェクトをロック解除する手順

1. 1つの特定のConnector プロジェクトをロック解除する場合
   a. Connector プロジェクトリストで、ロック解除するConnector プロジェクトを選択します。
   b. 次のいずれかを実行します。
      - 選択したConnector プロジェクトを右クリックして、［ロック解除］を選択します。
      - Connector プロジェクトリストの下で、 をクリックします。
      - ［ファイル］メニュー上で、［ロック解除］をクリックします。
2. 特定のConnectorグループに属しているすべてのConnectorプロジェクトをロック解除する場合
   a. Connector プロジェクトリストで、ロック解除するConnectorグループを選択します。
      選択したグループの下にあるすべてのプロジェクトがロック解除されます。また、サブグループがある場合は、その中のプロジェクトもロック解除されます。
   b. 次のいずれかを実行します。
      - 選択したConnectorグループを右クリックして、［すべてロック解除］を選択します。
      - ［ファイル］メニュー上で、［すべてロック解除］をクリックします。

Connector プロジェクトリストで、ロック解除されたプロジェクトの前に次のアイコンが付きます（ロックなし）：。ロック解除されたConnector プロジェクトを選択すると、Connector プロジェクトリストの下のアイコンが に変わっていることが分かります。これで必要に応じてConnector プロジェクトを編集できるようになります。

3.4. Connectのユーザ環境設定の設定

Connectのユーザ環境設定を行う手順

1. **[編集]** > **[環境設定]**を選択します。
2. ［ユーザ環境設定］ダイアログで、適切なカテゴリを選択します。
   - 全般
   - 認証
   - アップデート

   対応する環境設定がダイアログの右側に表示されます。
3. 必要に応じて環境設定に入力します。
   次の説明を参照してください。
   - 全般的な環境設定 38 ページの
   - 検証の環境設定 38 ページの
   - アップデートの環境設定 40 ページの
4. **[OK]** をクリックします。

3.4.1. 全般的な環境設定

次の表では、カテゴリ［全般］におけるConenctのユーザ環境設定の概要を示します。

環境設定	意味
言語 - 表示言語	ユーザインターフェイスの言語です。Connectのインストール時に選択した言語から1つを選択できます。
測定単位 - デフォルトの測定単位	プリフライトレポートで使用される測定単位です。これは、［**PDF**作成］タブの［プラグイン設定］セクションのブリードとオフセットにも適用されます。
プロキシ - プロキシを無視	有効になると、Connectorの作成時に、プロキシ設定（を使用している場合）は回避可能になります。

3.4.2. 検証の環境設定

次の表では、カテゴリ［検証］におけるConenctのユーザ環境設定の概要を示します。これらの環境設定はConnector プロジェクトが検証されるとき、つまりユーザが実際のカレンダーを作成しようとするときに適用されます。Connector プロジェクトの設定で特定の警告やエラーがある場合でもConnectorを作成可能にするかどうかも決められます。

環境設定	有効な場合
エラーを警告として処理	エラーが生じてもConnectorの作成は妨げられません。 エラーと警告は同じものとして取り扱われます。問題がある場合にポップアップ表示するメッセージは次のような状態です。 • 「警告」の1つのみのセクションで、エラーと警告の両方が一覧表示されます。

環境設定	有効な場合
	• ［無視］ボタンが有効になります。一覧表示されている警告に関わらず、Connectorを作成できます。 無効の場合（デフォルト値）、エラーを無視することはできません。
警告を無視	警告は単純に無視されます。 警告のみ発生している場合は、メッセージは表示されず、直ちにConnectorを作成できます。 警告とエラーがある場合、エラーについて通知を行うポップアップ表示のメッセージに警告は表示されません。
配信タブエラーを警告に変換	［配信］タブのエラーが警告と同じように取り扱われます。問題がある場合にポップアップ表示するメッセージは次のような状態です。 • エラーは警告の下に一覧表示されます。 • ［無視］ボタンが有効になります。一覧表示されている警告に関わらず、Connectorを作成できます。
プリフライトタブエラーを警告に変換	［プリフライト］タブのエラーが警告と同じように取り扱われます。問題がある場合にポップアップ表示するメッセージは次のような状態です。 • エラーは警告の下に一覧表示されます。 • ［無視］ボタンが有効になります。一覧表示されている警告に関わらず、Connectorを作成できます。
更新タブエラーを警告に変換（Connect ALL）	［更新］タブのエラーが警告と同じように取り扱われます。問題がある場合にポップアップ表示するメッセージは次のような状態です。 • エラーは警告の下に一覧表示されます。 • ［無視］ボタンが有効になります。一覧表示されている警告に関わらず、Connectorを作成できます。

3.4.3. 回復環境設定 (Connect ALL)

この手順は、新しいConnectorプロジェクトの取り込み処理を決定します。手順については、プロジェクトの読み込み 35 ページのを参照してください。

Connector プロジェクトの読み込み中に一意の**ID**を保持...

- 選択：取り込まれたConnectorプロジェクトの一意のIDがそのままです。Connectorプロジェクトを新しいコンピュータに取り込み、以前の状態を保持できます。
- オフ：（デフォルト）取り込まれたConnectorプロジェクトは新しい一意のIDを取得します。

3.4.4. アップデートの環境設定

次の表では、カテゴリ［更新］におけるConenctのユーザ環境設定の概要を示します。

Enfocus Connectは、Connectのアップデートの有無を定期的に自動的に確認できます。Connectによってアップデートの確認が行われる頻度を決められます。また、更新が利用可能な場合に通知を受ける頻度も決められます。

環境設定	意味
更新 - アップデートの確認	Connectがアップデートの確認を行う頻度を決めます。 • 起動時 Enfocus Connectが起動する時に常に確認します。 • 毎日 • 毎週 • 毎月 • 手動 この場合、自動確認は行われません。［ヘルプ］ > ［アップデートの確認］を選択することによって、手動でアップデートの確認を行えます。
更新 - 更新があるときは通知する	Connectの更新について通知する頻度を決めます。 • 起動時 Enfocus Connectが起動する時に常に確認します。 • **1** 日に **1** 回 • **1** 週間に **1** 回 • **1** ヵ月に **1** 回

4. Connectorのカスタマイズ - 機能概要

この章では、Enfocus Connectのさまざまな機能の概要とカスタマイズオプションについて説明します。

- 主要な機能の概要説明。
- 機能を有効にする方法に関するガイドライン。
- 機能を使用する方法に関する情報。

4.1. 表示のカスタマイズ

Enfocus Connectでは、Connectorのブランドを設定し、企業のルックアンドフィールを作成できます。

- Connect YOUユーザーのオプションは少し制限されています。名前、アプリケーションアイコン、Connectorの説明を変更できます。
- Connect ALLユーザーは、さらに、Connectorの背景を変更し、独自の企業ロゴを追加し、外部Webページへのリンクを指定できます。

コンフィギュレーション

Connectorのルックアンドフィールを定義するプロパティは、*[定義]タブ*で設定する必要があります。

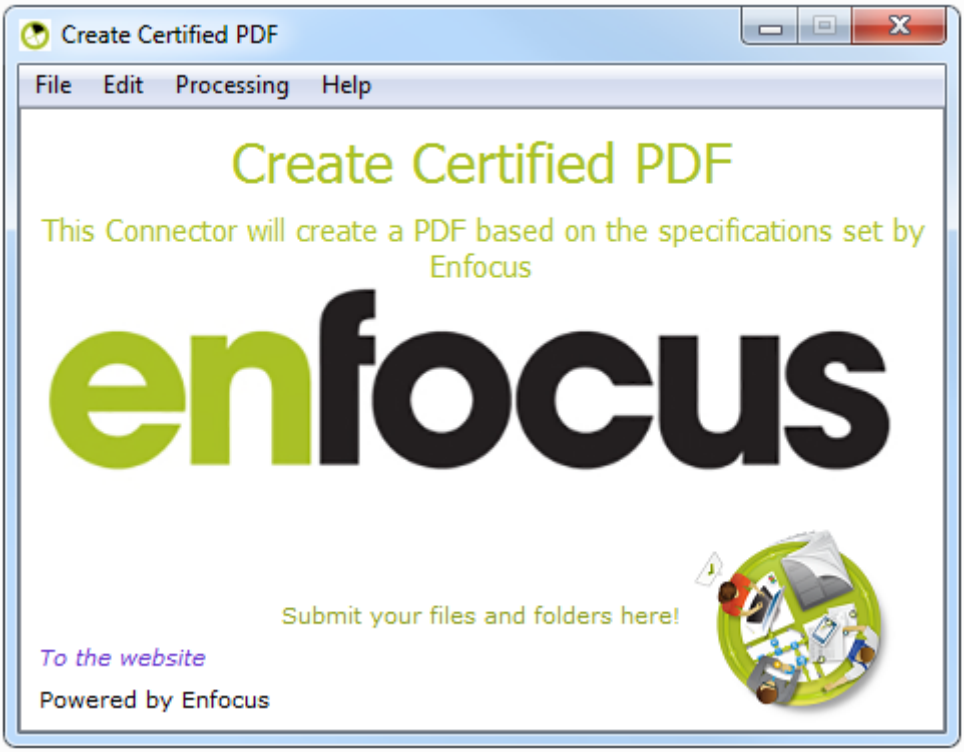
使用

Connectorのルックアンドフィールは、[定義]タブで作成された設定で決定します。更新メカニズムなどを変えずに、後から変更することもできます。

例***(Connect ALL)***

以下にカスタマイズされたConnectorウィンドウの例を示します。

- タイトルバー内の会社別のアイコン（ご使用のオペレーティングシステムのタスクバーにも表示されます）。
- ユーザがConnectorで何ができるかが分かる、意味のあるタイトル（「*Certified PDF*の作成」など）と説明。
- 特定の会社を表すカスタマイズされたバックグランド（会社名とイメージを表示）。
- 会社のカラーに適合する、緑色で表示されるテキスト。
- 会社のWebサイトへのリンク（*Web*サイトへ）。



4.1.1. 定義 タブ

［定義］タブは次の2つのセクションで構成されます。

- **[**プロジェクト**]**セクションのプロパティを使用して、Connectorを識別できます。
- **[**ウィンドウ**]**セクションのプロパティを使用して、Connectorのメインウィンドウの外観を決定できます。

注**:** Connect YOUでは、アスタリスクが付いたプロパティだけを使用できます。

プロパティ	意味
名称*	Connectorの名前。 注**:** *Create PDF*、*Magazine Ads*、*VirtualPrinter*などのわかりやすい名前を使用します。「update」、「install」、「setup」などのキーワードは使用しないでください。Windowsコンピュータで問題が発生するおそれがあります。
バージョン番号（メジャーとマイナー）	自動更新で使用されるバージョン番号。「自動更新メカニズム 104ページの」を参照してください。
アイコン*	アプリケーションアイコン（Connectorがデスクトップに配置されているときなどに表示）。ローカルシステムからアイコンを選択できま

プロパティ	意味
	す。アイコンを設定しない場合、デフォルトのEnfocusアイコンが使用されます。 アイコンは*.pngファイルでなければなりません。最適なサイズは128x128ピクセルです。 ヒント：Connectorのブランディングでは独自の企業スタイルアイコンを使用できます。
ユニーク **ID**	ユニーク IDは自動的に割り当てられます。自動更新で使用されます。「自動更新メカニズム 104 ページの」を参照してください。
使用期間限定	このプロパティによって、Connectorの終了日を設定できます。 **1.** チェックボックスを選択します。 **2.** 終了日を入力します。 **3.** **[**停止の事前告知日**]**値を、2日などに設定します。Connectorは有効期限の2日前にユーザーに警告します。
タイトル、説明*、サブタイトル	Connectorのメインウィンドウに表示されるタイトル、説明、およびサブタイトル。 注：テキストフィールドの色を変更するには、をクリックし、代替色を選択します（Connect ALLのみ）。これはConnector用に濃い色の背景画像を選択していた場合に便利です。
リンク	ここで入力したURLは、クリック可能なWebリンクとして、Connectorのメインウィンドウに表示されます。リンクエイリアスプロパティが入力されている場合、URLではなく、このテキストが表示されます。 ヒント：これを使用すると、Connectorユーザーは企業Webサイトや特定のConnector のヘルプページに簡単にアクセスできます。
リンクエイリアス	「企業Webサイト」などのリンクの代替テキスト。リンクエイリアスが入力されていない場合は、リンクURLが表示されます。
背景	Connector のメインウィンドウの背景画像(*.png)。背景画像の最適サイズは、460 X 310 ピクセルです。画像を選択しない場合、デフォルトのEnfocus背景画像が使用されます。

4.2. ジョブチケット

ファイル（「ジョブ」）がConnectorに送信されるたびに、Connectorが追加情報を要求するように設定することができます。この情報（メタデータと呼ばれます）は、処理済みのジョブと

ともに（バックグラウンドで）XML、TXT、またはCSVファイル（ジョブチケットと呼ばれます）として送信されます。

メタデータはしばしばジョブに関連付けられた管理情報を保存するため、およびそのような情報をシステム間でやり取りするために使用されます。

一般的にメタデータとして保存される情報の例を次に示します。

- 顧客情報**:** 名前、住所、連絡先情報。
- ジョブ情報**:** 日付、設計者、作成日など。

この情報はすべて、コスト計算、追跡、アーカイブなどのプロダクションプロセスで使用できます。

コンフィギュレーション

*[ジョブチケット]タブ*でジョブチケットを有効にして構成する必要があります。

このタブでは、ジョブチケットグループを選択または作成する必要があります。これはテンプレートとして動作し、異なるConnectorで再利用できます。例えば、顧客Xの同じメタデータが常に必要な場合、この顧客のすべてのConnectorで再利用できるジョブチケットグループを作成できます。

注**:** Connect ALLユーザーは追加オプションを使用し、基本ジョブチケットのルックアンドフィールを定義し、カスタムHTMLフォームを内部的に使用するか、ホストフォームへのリンクを使用できます。

Enfocus Switch を使用して作業を行っている場合の注記**:**

- ファイルを*Switch*送信ポイントに配信するConnectorを設定し、メタデータが有効な場合、追加のグループが「送信ポイント」という名前で表示されます。Switch送信ポイントで必要なすべてのメタデータが含まれているため、このジョブチケットグループを使用することをお勧めします。
- 既存のConnectジョブチケットのためにSwitchメタデータを使用する場合は、まず［配信］タブで正しい*Switch*送信ポイントをプライマリ配信ポイントとして定義する必要があります。そうしない場合、Switchメタデータはジョブチケットグループのリストで使用できません。
- Switch送信ポイントから取得されたジョブチケットはEnfocus Connectで編集できません。変更はSwitchで行う必要があります。
- 動的送信ポイント選択（ファイルを送信する際Connectorユーザが送信ポイントを選択します）の場合、メタデータフィールドはConnectに表示されませんが、送信ポイントを選択するとユーザに表示されます。

使用

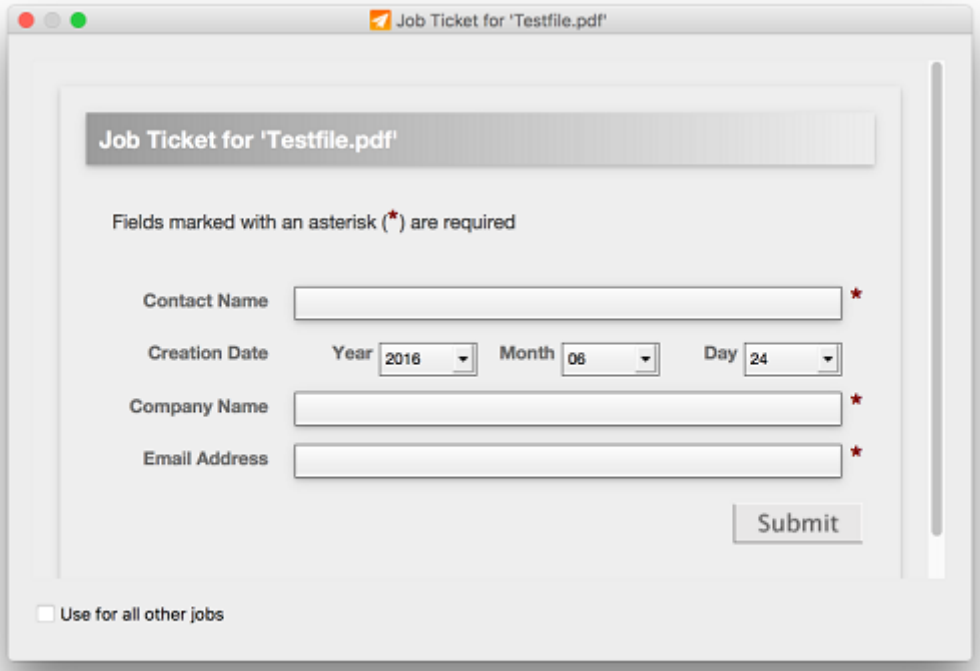
［ジョブチケット］を有効にしてConnectorでファイルが破棄される場合は、ウィンドウがポップアップされ、ユーザは［ジョブチケット］タブで定義されるすべての情報を入力できます。ここで入力するデータは、個別のジョブチケットファイルとして送信されたファイルとともに送信されます（Connectで選択した配信形式）。

例

次の例では、ジョブチケットには、ユーザーが入力する必要がある4つのメタデータフィールドがあります。

- 連絡先の名前

- 作成日 - このフィールドはデフォルトの値で、自動的に入力されています。必要に応じて変更可能です。
- 会社名
- Eメールアドレス



4.2.1. ジョブチケットタブ

[ジョブチケット**]**タブでは、ジョブチケットを構成できます。この機能を使用するには、必ず**[**ジョブチケットを有効にする**]**チェックボックスを選択してください。タブのタイトルが緑色になり、このタブ上のプロパティが編集可能になります。

プロパティ	意味
グループ	Connectorで使用されるジョブチケットグループ。ジョブチケットグループはテンプレートとして機能します。リストからジョブチケットグループを選択するか、作成できます。「新しいジョブチケットグループの作成 47 ページの」を参照してください。 **Enfocus Switch** を使用して作業を行っている場合の注記**:** Switchメタデータを使用したい場合は、［配信］タブで適切な送信ポイントを選択してから、その送信ポイントの名前が付いたジョブチケットグループを選択する必要があります（リストに表示されます）。動的送信ポイント選択（ファイルを送信する際Connectorユーザが送信ポイントを選択します）の場合、**Switch:**動的**....**を選択しま

プロパティ	意味
	す。(読み取り専用) グループ。メタデータフィールドはConnectに表示されませんが、送信ポイントを選択するとユーザに表示されます。
形式 (Connect ALLのみ)	Connectorの表示用のジョブチケットの形式。 注: 選択オプションは、定義セクションの表示を決定します。 • 基本: Connectのデフォルト形式。このオプションを選択すると、ジョブチケット定義をConnectから編集できます。メタデータフィールドと表示（ある程度）を定義できます。*Connectでの基本ジョブチケット定義の編集* 49 ページの および *Connectのジョブチケットのレイアウトの定義* 55 ページの を参照してください。 • ローカル**HTML**: ローカルシステムからアップロードされたHTMLジョブチケット。HTMLファイルと対応するCSSファイルまたは画像を以下の定義セクションからアップロードできます。 • 外部**HTML** : Webサイトなどにリンクされたジョブチケット。パスまたはURLは以下の定義セクションから入力できます。このオプションでは、ジョブチケットを管理できます。たとえば、データベースを統合し、ジョブチケットの入力情報をただちにデータベースに保存できます。外部HTMLサイトでは、ジョブチケットフォームにアクセスする際に基本認証が必要になる場合があります。その場合は、ユーザーがフォームで次に進もうとすると、サイトの認証情報の入力が要求されます。
配信形式	ジョブファイルとともに送信されるジョブチケットの形式。オプション： • メタデータXML (Switchと比較可能なXML形式) • XML（標準XML） • TXT • CSV 注記:ジョブチケットファイルの名前は処理されたジョブファイルの名前です（.XML、.TXT、または.CSV拡張子）。
定義	ジョブチケットの内容： • **Connect YOU**: 編集ボタンを使用すると、Connectでジョブチケットを作成できます。「*Connectでの基本ジョブチケット定義の編集* 49 ページの」を参照してください。ジョブチケットの表示は変更できません。 • **Connect ALL**: 選択した形式 (上を参照) によるこのセクションの内容。「*HTMLジョブチケット定義の編集* 52 ページの」を参照してください。

プロパティ	意味
プレビューボタン	ジョブチケットがConnectorのユーザーに表示されるときの表示を確認できます。プレビューでは、テスト、Connectorワークフロー内でのスマートプリフライトの設定、またはHTMLジョブチケットのメタフィールドの変数への変換で、ジョブチケットを書き出せます。 「ジョブチケットのプレビュー 49 ページの」を参照してください。
プリフライト結果を含めるチェックボックス	これが有効化されると、次の情報が配信されたジョブチケットに追加されます。 • プリフライト状況（失敗または成功） • サインオフ状況 結果として、ファイルが問題なくプリフライト処理を完了したか、またサインオフされたかを知るために、ユーザ側でPDFを開く必要がありません。 注：このオプションはConnect YOUとConnect ALLにおいてのみ、Connect生成ジョブチケットとの組み合わせで使用可能です。配信タブで送信ポイントの切り替えを選択し、ジョブチケットの切り替えグループのジョブチケットタブを選択した場合に、このオプションは表示されません。
ファイル情報を含める	これが有効化されると、次の情報が配信されたジョブチケットに追加されます。 • 文書名 • 文書サイズ（ジョブファイルの場合のみ、フォルダ送信の場合、値は0。） プリフライトプロファイルでは、文書名、文書サイズ、またはその両方を変数セットに追加すると、変数として利用できます（ジョブチケットからの変数の設定 79 ページのを参照）。 注：このオプションはConnect YOUとConnect ALLにおいてのみ、Connect生成ジョブチケットとの組み合わせで使用可能です。配信タブで送信ポイントの切り替えを選択し、ジョブチケットの切り替えグループのジョブチケットタブを選択した場合に、このオプションは表示されません。

4.2.2. 新しいジョブチケットグループの作成

ジョブチケットグループには、ジョブチケットに入力できるメタデータフィールドとプロパティがあります。

新しいジョブチケットグループを作成するには

1. **[**ジョブチケット**]**タブに切り替え、**[**ジョブチケットを有効にする**]**が選択されていることを確認します。
2. **[**グループ**]**リストから、**[**グループリストの編集**]**を選択します。
   すべてのジョブチケットグループのリストが表示されます。
3. をクリックします。
4. 新しい（空の）ジョブチケットグループの名前を入力します。
5. **[**完了**]**をクリックします。
   新しいジョブチケット名がグループリストに表示されます。
6. ジョブチケットのコンテンツの表示を定義するには、ジョブチケットタブのフィールドを入力します。

4.2.3. ジョブ チケットグループの管理

Enfocus Connectでジョブチケットグループを管理するには

1. **[**ジョブチケット**]**タブに切り替え、**[**ジョブチケットを有効にする**]**が選択されていることを確認します。
2. **[**ジョブチケットグループ**]**リストから、**[**グループリストの編集**]**を選択します。
   すべてのジョブチケットグループのリストが表示されます。
3. 必要に応じて次のいずれかを実行します。
   - 新しい（空の）ジョブチケットグループを追加するには、をクリックします。
   - ジョブチケットグループを削除するには、選択してをクリックします。

     注: デフォルトジョブチケット（読み取り専用）やSwitch送信ポイントのジョブチケットグループは削除できません。
   - ジョブチケットグループのコピーを作成するには、選択して、 > 複製をクリックします。
   - ジョブチケットグループの名前を変更するには、選択して、 > 名前の変更をクリックするか、ダブルクリックします。
   - ジョブチケットグループを取り込むか書き出すには（XML形式）、選択して、 > 取り込みまたは書き出しをクリックします。

4. **[完了]**をクリックします。

4.2.4. ジョブチケットのプレビュー

ジョブチケットタブでジョブチケットを定義すると、動作を確認できます。

1. ジョブチケットタブで［プレビュー］をクリックします。
   ジョブチケットはConnectorのユーザーの表示通りに表示されます（プレビューペインでのみ使用可能な書き出しボタンを除く）。

2. ジョブチケットをテストします。たとえば、一部の値を入力し、送信ボタンをクリックすると、入力内容を検証します。

   送信ボタンの設定の詳細については、*HTMLジョブチケット定義の編集* 52 ページのを参照してください。

3. 任意で、書き出しボタンを使用し、チケットの書き出しを作成します。次の3つのオプションを選択できます。

   - 選択した出力形式で書き出し: ジョブチケットタブの配信形式でサンプルジョブチケットを書き出します。これは顧客がレビューするために、またはダウンストリーム統合のためにコピーを必要とする場合に便利です。

   - スマートプリフライトに書き出し: スマートプリフライト変数を定義できる標準XMLでサンプルジョブチケットを書き出します。「ジョブチケットからの変数の設定 79 ページの」を参照してください。

   - 変数に書き出し: HTMLジョブチケットからConnectに入力フィールドを書き出すため、変数として使用できません。つまり、HTMLジョブチケットで定義された入力フィールドはConnectの変数ダイアログで表示され、Connectorプロジェクトで使用できます。たとえば、ジョブチケットには参照番号を取り込むフィールドがある場合は、このフィールドをジョブチケット変数として使用し、変数ファイル名を使用できます。変数は2つの場所で使用できます。

     - **PDF**作成タブで変数ファイル名として。

     - 配信タブでメール設定とHTTP配信（属性値）用。

     変数ダイアログはコンテキストメニュー経由で開けます。

   複数ジョブチケットの場合、書き出しボタンは最後のページまでアクティブになりません。「*HTMLジョブチケット定義の編集* 52 ページの」を参照してください。

4.2.5. Connectでの基本ジョブチケット定義の編集

注: このトピックの適用先

- Connect YOU ジョブチケット
- Connect ALLジョブチケット（形式が「基本」）HTMLジョブチケットはConnectで編集できません。

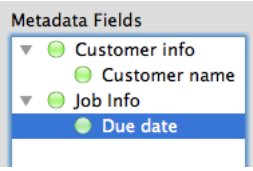
ジョブチケット定義を編集する手順

1. ［ジョブチケット］タブで、タブの下部にある［編集］ボタンをクリックします。
   このボタンが灰色表示の場合、ジョブチケットグループリストから読み取り専用のジョブチケットを選択している可能性があります。

2. 次のいずれかを実行します。
   - メタデータフィールドを追加するには、をクリックします。
   - メタデータフィールドを削除するには、関係するメタデータフィールドを選択して、をクリックします。
   - メタデータフィールドのプロパティを変更するには、必要に応じてプロパティを選択して変更します。

     プロパティの概要については、ジョブチケットメタデータのプロパティ 50 ページのを参照してください。
   - メタデータフィールドの順番を変更するには、フィールドを選択して任意の場所までドラッグします。
   - 依存関係を変更するには、メタデータフィールドを選択し、矢印ボタンを使用して階層内の1つ上（）または1つ下（）に移動します。また、ドラッグアンドドロップでも変更可能です。

     メタデータフィールドが別のメタデータフィールドの「子」の場合、「親」に特定の値がある場合にのみ表示されます。以下の例では、顧客名フィールドは、顧客情報フィールドがオンの場合にのみ使用できます。



3. **[保存]** をクリックします。
   ［ジョブチケット］タブで、［プレビュー］ボタンを使用してジョブチケットを参照したり設定を試すことができます。これはフィールドが適正で、親-子の関係が正常に機能しているかを確認するために非常に役立ちます。「ジョブチケットのプレビュー 49 ページの」を参照してください。

4.2.5.1. ジョブチケットメタデータのプロパティ

注: このトピックの適用先

- Connect YOU ジョブチケット
- Connect ALLジョブチケット（形式が「基本」）。HTMLジョブチケットはConnectで編集できません。

次の表では、ジョブチケットのメタデータフィールドで設定可能なすべてのプロパティを一覧表示します。メタデータのプロパティは［ジョブチケット］タブからアクセス可能です。「*Connectでの基本ジョブチケット定義の編集* 49 ページの」を参照してください。

プロパティ	説明
ラベル	ジョブチケットで、フィールドの前に表示されるラベル。
説明	この説明は、ユーザがConnector内でラベルまたはデータフィールド上にマウスカーソルを置いた場合にツールチップとして表示されます。 簡易説明を入力するには、［入力値］を選択します。段落を入力するには、［複数行のテキストを編集］を選択します。
親が次の場合に表示および親の値	［メタデータ］フィールドに親がある場合にのみ使用できます。ドロップダウンメニューで、親のメタデータフィールド値を以下で設定された値と比較する方法を選択します。使用可能なオプションは親のデータタイプによって異なります。 たとえば、等しい はいに設定し、親のチェックボックスがオンの場合にのみ「子」のメタデータフィールドを使用可能にできます。
データタイプ	フィールドのデータ型です。これは、1行テキスト、パスワード、日付、数値、時間と分、Yes/Noリスト、ドロップダウンリストというオプションが含まれているドロップダウンリストになります。
データ形式	［データタイプ］が1行テキストまたは数値に設定されている場合にのみ使用できます。 正規表現を使用してメタデータ フィールドをフォーマットします。特別なフォーマットを設定しない場合は空欄にします。
データ値および重複を無視	［データタイプ］が「ドロップダウンリスト」に設定されている場合にのみ使用できます。 …をクリックし、ドロップダウン項目のリストを各行に1つずつ入力するか、セミコロン区切りで入力します。 **[重複を無視]**オプションは、ドロップダウンリストに値を2回表示するかどうかを定義します。
デフォルト	フィールドのデフォルト値、チケットが表示されるときの値。 フィールドを空にするには、>をクリックして、リストでなしを選択します。ただし、日時（時間と分）フィールドは空にできません。なしにすると、現在の日時が表示されます。

プロパティ	説明
	ヒント: デフォルトセットに日時フィールドをなしに、読み取り専用をはいに追加すると、ジョブチケットにタイムスタンプが追加されます。
最後の値を記憶	［はい］に設定されている場合、Connectorではこのフィールドにユーザーが入力した最も新しい値が表示されます。
入力必須	［はい］に設定されている場合、Connectorには空白以外の値を入力する必要があります（「データタイプ」が文字列の場合のみ）。
読み取り専用	［はい］に設定すると、このフィールドは編集できません。
メタデータ フィールドを表示	［はい］に設定すると、このフィールドはジョブチケットに表示されます。［いいえ］にすると、非表示になります。必須値のフィールドは非表示にできません。

4.2.6. HTMLジョブチケット定義の編集

Connect ALLでは、ローカルまたは外部HTMLジョブチケットを使用できます。このトピックでは、HTMLの形式とコンテンツについて説明します。

送信ボタンは必須です

Connectと使用するHTMLジョブチケットには<form>要素と1つ以上の送信ボタンがあります。送信ボタンは<input>または<button>要素で定義し、「type」属性を「submit」に設定できます（例を参照）。

```
<input type="Submit" value="Submit Form1" name="submitForm1" />
<button type="submit" name="submitForm" value="SubmitForm">Form Submit</button>
```

送信ボタンは必要です。Connectはこの情報を使用し、セッションを閉じるとき（フォームが送信され、HTMLジョブチケットを書き出すとき）を決定するためです。

次の例では、フォームに3つの入力フィールド（名前、メールアドレス、メッセージ）と、1つの送信ボタン（「送信」）があります。Connectorのユーザーが「送信」ボタンをクリック（フォーム入力後）すると、ジョブチケットが閉じ、フォームの入力データがConnectで取り込まれます。

```
<form method="post">
<input type="text" name="field1" placeholder="Your Name" />
<input type="email" name="field2" placeholder="Email Address" />
<textarea name="field3" placeholder="Type your Message"></textarea>
<input type="submit" value="Send" name="Send" />             <!-- SUBMIT button --->
</form>
```

複数送信ボタン

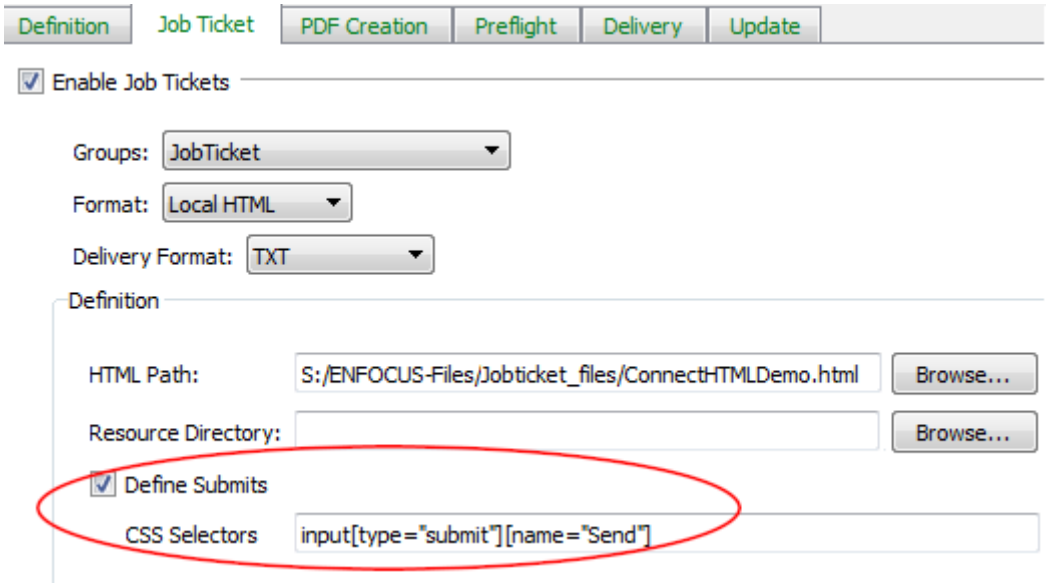
場合によっては、Connectorユーザーが複数ステップでデータを送信することがあり、異なる「submit」があります。以下にその例を挙げます。

- 認証資格情報を送信し、ログイン（最初の送信）し、次に2番目の画面を表示してデータを入力し、送信する必要があります（2回目の送信）。
- データ（ジョブ番号など）を入力し、データベースによって解決されるためにサーバーに送信する必要があります。次に、詳細を入力し、ジョブチケットが最初の送信後に閉じるようにします。

複数の送信ボタンは許可されますが、ジョブチケットタブで送信の定義チェックボックスをオンにし、最後のボタン（セッションを閉じるボタン）を指定する必要があります。最後の送信ボタンを指定するには、そのHTMLタグ（inputまたはbutton）、およびそれを一意に特定する属性（id、name、classなど）を指定する必要があります。

以下の例は必要な形式です。

```
tag[attribute1="value1"][attribute2="value2"]
```



注:

- 最後の送信ボタンが選択されないと、Connectは最初のボタンがクリックされた後にセッションを閉じます。
- 複数の送信ボタンでセッションを閉じると、**CSS**選択フィールドでセミコロンで区切ります。

複数送信ボタンでジョブチケットのプレビュー

Connectでジョブチケットをプレビューすると、書き出しボタンが、Connectが有効な最後の送信ボタンを見つけるとすぐにオンになります。

1つの送信ボタンの場合、書き出しボタンはチケットのプレビュー後アクティブになります。

複数の送信ボタンの場合、各送信ボタンはページの最後です。データが送信されると、次のページが表示されます。最後の送信ボタン（フォームの最後）になると、書き出しボタンがアクティブになります。

属性（外部***HTML***ジョブチケット）

ConnectはURLでの送信に使用できる情報を提供するため、Webサーバーは、Connectorのユーザー言語などに基づいて、表示されるジョブチケットフォームを変更できます。

属性はConnector内部であり、サーバー側のキー値ペアを使用して、Connector属性を決定してから、ユーザーがジョブチケット値を入力するジョブチケットダイアログを表示します。属性にはConnectorでドロップされたジョブ情報があります。これらの属性を変数名に使用しないでください。

次の表では、使用可能なジョブチケット変数の概要を示します。

属性	説明
guid	定義タブで表示されるConnectorの一意のID。
lang	Connector言語。これはユーザーコンピュータのシステム言語とは限りません。
username	システムユーザ名。
jobname	入力ジョブのタイプ（pdf、jpg、psなど）。別のファイルタイプが1つのジョブとして送信されると、値が「composite」になり、名前が複合ジョブで定義された名前になります。フォルダ送信の場合、この変数は空です。
jobtype	入力ジョブのタイプ（pdf、jpg、psなど）。別のファイルタイプ（PDFおよび非PDFファイルなど）が1つのジョブとして送信されると、値が「composite」になり、名前が複合ジョブで定義された名前になります。
jobpath	ジョブのパス。別のファイルタイプが1つのジョブとして送信されると、この変数は空です。
pdforigin	ジョブのオリジン。 • 「1」は、PDFがPostScript から生成されています • 「-1」は、PDFが印刷の結果です
deliverytype	プライマリ配信で使用される配信プロトコルタイプ (FTP、SFTP、HTTP、HTTPS、ローカルフォルダ、SSL)。DropBoxはHTTPSを返し、電子メールはSSLです。

変数としてメタデータフィールドを使用

メタデータフィールド（HTMLジョブチケットで使用）をConnectの変数として使用するには、次のようにします。

1. ジョブチケットのプレビューをします。
2. **[**書き出し**]** > **[**変数への書き出し**]**をクリックします。
3. メタデータフィールドを変数で使用するConnectの場所に移動します。たとえば、PDF作成タブの変数ファイル名フィールドです。

4. 変数ボタンをクリックするかコンテキストメニューから変数を選択します。変数ダイアログ（先頭に%JT）にメタデータフィールドが表示され、他の変数のように使えます。

4.2.7. Connectのジョブチケットのレイアウトの定義

注: このトピックはConnect ALLジョブチケット（形式が「基本」）に適用されます。HTMLジョブチケットはConnectで編集できません。

このトピックでは、Connectで定義する基本ジョブチケットの表示を定義（特定の要素）する方法を説明します。しない場合、標準Connectレイアウトが使用されます。

基本ジョブチケットのレイアウトを定義するには

1. **HTML**レイアウトボタンをジョブチケットの下でクリックします。
2. チケットの背景になる背景画像を選択します。

   サポート形式はPNG、GIF、JPEG（JPEG 2000を除く）です。推奨サイズは460 x 310です。
3. スタイルシート(*.css) と関連ファイル（画像など）のディレクトリを選択します。

   CISはWebコンテンツのスタイルとレイアウトを決める言語です。詳細は、*https://developer.mozilla.org/en-US/Learn/CSS/Introduction_to_CSS*などにあります。このフィールドを空白にすると、デフォルトConnectレイアウトが使用されます。
4. サブタイトルフィールドでジョブチケットの上に追加するテキストを入力します。たとえば、「このジョブチケットを完了してください」です。

   サブタイトルの位置は、カスタムCSSで変更しないかぎり固定です。

   送信したジョブファイルの名前を挿入する場合は、「%1」を使用します。たとえば、「このジョブチケットを%1に対して完了してください」とします。
5. **[OK]** をクリックします。
6. 結果（メタデータフィールドと新しいレイアウト）を表示するには、プレビューボタンをクリックします。ジョブチケットのプレビュー 49 ページの も参照してください。

4.3. PDF作成

PDFをサードパーティ製プラグインや仮想プリンタを介して作成するようにConnectorを設定できます。

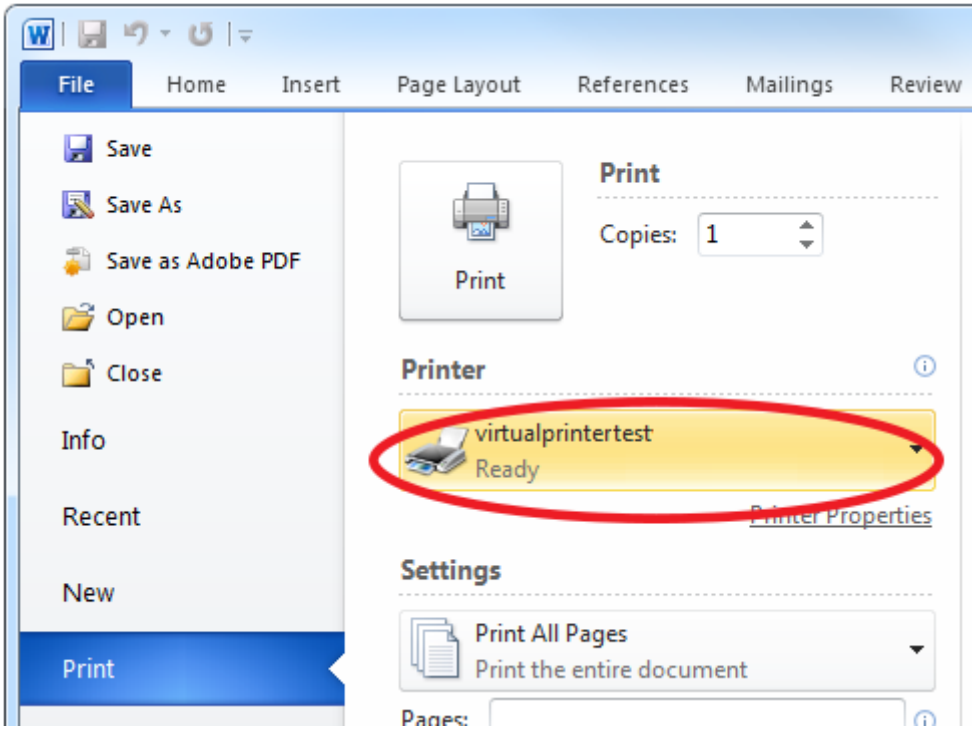
プラグインサポート

Connectorのプロパティで PDF作成が有効になっている場合、Creative Suite/CloudプラグインをサポートするためのバックグラウンドコンポーネントがConnectorに含まれます。ユーザがこれらのプラグインをインストール済みの場合、Adobe InDesignやAdobe IllustratorからPDFファイルを作成することが可能になり、作成したPDFを追加処理するために直接Connectorに送信することもできます。

このため、ユーザがConnectorに送信するファイルの作成や設計をするために使用しているアプリケーションを閉じる必要はありません。アプリケーションの［ファイル］メニューに、追加オプションの［**Connector**に書き出し］があるのが分かります。

仮想プリンタ

［仮想プリンタ］がConnectorプロパティで有効になると、Connectorのユーザはあらゆるアプリケーション（Microsoft Wordなど）から印刷機能を使用して、それらのファイルをPDFに変換して自動的にConnectorへ送信できます。（Connectorの初回起動時にインストールされた）追加のプリンタが、使用しているアプリケーションのプリンタリストにあるのが分かります。



コンフィギュレーション

このオプションは、*[PDF作成]タブ*で有効化および設定する必要があります。

また、例えば次のこともできます。

- PDFの作成にどのPDFプリセットファイルを使用するか指定します。
- ブリード、マーク、スプレッド印刷のためのプラグインを有効にします（これは自動的に行われるため、ユーザの操作介入は不要です）。
- 新規PDFファイルのローカルファイル保存を有効にします（これによりユーザはローカルコピーを得られます）。
- Connectorによって作成され処理されたファイルの名前をカスタマイズします。ファイル名をカスタマイズするために、顧客名や作成日などのカスタムテキストや変数を使用できます。

使用

プラグインサポート：

- Connectのインストール中には、Creative Cloudプラグインをインストールできます。Creative Suiteのその他のプラグインと更新されたプラグインは、Enfocus Webサイトから直接利用できます。
- Enfocus Connectをインストールしていない Connectorのユーザー（一般的にConnect ALLで作成されたConnectorの場合）は、EnfocusまたはConnectorのサプライヤからのサポートプラグインを取得できます（サプライヤは外部顧客とのプラグイン配布を制御し続けることができます）。このように構成されている場合、Connectorが初めて起動するときに、サポートされているプラグインをダウンロードしてインストールするための通知を受信することがあります。この通知はリモートユーザーをEnfocus Webサイトに移動させ、Connectorのプラグインのダウンロード、インストール、および使用手順が表示されます。

インストールすると、エンドユーザーは他社のアプリケーションからPDFファイルを作成し、直接Connectorに送信できます。完全な手順については、*Connectプラグインの使用* 62 ページのを参照してください。

仮想プリンタ：

- 仮想プリンタを含むConnectorを初めて起動する場合は、仮想プリンタドライバをインストールするかどうかが確認されます。これには、PDFを作成するために使用されるPDF設定が含まれます。

インストールすると、エンドユーザーはアプリケーションから直接Connectorに印刷できます。完全な手順については、仮想プリンタの使用 63 ページのを参照してください。

4.3.1. PDF 作成タブ

［**PDF**作成］タブでは、仮想プリンタを介した、およびInDesignおよびIllustrator用のCreative Suite/Cloudプラグインを通したPDFファイル作成のための設定を行うことができます。この機能を使用するには、必ず**[PDF**作成を有効にする**]**チェックボックスを選択してください。タブのタイトルが緑色になり、両方のサブタブのプロパティが編集可能になります。

備考**:**

- ［PDF作成］タブが有効になっている場合、ConnectではConnectorのAdobe Normalizerを使用できます。ConnectではPDFファイルを生成するために追加のソフトウェアは必要ありません。

  Adobe NormalizerはAdobe Distillerで使用されるのと同じ技術およびプロセスであり、高品質PDFを生成します。ただし、プロセスではプリントドライバを使用するアプリケーションが最初にPostScriptファイルを作成する必要があるため、OHPフィルムなどの一部のPDF機能がサポートされない場合があります。Adobe Creative Suiteなどのアプリケーションで、PDFに直接書き出す場合、これらの機能がサポートされることがあります。詳細については、PDF書き出しの詳細に関するレイアウトアプリケーションのマニュアルを参照することをお勧めします。

- [PDF作成]タブが有効になっている場合、このタブで選択される他のオプションに関わらず、Adobe Creative Suite/Cloud製品用のプラグインをサポートするために必要なすべての項目がインストールされます。

PDF設定サブタブ

プロパティ	意味
プリンタ**/PDF** 設定名	これは仮想プリンタの名前になり、PDFを作成するために使用されるアプリケーション（InDesign/Illustrator）内の［プラグイン］ドロップダウンの、PDF設定のファイル名として使用されます。 ヒント**:** *ABC*プリンタへの印刷や*Certified PDF*の作成などの、Connectorのユーザが認識できる意味のある名前を使用します。
Adobe PDF プリセット	仮想プリンタで使用されるAdobe PDFプリセット。 注**:** Connectには一般的なユーザ向けのさまざまな標準的なPDF設定ファイルと、Adobe inDesignと連携して動作するよう特別に設計された設定ファイル（名前にIND4が含まれている設定ファイル）が用意されています。必ず目的の用途に合ったPDFプリセットを使用します。InDesignまたはIllustratorで作成されたPDFプリセットは、仮想プリンタ経由で印刷する他のアプリケーションで機能しない場合があります。Adobe Distiller PDF設定ファイルは、一般的な用途で仮想プリンタを作成するときに使用してください。
仮想プリンタ	選択すると、Connectorのユーザーは直接Connectorに印刷できます。ConnectorユーザーがCreative Suite/Cloud製品のサポートのみを必要としている場合は、このチェックボックスをオフにできます。 PPD (Postscript Printer Description)ファイルは、プリンタで使用されるフォント、用紙サイズ、解像度などを記述するファイルです。既定以外のPPDファイルを使用する場合は、**[PPD**ファイル**]**チェックボックスをオンにし、任意のファイルをアップロードします。このカスタムPPDファイルは、仮想プリンタを使用してConnectorに印刷するたびに使用されます。カスタム設定（ページサイズの変更など）は、ジョブが印刷されるアプリケーションの[印刷]ダイアログに表示されます。
変数ファイル名	このオプションでは、Connectorによって作成または処理されたPDFの名前をカスタマイズできます（たとえば、ファイル名に顧客IDまたはプロジェクト番号を追加するなど）。「*PDFファイル名のカスタマイズ* 61 ページの」を参照してください。 ［変数ファイル名］チェックボックスがオフの場合、ファイル名は変更されず、入力ファイルと出力ファイルが同じ名前になります。
ローカルファイルの保存	選択すると、Connectorのユーザーは処理されたファイルのローカルコピーを保存できます（有効な場合はプリフライト検証後）。 次のオプションは*Connect YOU*で使用できません。 **[**印刷の制限**]**が有効な場合、ユーザーはローカルコピーだけを表示できます。これらは印刷できません。

プロパティ	意味
	注：このオプションはConnect YOUでは使用できません。 [アクションリストの適用]が有効な場合、ローカルで保存する前に、1つ以上のアクションリストを、処理されたファイルの高解像度バージョンに適用できます。例えば、処理されたファイルにバナーまたは透かしを追加して、不正利用から保護できます。 と: アクションリストを追加または削除できるボタン。 と: アクションリストを実行する順序を変更できるボタン。この順番は重要です。順番を変更すると異なる結果につながることがあります。 詳細については、アクションリストについて 73 ページのを参照してください。

プラグイン設定サブタブ

PDF設定調整オプションによって、ブリード、マーク、スプレッドの印刷などのいくつかの一般的な設定を事前定義できます。Connectorのユーザがプラグインを通してAdobe Creative Suite/Cloudアプリケーション（InDesignまたはIllustrator）の1つからファイルを印刷または書き出す場合、ここで設定した選択項目がPDF設定ファイル内の設定よりも優先して適用されます。

注：PDF設定の調整は、Creative Suite/Cloudプラグインの使用時のみにサポートされます。これらの変更は、Connector仮想プリンタを通して印刷されたファイルには適用されません。

プロパティ	意味
プラグインのダウンロード通知	選択すると、Connectorのユーザーは、InDesignまたはIllustrator用のプラグインをダウンロードしてインストールするための通知を受信します。 注：このオプションはConnect YOUでは使用できません。
ファイルパッケージを含む	選択すると、ConnectorのユーザーがInDesignからPDFファイルを書き出すと、デフォルトでファイルパッケージを含めるオプションがオンになります。プラグインのユーザコントロールを有効にする（横のチェックボックス）が選択されてている場合、このオプションは無効にできるため、ファイルパッケージを含めないことができます。 オフの場合、ファイルパッケージを含めるチェックボックスが表示されません。また、古いConnectorがこのオプションがなかったConnectのバージョン（13アップデート1以前）で作成された場合です。 備考：

プロパティ	意味
	• Indesighパッケージファイルが Connectorで許可されることを確認します（配信タブのファイル制限を参照）。 • ユーザーがInDesignで変更し、文書をConnectorにエクスポートすると、明示的に保存しない場合でも、変更バージョンがエクスポートされます。エクスポートの後に変更を保存しない場合は、ユーザーコンピュータのInDesign文書はエクスポートおよび配信された文書とは異なります。
プラグインのユーザコントロールを有効にする	有効になると、Connectorのユーザが、Connectプラグインを介してPDFを書き出す前に、新しいPDF設定ファイルを作成する必要なく、PDF調整の設定を変更できるようになります。
すべてのプリンタのマーク	選択されると、クロップマーク、ブリードマーク、レジストレーションマーク、カラーバー、およびページ情報などのすべてのプリンタマークが追加されます。
クロップ	選択されると、クロップマークが追加されます。クロップ（またはトリム）マークは細い水平方向または垂直方向の線で、ページのトリミングが行われるべき場所を示します。
ブリード	選択されると、ブリードマークが追加されます。ブリードマークは細い線で、定義済みのページサイズ外の印刷画像に追加される領域の量を定義します。これにより、印刷された文書の端部周辺に不要な白い境界線がないようにすることができます。
レジストレーション	選択されると、レジストレーションマークが追加されます。レジストレーションマークはページ領域の外のマーク（クロップマーク、プレート情報など）です。これにより、プリンタが異なる分版をカラー文書内で整列できるようになります。
カラーバー	選択されると、カラーバーが追加されます。カラーバーはCMYKインクと（10%単位で増減する）グレーのティントを表しているカラーの小さい正方形です。
ページ情報	選択すると、ファイル名、ページ番号、現在の日時、カラー分版名が各用紙の左下隅に印刷されます。
太さ	ブリードおよびカラーマークに対して選択した太さを表示します。 注：この設定はInDesignのみに適用可能です。
オフセット	InDesignがプリンタマークを引くべき位置をページの端からの距離で示します。 注：プリンタマークをブリード上に引かれないようにするには、必ずオフセットの値がブリードの値よりも大きくなるように入力してください。

プロパティ	意味
	デフォルトの測定単位はユーザのシステムの地域と言語の設定（［追加の設定］ - ［単位］）によって決まります。たとえば、単位が「ヤードポンド法」の場合、デフォルトの単位は「インチ」にあんります。［編集］ > ［環境設定］ > ［全般］単位を変更できます。
［ブリード］および［文書のブリード設定を使用する］	文書のブリード設定または（このフィールドで指定された）別のブリードの値を使用する必要があります。 ブリードのデフォルトの測定単位はユーザのシステムの地域と言語の設定（［追加の設定］ - ［単位］）によって決まります。たとえば、単位が「ヤードポンド法」の場合、デフォルトの単位は「インチ」にあんります。［編集］ > ［環境設定］ > ［全般］単位を変更できます。
スラグエリアを含める (ブリード用)	選択すると、文書の設定で定義されたスラグエリアを使用してオブジェクトが印刷されます。スラグエリアは、印刷およびブリード領域の外側の領域で、プリンタに対する指示やジョブのサインオフ情報が含まれます。
スプレッドの印刷	選択すると、複数のページが一緒に印刷され、同一シート上にまとめられます。このオプションはInDesignのみに適用可能です。

4.3.1.1. PDFファイル名のカスタマイズ

このトピックでは、構成しているConnectorによって生成または処理されるPDFの名前をカスタマイズする方法について説明します。

1. **[PDF**作成**]**タブで、**[PDF**作成を有効にする**]**チェックボックスがオンの状態で、**[**変数ファイル名**]**チェックボックスをオンにします。
2. 任意のファイル名を入力します。

   固定文字列、変数、またはそれらの組み合わせを入力できます。
3. 変数を入力するには、次の手順を実行します。
   a. ［変数］ボタンをクリックします。

   あるいは、変数ファイル名テキストフィールドを右クリックし、コンテキストメニューから［変数］を選択します。

   b. ［変数を使用］ポップアップで、ファイル名で使用する変数を選択します。

   User Company、Current Document Name、User Name、Time、Unique ID、Date、およびConnector Nameなどの定義済みの変数がいくつか存在します。独自の変数を追加することはできません。

   注: ConnectはPDFファイルに追加された標準PDFメタデータの情報を検索します。

   プロジェクトでジョブチケットをが有効な場合は、これらのジョブチケットで使用されるメタデータフィールドを変数として使用することもできます。これらは[変数の使用]ダイアログの2番目の部分に表示され、「JT」という文字が先頭に付きます。例え

ば、%JTCustomer%です（=ジョブチケットには「Customer」というラベルのメタデータフィールドが含まれます）。現在の値（ダイアログの下部）は、ジョブチケットで選択された既定値です。

c. ［挿入］をクリックします。

d. 別の変数を追加するには、これまでのステップを繰り返します。

カスタマイズされたファイル名の例**:** Processed%User Company%%Date%(変数は記号 % で囲まれます)。実行時に、これは*Processed_Enfocus_250214.pdf*というファイル名になります。

4.3.2. Connectプラグインの使用

Connectorがこの機能をサポートするように設定されている場合のみ（たとえば［**PDF**作成］タブの［**PDF**作成を有効にする］チェックボックスが有効になっている場合）にConnectプラグインが使用可能になることに注意してください。

Enfocus Connectプラグインを使用する手順

1. Connectorに送信される必要がある文書をAdobe InDesignまたはAdobe Illustratorで開きます。

2. InDesignまたはIllustratorでは、**[**ファイル**]** > **[Connector**に書き出し**]**を選択します。

   注**:** このオプションは、アプリケーションのプラグインがインストールされている場合にのみ使用できます。

3. ［**PDF**設定］ドロップダウンで、ファイルの送信先のConnectorの［PDF設定名］を選択します。

   この名前は、［**PDF**作成］タブの［プリンタ**/PDF**設定名］フィールドに入力された名前です。

4. どの［ページ］が書き出されるかを指定します。

   - 文書全体を書き出すには、［すべて］を選択します。
   - 文書の一部のみを書き出すには、［範囲］を選択してページの範囲（1-5など）を定義します。

5. 使用可能な場合は、ファイルパッケージを含めるを有効または無効にします。

   この設定は、ファイルパッケージを含めるがPDF作成タブ（プラグイン設定サブタブ）で有効な場合のみ使用できます。デフォルトは有効であり、［PDF作成］タブのプラグインのユーザコントロールを有効にするが選択されている場合のみ、ユーザがオフにできます。最新バージョンの文書がConnectorに書き出されます（未保存の場合も）。

6. 使用可能な場合、⊟をクリックして、［オプション］セクションを展開するか、適切な設定を選択します。

   このセクションが使用可能になるかどうかは、Connectorの設定に応じて変わります。

   - ［PDF作成］タブの［プラグインのユーザコントロールを有効にする］オプションが有効になっている場合、［オプション］セクションが使用可能です。Connectorのユーザは必要に応じて変更を行えます。

- ［PDF作成］タブの［プラグインのユーザコントロールを有効にする］オプションが無効になると、Connectorのユーザはこれらの設定を変更できず、見ることもできません。Connectorで定義された設定はPDF作成で使用されます。

7. **[OK]** をクリックします。

ファイルは、アプリケーションの「書き出し」機能を使用してPDFとして書き出され、Connectorで定義されたPDF設定が使用されます。「書き出し」機能を使用することで、OHPフィルムなどの追加のPDF機能もサポートできます。プラグインによってバックグラウンドでPDFが作成されると、直接Connectorに送信され、プリフライトや配信などの追加処理が行われます。

Connectプラグインでサポートされるアプリケーションの詳細については、Enfocus Webサイトを参照してください。

注**:** PDF設定名をサードパーティ製アプリケーションプラグインの［**PDF**設定］リストから削除する場合は、PDF設定リストで選択し、Altキーを押し続けます。**[OK]**ボタンが**[**削除**]**に変わります。このボタンをクリックすると、現在選択されているPDF設定名はリストに表示されなくなります。

4.3.3. 仮想プリンタの使用

Connectorがこの機能をサポートするように設定されている場合のみ（たとえば［**PDF**作成］タブの［**PDF**作成を有効にする］と［仮想プリンタ］チェックボックスが有効になっている場合）にConnect仮想プリンタが使用可能になることに注意してください。

仮想プリンタを使用する手順

1. ファイルの印刷に使用するアプリケーションを開きます。
2. Connectorに送信するファイルを開きます。
3. ［印刷］ダイアログを開きます。
4. [プリンタリスト]から、Connector用としてインストールされている［仮想プリンタ］の名前を選択します。

   この名前は、［**PDF**作成］タブの［プリンタ**/PDF**設定名］フィールドに入力された名前です。
5. ［印刷］をクリックします。
   仮想プリンタはPostScriptファイルを作成し、Adobe NormalizerでPDF以外のファイルに変換してから、Connectorに送信します。Connectorのメインウィンドウが自動的に開きます。

Connectorの設定に応じて、追加情報の入力やプリフライトの結果の検証がユーザに対して求められます。

4.4. プリフライト

PDF プリフライトを備えているConnectorを設定することができます。プリフライトによって、特定のEnfocus PitStopプリフライトプロファイルに基づいて、また（オプションで）いくつかの選択したアクションリストに基づいて、PDFをチェックしたり修正することが可能になります。この機能には、カラー、画像解像度、フォント埋め込み、ページ構造その他についてのさまざまなチェックや修正が含まれます。

コンフィギュレーション

このオプションは、*[プリフライト]タブ*で有効化および設定する必要があります。

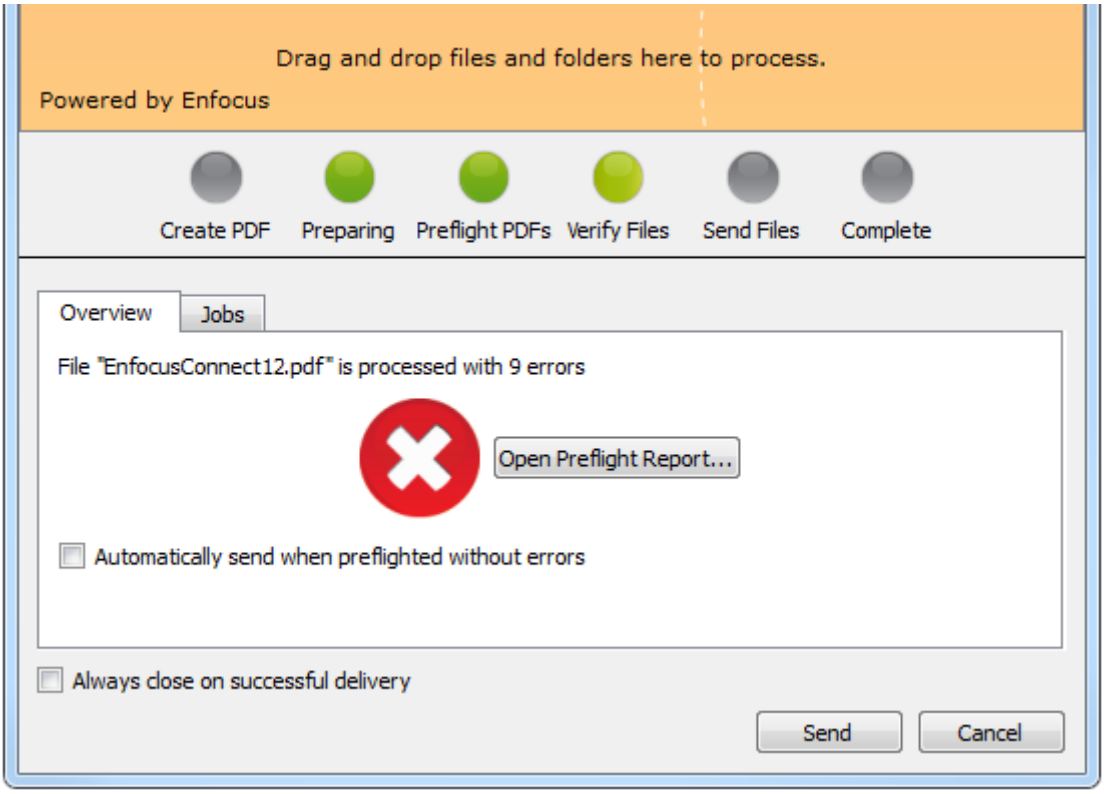
使用

プリフライトがConnectorで有効になると、プリフライトレポートが作成され、Connectorのユーザにはプリフライトの結果に関する情報が提供されます。Connectorのプロパティによって、次のようになります。

- すべての処理済みファイルまたはプリフライトに通ったファイルのみが配信されます
- 設定が有効の場合、ユーザはエラーをサインオフすることができます（エラーについて容認したり注釈を付けたりすることによって、それらのエラーに関係なくPDFがプリフライトに通ることが可能になります）
- 別個の注釈付きプリフライトレポートを（埋め込まれたレポートに加えて）送信することができます
- ...

例

以下に、プリフライトの検証が有効化されていたConnectorの例を示します。アイコン は、送信されたPDFファイルがプリフライトチェックに失敗したことを示しています。Connectorのユーザはプリフライトレポートを確認できます。エラーをサインオフすることはできません（これは未設定です。設定されている場合は、［サインオフ］ボタンが表示されるはずです）が、PDFファイルを配信することは可能です。ただし、［送信］ボタンを使用してもプリフライトに通ることはありません。



4.4.1. プリフライトタブ

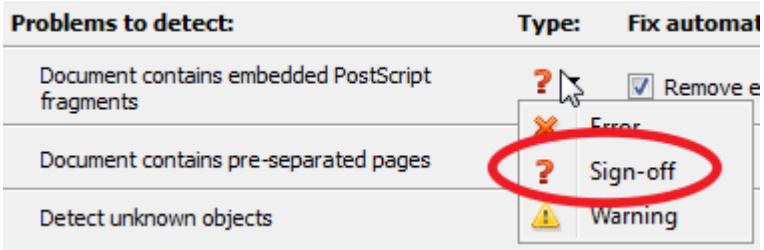
［プリフライト］タブでは、プリフライト処理を有効化して、プリフライト処理に使用するアクションリストとプリフライトプロファイルを決めることができます。この機能を使用するには、必ず**[**プリフライトを有効にする**]**チェックボックスを選択してください。タブのタイトルが緑色になり、このタブ上のプロパティが編集可能になります。

備考**:**

- ConnectはEnfocus PitStopからプリフライトプロファイルとアクションリストを使用します。顧客のプリフライトプロファイルやアクションリストの編集方法または作成方法の詳細については、*Enfocus Webサイトで入手できるPitStop Proのドキュメント*を参照してください。プリフライトプロファイル、変数セット、アクションリストはウィンドウメニューからConnectで編集できます。

プロパティ	意味
選択したアクションリスト	アクション リストとは、いくつかの連続するタスクを 1 つのファイルに保存したものです。たとえば、カラーやオブジェクトを変更するタスクなどです。アクションリストを使用して、定義した順序でタスクを実行します。詳細については、アクションリストについて 73 ページのを参照してください。 選択したアクションリストは、Connectorで処理されるファイルで実行されます。

プロパティ	意味
選択したプリフライトプロファイル	プリフライトプロファイルは、PDF 文書を出力するにあたって満たす必要がある基準をまとめたファイルです。詳細については、プリフライトプロファイルについて 70 ページのを参照してください。 選択したプリフライトプロファイルは、Connectorで処理されるファイルで実行されます。
選択した変数セット	変数セットは、プリフライトプロファイル内で使用できる変数のグループです（固定値の代わりに変数を使用できます）。変数セットとその使用方法の詳細については、スマートプリフライトについて 76 ページの を参照してください。 選択した変数セットは、Connectorを使用してファイルをプリフライトするときに使用されます。
	アクションリスト、プリフライトプロファイル、または変数セットを追加できるボタン。
	選択したアクションリスト、プリフライトプロファイル、または変数セットを削除できるボタン。
	選択したアクションリストをリストの1つ上または下に移動できるボタン。アクションリストは、リストに表示されている順番で実行されます。この順番は重要です。順番を変更すると異なる結果につながることがあります。
カラーマネージメント	選択すると、カラーマネージメントが有効になります。「カラーマネージメントのプロパティの設定 68 ページの」を参照してください。 カラーマネージメントは、プリフライト時および補正時にカラー変換が行われる際、どのICCプロファイルを使用するかを定義できます。これは、デバイス間でカラーの相違を最小限に抑える場合に便利です。カラーマネージメントがConnectorで有効ではない場合、ユーザーのオペレーティングシステムの汎用色変換が使用されます。
プリフライトレポートを送信	選択すると、PDFに埋め込まれたプリフライトレポートの他に、プリフライトレポートの追加のコピーがジョブファイルとともに配信されます。 **注:** 埋め込まれたレポートはPitStop ProまたはStatusCheck（Adobe ReaderおよびAdobe Acrobat用の無料プラグイン）でアクセス可能です。*StatusCheckについて* 80 ページのを参照してください。 Connect ALLのユーザーは、任意のレポートスタイルを選択できます。「*レポートスタイル(Connect ALL)* 69 ページの」を参照してください。ただし、パスワード保護されたジョブファイルの場合、

プロパティ	意味
	このタブで選択したレポートスタイルに関係なく、常に標準レポートが使用されます。
「承認済みの文書を完全に保存」の実行(以前のセッションにロールバックできません)	選択すると（デフォルト値）、前の編集セッションに関する履歴情報がCertified PDFドキュメントに保持されますが、ドキュメントの前の状態に戻すことはできません。このオプションは、Certified PDFドキュメントのファイルサイズを小さくするために推奨されます。Certified PDFの詳細については、*Enfocus WebサイトのPitStop Proマニュアル*を参照してください。
ファイルでのサインオフを許可	選択されると、Connectorのユーザはプリフライトレポートでエラーをチェックすることが可能になり、重要性が高くないと見なせたエラーについてはサインオフつまり容認して、プリフライトをブロックしないようにすることができます。結果として、エラーがほかにない場合、プリフライトのステータスは「Pass」に変わります。 **注:** サインオフは、次で図示しているように、使用されたプリフライトプロファイル内で「サインオフ」と設定されているチェックに対してのみ可能です。 
プリフライトに成功していない **PDF** ファイルの配信を許可	選択すると、プリフライトレポートにエラーがある場合でも、すべてのPDFファイルを配信できます。このオプションがオフの場合、エラーがあるファイルは、配信する前に修正する必要があります。 **注:** このオプションは警告に適用されません。警告の場合、Connectorによる処理済みファイルの配信は停止しません。
プリフライト検証をスキップ	選択すると、検証ステップがスキップされます。Connectorのユーザーにはプリフライト結果に関する通知は表示されず、ジョブは自動的に次のステップに継続します。
ファイル名のプリフライト **ID** を有効化	選択すると、プリフライト結果がファイル名に表示されます。これにより、「_P」(Pass)または「_F」(Fail)をファイル名の最後（拡張子の前）に追加されます。警告が付いたファイルは検証に通ったものとみなされます（「_P」がファイル名に追加されます）。

プロパティ	意味
フォントライセンスの確認を省略する	フォントライセンス制限により、アクションリストまたはプリフライトプロファイルで設定されたフォント操作を行うことができない場合があります。たとえば、アウトラインに変換を行うことができない場合があります。この場合、Connectorは変換を行わず、プリフライトレポートでエラーをトリガーします。 ただし、フォント提供者と契約している場合やライセンス条件を確認している場合には、希望する操作が許可されていることを確認してください。この場合、**[**フォントライセンスの確認を省略する**]**チェックボックスをオンにして、フォントライセンス制限を無効にしてください。ダイアログが表示されます。よくお読みいただき、ご同意のうえ、**[Yes]**をクリックしてください。フォントライセンス制限を遵守する責任があります。**[**フォントライセンスの確認を省略する**]**チェックボックスがオンの場合、Connectorにより、フォントライセンスを確認せずに、フォントライセンス変換が行われます。

右下隅に、PitStopライブラリのバージョンが表示されます。PitStopライブラリでは、Connectに統合されたPDF プリフライトおよび修正機能が使用できます。

4.4.1.1. カラーマネージメントのプロパティの設定

カラーマネージメントのプロパティを設定する方法

1. **[**プリフライト**]**タブに切り替えます(**[**プリフライトを有効にする**]**を選択)。
2. **[**カラーマネージメント**]**チェックボックスを選択し、**[**設定**]**ボタンをクリックします。
3. ［カラーマネージメント］設定ウィンドウで、次のいずれかを実行します。
   - 画像とその他のオブジェクトに対して同じカラーマネージメントの設定を使用する場合は、［全てのオブジェクトに同じ設定を使用］を選択します。［すべてのオブジェクト］タブがラジオボタンの下に表示されます。
   - 画像とその他のオブジェクトに対して別個のカラーマネージメントの設定をを使用する場合は、［画像にはその他のオブジェクトとは異なる設定を使用する］を選択します。［画像］および［その他のオブジェクト］タブが（［すべてのオブジェクト］タブの代わりに）表示されます。
4. カラーマネージメントを使用する場合は、**[**カラーマネージメントを有効にする**]**を有効化して、次の手順に従います。
   a. ソース領域で、グレー、**RGB**、**CMYK**、および**Lab**について目的の ICC プロファイルを選択します。

      注**:** 必要に応じて、選択した **ICC** プロファイルよりも出力インテントを優先するを有効化します。

   b. ［ターゲット］領域で、［ソースと別の **ICC** プロファイルを使用する］を有効化して、［ターゲット］領域の［グレー］、［**RGB**］、［**CMYK**］および［**Lab**］について目的のICCプロファイルを選択します。

注: 必要に応じて、［選択した **ICC** プロファイルよりも出力インテントを優先］を有効化します

c. レンダリングインテントリストからカラーをリマッピングするレンダリングインテントを選択します。

次のリマッピング方法のいずれかを選択できます。

- 定義されたオブジェクト: Enfocus PitStop Proインスペクタの[プリプレス]タブで表示されるオブジェクトのレンダリングインテントを使用します。
- ［相対的な色域を維持］: 色域に含まれないカラーは、同じ明度で異なる彩度のカラーで置き換えられます。
- 絶対的な色域を維持 : 色域に含まれないカラーは色域の境界線にあるカラーに変更されます。変更先の色域で表示できないカラーは失われます。
- 彩度 : 全てのカラーを最も明るい彩度にスケーリングします。彩度 (色度とも呼ばれる) は同じになりますが、一部のカラーは明るくまたは暗くなります。
- 知覚的 : 変更先のカラースペースの色域内で、オリジナルの色域の再スケーリングを行いますが、カラー間の関係は残しています。

d. 画像とその他のオブジェクトに対して別個のカラー設定を選択している場合（ステップ1）、［その他のオブジェクト］タブに切り替えてステップaからcを繰り返します。

5. **CMM** エンジンリストから CMM エンジンを選択します。

次のいずれかを選択できます。

- **Adobe CMM** Adobe Web サイトからダウンロードできます
- システム **CMM**
- **Little CMS**

6. 必要に応じて［ブラックポイント補正を使用］チェックボックスを選択します。

ブラックポイント補正のオプションは、あるデバイス上で実現可能な黒の再も暗いレベルと別のデバイス上で実現可能な黒の再も暗いレベルとの間の差異によって生じる、カラー変換に関する問題に対処するためのAdobe Photoshopの機能です。

4.4.1.2. レポートスタイル(Connect ALL)

Connect ALLでは、ニーズに合ったレポートレイアウトスタイルを選択できます。

3つの注釈付きレポートがあります（最初の3つは次の表を参照）。注釈付きレポートは、オリジナル文書とレポートの組み合わせです。レポート情報はさまざまなメモやブックマークとしてオリジナル文書に統合されているため、Acrobat Readerやブラウザで、Enfocusソフトウェアを使用せずに、簡単にエラーや警告に移動できます。

その他の3つのレポートスタイル（標準、最小、連続）には、オリジナル文書のコピーは含まれません。

レポート スタイル	説明
注釈付きレポート	注釈が付いたレポート。レポートは処理されたPDFのコピーであり、変更と確認に注釈が付きます。
低解像度の注釈付きレポート	低解像度画像を使用した注釈付きレポート。レポートのファイルサイズが小さくなります。
スケーリングされた低解像度の注釈パスワード(最大 A4)	注釈が付いたレポート。文書全体がスケーリングされ、低解像度です。このレポートのページ サイズは A4 サイズを超えず、画像もより小さなサイズに圧縮されます。 注: 電子メールで大きい形式の文書のレポートを送信する場合に有効です。
標準	処理されたPDFを含まないレポート。一般ファイル情報と、修正、失敗、警告、エラーの概要（ある場合）のみが含まれます。
最小	最小情報の標準レポート。
連続	標準レポートのようにトピック間に改ページ（修正と一般ファイルの情報、フォント情報など）を含まない標準レポート。グレースケールで印刷されます。

注: PitStop Proには、保護された注釈付きレポートという追加のレポートスタイルがあります。これは、編集できない、パスワード保護されたレポートです。このレポートタイプは、Connectorを使用してプリフライトされたPDFファイルでは使用できません。

カスタムレポートスタイル

また、独自の個人レポートテンプレートも使用できます。このようなレポートテンプレートがある場合、Connectの[プリフライト]タブの**[プリフライトレポートの送信]**リストで使用できます。

独自のレポートテンプレートを設定する方法については、PitStopレポートテンプレートマニュアル*https://www.enfocus.com/manuals/Extra/CustomReportTemplate/18/home.html*を参照してください

カスタムテンプレートの場所：

- **Windows**: C:\ProgramData\Enfocus Prefs Folder\Report Templates\Custom
- **Mac**: HD/Library/Preferences/Enfocus Prefs Folder/Report Templates/Custom/

4.4.2. プリフライトプロファイルについて

「プリフライト」とは、PDF 文書をさまざまな基準と比較して検証する処理で、PDF 文書が全ての出力条件または出版条件を満たしていることを保証するために行われます。一般的に、この基準は出力プロセスまたは出版プロセスによって異なります。特定のプロセスに求められる条件との比較に使用される基準をまとめたファイルは、プリフライト プロファイルと呼ばれます。

PDF文書をプリフライトできるEnfocus Connectorを作成する場合は、使用するプリフライトプロファイルを指定する必要があります（プリフライトタブ 65 ページのを参照）。Enfocus

Connectとともにインストールされた標準セットからプリフライトプロファイルを使用したり、Enfocus Webサイトからプリフライトプロファイルをダウンロードしたり、独自のプリフライトプロファイルを作成したりすることが可能です。

4.4.2.1. プリフライトプロファイルのダウンロード

Enfocus Web サイトからプリフライトプロファイルをダウンロードできます。

次の手順に従います。

1. *www.enfocus.com* > サポート > プリフライトプロファイル の順にアクセスします。
2. 必要なプリフライトプロファイルをダウンロードして、ローカルシステムに保存します。
3. ダウンロードしたプリフライトプロファイルをEnfocus Connect YOUまたはConnect ALLで使用する手順
   a. ご使用のConnector プロジェクトの［プリフライト］タブで、［プリフライトを有効にする］チェックボックスが選択されていることを確認します。
   b. ［選択したプリフライトプロファイル］セクションで、 ボタンをクリックします。
   c. ［ファイルから］ラジオボタンを選択します。
   d. ［参照］をクリックして、ダウンロードされたプリフライトプロファイル（ファイル拡張子が*.ppp）を選択します。
   e. **[OK]** をクリックします。

4.4.2.2. プリフライトプロファイルを変更または作成する

Enfocus Connect内からプリフライトプロファイルを作成/変更する手順

1. ［ウィンドウ］ > ［**Enfocus**プリフライトプロファイルパネルの表示］ を選択します。

   ［プリフライトプロファイルパネル］が表示されます。ボタンをクリックすると、使用可能なオプションが表示されます。
2. 次のいずれかを実行します。
   - 新しいプリフライトプロファイルを最初から作成するには、 > **[**新規**]** > **[**新規**]**を選択します。
   - 既存のプロファイルに基づいて新しいプリフライトプロファイルを作成するには、プロファイルを選択して > **[**複製**]**または > **[**新規**]** > **[**次を基に新規（選択）**]**を選択します。
   - 既存のプリフライトプロファイルを編集するには、プロファイルをダブルクリックするか、 > **[**編集**]**を選択します。

   プリフライトプロファイルエディタが表示され、プリフライトプロファイルの設定を定義できます。「プリフライトプロファイルの設定の定義」を参照してください。

プリフライトプロファイルの設定の定義

注: ここでは、プリフライトプロファイルの定義で必要なさまざまな手順の概要を説明します。詳細については、*Enfocus WebサイトのPitStop Pro製品ページ(マニュアルの下)*をご覧ください。

プリフライトプロファイルの設定を定義する手順（新規または既存のプロファイル）

1. **Enfocus**プリフライトプロファイルエディタを開きます。

   プリフライトプロファイルを変更または作成する 71 ページの を参照してください。

2. **[設定] > [全般]** カテゴリでプリフライト プロファイルの **[プロパティ]** を確認し、必要に応じて、プリフライト プロファイルの **[名前]**、**[作成者]**、**[会社名]**、**[説明]** を変更します。

   a. **[権限]** セクションでは、プリフライト プロファイルを部分的にロックしてパスワードを設定することを選択できます。また、修復やサインオフを許可したり、修復のログ、プリフライトレポート、カラーマネージメント設定を変更することを可能にできます。

   b. **[問題の処理]** セクションでは、エラーが発生したときにどうするかを決定できます。修復を許可したり、サインオフを許可したり、修復のログの変更を可能にしたりすることができます。

   c. **[プリフライトレポート]**セクションでは、プリフライトの詳細とともに、フォント、カラー/カラースペース、ページボックス、画像、OPIおよび出力インテントに関する情報を含めることを選択できます。

3. **[セットアップ] > [カラー マネジメント]** カテゴリで、カラー マネジメントの設定を定義できます。

   また、プリフライトプロファイルの修正をすべて有効化/無効化することも可能です。さらに、修正を複数個指定したプリフライトプロファイルを作成し、それらの修正を無効にすることもできます。これは、現在は PDF 文書をチェックするだけで、修復は後になって行う可能性がある場合に利用できます。

4. 設定 **>** 制限カテゴリでは、必要な制限を定義できます。

   制限は、プリフライトチェックの範囲を制限する方法です。すべてのチェックを文書全体に適用するのではなく、各チェックに対してチェックを実行するPDFの部分を定義できます。これは、PDFページボックス、特定のページ、PDFの特定の領域または特定の要素、またはPDFファイル内の異なるレイヤーにすることができます。制限はアクションリストとアクションの選択のみで定義されます。独自の制限アクションリストを作成するか、PitStopにインストールされている定義済みのすぐに使える制限アクションリストを作成できます。これらの制限を使用するには、プロファイルにインポートする必要があります。

5. チェックオンの下で、PDF標準またはドキュメントなどのカテゴリをクリックします。

6. このカテゴリのチェック（の一部）を特定の選択に制限するかどうかを決定します。

   - チェックが文書全体に適用される場合は、制限なしがタブの左上端のリストから選択されます。

- チェックが文書の特定の部分に適用される場合は、タブの左上端のリストから制限を選択します。リストにはない制限が必要な場合は、新しい制限をインポートします。

7. **<**選択した制限**>**のチェックを有効化または制限なしでチェックを有効化ボックスを必要に応じて選択します。これで、ペインの左側のチェックがアクティブになります。灰色で表示されなくなります。

8. PDF/X Compliancy（PDF標準カテゴリ）またはBinding（文書カテゴリ）など、プリフライトプロファイルに追加するプロファイルチェックをダブルクリックします。チェックに関する詳細情報を見るには、マウスカーソルを上に合わせます。追加情報のツールチップが表示されます。有効なチェックは右側に表示されます。

9. 検出された問題をプリフライトレポートにリストする方法を、**[**警告**]**、**[**サインオフ**]**、または**[**エラー**]**から選択します。

   注**:** 問題が［サインオフ］に設定されている場合、ユーザは問題を警告として処理してサインオフするか決めることができます。これにより、PDFをプリフライトに通すことができます。「プリフライト結果の検証 137 ページの」を参照してください。

10. 必要に応じて、問題の修復方法を指定します。

11. 固定値の代わりに動的値を使用する場合は、をクリックして変数名を有効にし、該当する変数を選択します。

12. プリフライトレポートに表示されるメッセージをカスタマイズする場合は(非技術的な言語を使用する場合など)、をクリックして、必要に応じて変更します。

13. チェックおよび修復する各カテゴリに対して、手順5から12までを繰り返します。

14. 必要に応じて、追加の下で、アクションリストをプリフライトプロファイルに追加できます。

15. **[OK]** をクリックします。

4.4.3. アクションリストについて

アクション リストとは、いくつかの連続するタスクを 1 つのファイルに保存したものです。たとえば、カラーやオブジェクトを変更するタスクなどです。アクションリストを使用して、定義した順序でタスクを実行します。

1つ以上のアクションリストを実行するEnfocus Connectorを作成する場合は、プリフライトタブ 65 ページので使用されるアクションリストを指定する必要があります。Enfocus Connectとともにインストールされる標準セットからアクションリストを使用するか、Enfocus Webサイトからアクションリストをダウンロードできます。

Enfocus Connectでは、アクションリストを使用して、処理されたファイルのローカルコピーを不正利用から保護することもできます。*PDF 作成タブ* 57 ページのを参照してください（[アクションリストを適用]チェックボックス）。

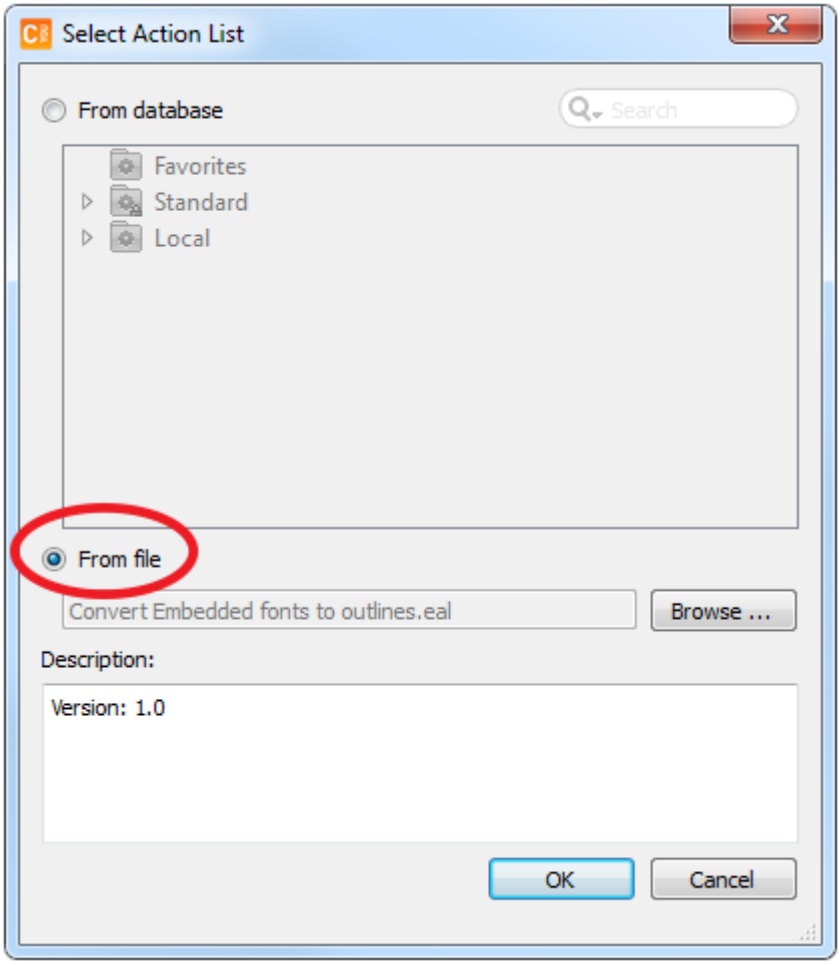
13更新1以降から、Enfocus Connectで直接アクションリストを作成および編集できます。PitStop Proは必要ありません。アクションリストの作成と修正 75 ページのを参照してください。

4.4.3.1. アクションリストのダウンロード

Enfocus Webサイトからアクションリストをダウンロードできます。

次の手順に従います。

1. *http://www.enfocus.com/en/support/action-lists/*に移動します。
2. 必要なアクションリストをダウンロードして、ローカルシステムに保存します。
3. ダウンロードしたアクションリストをEnfocus Connect YOUまたはConnect ALLで使用する手順
   a. ご使用のConnector プロジェクトの［プリフライト］タブで、［プリフライトを有効にする］チェックボックスが選択されていることを確認します。
   b. ［選択しアクションリスト］セクションで、 ボタンをクリックします。
   c. ［ファイルから］ラジオボタンを選択します。
   d. ［参照］をクリックして、ダウンロードされたアクションリスト（ファイル拡張子が*.eal）を選択します。
   e. **[OK]** をクリックします。



4.4.3.2. アクションリストの作成と修正

Enfocus Connect内からプアクションリストを作成/変更する手順

1. **[ウィンドウ] > [Enfocus** アクションリスト パネルを表示**]**を選択します。

   [アクションリストパネル] が表示されます。ボタンをクリックすると、使用可能なオプションが表示されます。

2. 次のいずれかを実行します。

   - 新しいアクションリストを最初から作成するには、 > **[新規] > [新規]**を選択します。
   - 既存のアクションに基づいて新しいアクションリストを作成するには、プロファイルを選択して > **[複製]**または > **[新規] > [次を基に新規（選択）]**を選択します。
   - 既存のアクションリストを編集するには、プロファイルをダブルクリックするか > **[編集]**を選択します。

   アクションリストエディタが表示され、アクションリストの内容を定義できます。「アクションリストの設計 76 ページの」を参照してください。

アクションリストの設計

注: ここでは、アクションリストの設計に関するさまざまな手順の概要を説明します。詳細については、*Enfocus WebサイトのPitStop Pro製品ページ(マニュアルの下)*をご覧ください。

アクションリストを設計するには（新規または既存）：

1. **[Enfocus**アクションリストエディタ**]**を開きます。

   「アクションリストの作成と修正 75 ページの」を参照してください。

2. アクションリストにアクションを追加するには**:**

   a. <<をクリックし、画面の左部分を展開します。
   すべての使用可能なアクションの概要が表示されます。タイプとカテゴリ別に表示されます。

   b. 必要なアクションを検索し、ダブルクリックして、アクションリストに追加します。

   アクションリストは削除することもできます(をクリック)。

3. アクションリストでアクションの属性を設定するには、該当するアクションを選択し、画面の右部分でプロパティを設定します。

   一部のアクションは、固定値の代わりに変数の使用をサポートします。その他のアクションでは、正規表現を使用できます。詳細については、PitStopアクションマニュアルのドキュメントを参照してください。

4. アクションリストのアクションの順序を変更するには、(上に移動)と(下に移動)を使用します。

   アクションリストの順番は重要です。順番を変更すると異なる結果につながることがあります。必要に応じて、論理演算子(AND、NOT、OR)を使用し、異なるアクション間の関係を定義できます。

5. 各アクションの属性で、アクションリストのアクションでトリガーされるレポートメッセージをカスタマイズするには、アクションリンク(右上端)をクリックし、レポートメッセージのカスタマイズを選択します。

   レポートメッセージは「チェック」または「変更」アクションの結果であり、プリフライトレポートに表示されます。既定のメッセージを修正し、技術的な用語を減らし、よりわかりやすくすることができます。

6. アクションリストを保存して閉じるには、**OK**をクリックします。

4.4.4. スマートプリフライトについて

概要

スマートプリフライトは、プリフライトプロファイルの能力を完全に解き放ち、PDF ファイルのチェックおよび修復を可能にする機能です。スマートプリフライトなしでは、 ユーザーは

異なるジョブ タイプや仕様を扱うために異なるプロファイルを作成する必要があります。しかし、Smart Preflightによって、その必要が排除されます。

スマートプリフライトは、ユーザーがプロセス時にオーバーライド可能な変数値を定義したり、特定のチェックの結果に影響するジョブ条件の指定を可能にする規則ベースのチェックを定義することを可能にすることで異なるプロファイルを作成する必要性を排除します。

以下はその例です。
ページ サイズ: すべての可能なページ サイズのチェックを単一のプリフライト プロファイルで行うことができます。最も一般的に使用するサイズに対応したデフォルト値を設定できます。異なるサイズをチェックする場合は、プリフライト チェックを実行する前に新しいサイズを入力するだけです。

分版数: 必要に応じてプリフライト プロファイル値をランタイムに調整することができるようになりました。そのため、ファイルに含まれるカラー分版の数を正確にチェックできます。ジョブにブラックと特色、または CMYK と 2 つの特色が含まれている場合でも、同じプリフライトプロファイルを使用してこれら両方のファイルを正確にチェックできます。

印刷条件に基づく総インク適用範囲: 総インク適用範囲の制限は、いくつかの異なる要素によって異なります。使用する用紙タイプ、印刷方法、印刷に使用するデバイスには大きな影響力があります。したがって、スマートプリフライトを使用することで、用紙タイプ (非コート ストック) および印刷方法 (枚葉給紙リトグラフ) を入力して総インク適用範囲の値を取得し、次に規則ベースの変数によって総インク適用範囲の値を計算することが可能になります。

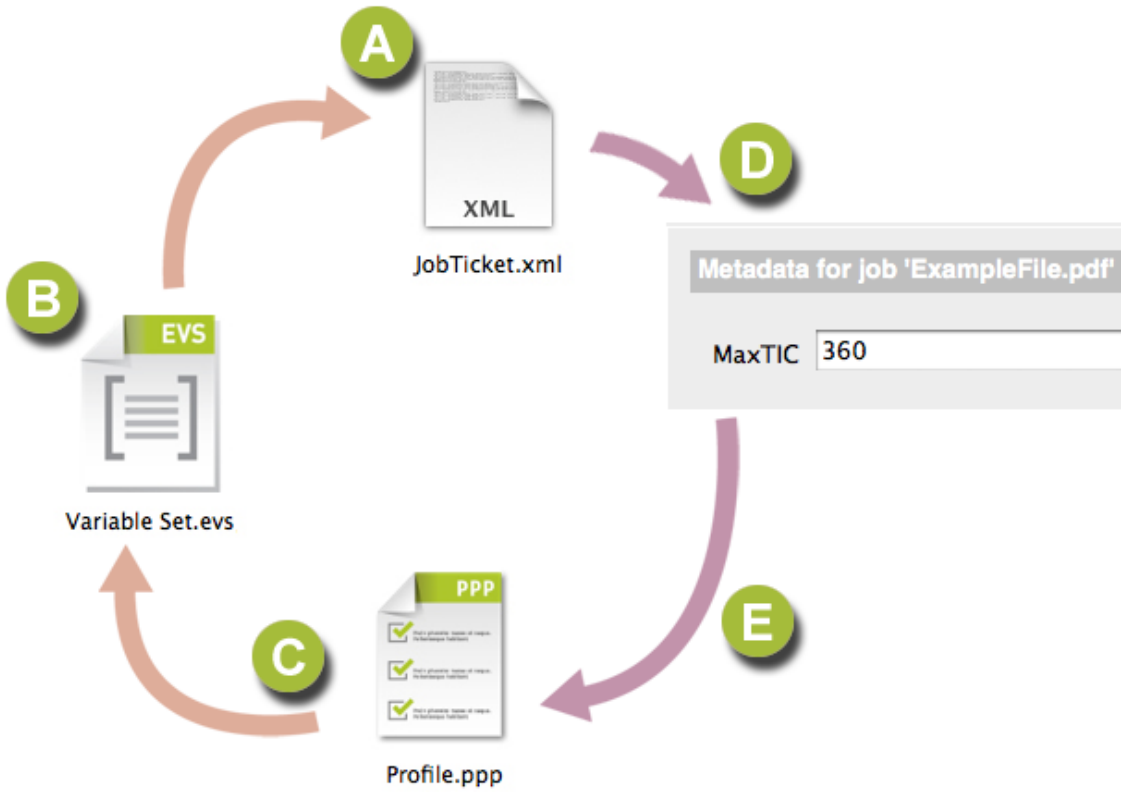
スマートプリフライトの使用方法
スマートプリフライトの使用を開始するには、プリフライトプロファイルで使用する変数のセットが必要になります。変数は、変数セットで定義および保存できます。基本的に、変数セットは、インポートおよびエクスポートが可能なファイル形式で保存する異なる変数のセットです。変数セットを使用すると、必要に応じて変数を保存、編集および使用することができます。変数セットは必要なだけ定義でき、また各変数セットには必要なだけの変数を含むことができます。ただし、一度に 1 つの変数セットしかアクティベートできません。

変数セットを作成する前に、変数オプションを設定する値を決定する必要があります。その決定方法のひとつとして、ジョブごとに変化する一般的なプリフライト設定および頻繁に同じである設定のリストを作成する方法があります。ジョブごとに変化する設定が変数として扱う適当な候補です。

一般的なチェックの例	ジョブごとに変化するチェックの例
埋め込みフォント	トリム ページ サイズ (H/W)
セキュリティ: 印刷	総インク適用範囲
文書には分版されたページが含まれています	定義済みカラーの数
など...	など...

4.4.4.1. Connectのスマートプリフライト

Enfocus Connectでスマートプリフライトを使用するときには、プリフライトプロファイルで使用される変数をジョブチケットから取得する必要があります。



Enfocus ConnectでSmartPreflightをセットアップするには、次の操作を実行します。

1. まだの場合はジョブチケットを作成し、使用するすべての変数のメタデータフィールドを追加します (**A**)。例: メタデータフィールド「MaxTIC」新しいジョブチケットグループの作成 47 ページの を参照してください。

2. 変数セットを作成するか開き、「ジョブチケット」タイプ (**B**)を使用して、スマートプリフライトで使用する変数を定義します。例:ジョブチケットメタデータ「MaxTIC」を使用して、変数「MaximumInkCoverage」を作成します。ジョブチケットからの変数の設定 79 ページの を参照してください。

3. プリフライトプロファイル (**C**)で変数を使用します。例: インク総使用量が変数 [MaximumInkCoverage] よりも高い場合は、警告を設定します。プリフライトプロファイルを変更または作成する 71 ページの を参照してください。

ファイルがConnectorで処理される場合、「MaxTIC」の値を入力するように指示されます (**D**)。プリフライト中、この値が使用され、インク総使用量がこの値よりも高い場合、プリフライトレポートに警告が表示されます。

注: 変数を使用した既存のプリフライトプロファイルがある場合、手順3を省略できます。対応する変数セットを取得する場合には、手順2のように使用済み変数をジョブチケットタイプに修正できます。

4.4.4.2. ジョブチケットからの変数の設定

Enfocus Connectのプリフライトプロファイルで使用される変数は、「ジョブチケット」タイプとして変数セットで定義される必要があります。つまり、すべての変数はジョブチケットのメタデータフィールドから取得されます。

1. サンプルジョブチケットファイルを保存します。
   a. **[**ジョブチケット**]** タブを開きます。ジョブチケットタブ 45 ページの も参照してください。
   b. **[**ジョブチケットグループ**]**リストからジョブチケットを選択します。
   c. 基本形式を選択します。
   d. まだの場合は、使用するすべての変数のメタデータフィールドを作成します。*Connect*での基本ジョブチケット定義の編集 49 ページの を参照してください。
   e. **[**プレビュー**]**ボタンをクリックします。
   f. ［ジョブチケットのプレビュー］ダイアログで、［書き出し］ボタンをクリックし、スマートプリフライトの書き出しを選択します。
   g. 任意の場所にジョブチケットを保存します。
2. ［ウィンドウ］ > ［**Enfocus** 変数セットパネルの表示］を選択し、［変数セット］ウィンドウを開きます。
3. 次のいずれかを実行します。
   - 新しい変数セットを作成するには、 ［新規］ > ［新規作成］を選択し、その新しい変数セットの名前と説明を入力します。
   - 既存の変数セットを編集するには、ダブルクリックします。
4. ［**+**］ボタンをクリックして新規変数を追加するか、リスト（変数の下）で選択して編集します。
5. ［名前］、［ユーザーの読みやすい名前］、および［説明］を設定します。
6. 必要に応じて、2番目の**[**タイプ**]**ドロップダウンを数字、長さ、テキスト、またはブール値のいずれかに設定します。
7. 最初の［タイプ］ドロップダウンをジョブチケットに設定します。
8. ジョブチケットに基づき、**XPath**を定義します。
   a. **[**閲覧**]** をクリックします。
   b. サンプルファイルから**XPath**を選択ダイアログで、参照をクリックし、サンプルファイルを選択します。書き出したジョブチケットファイル（XML形式）は最初のステップです。
   c. ジョブチケットのツリー構造で、選択した変数で使用するメタデータフィールド (MF) を選択します。

d. **[OK]** をクリックします。

9. その他の変数を追加する場合、手順4から再開します。

10. 変数セットを保存するには、［保存］をクリックします。

11. 最後に、Connectの**[**プリフライト**]**タブで、選択した変数セット部で保存した変数セットを選択します。

定義した変数をプリフライトプロファイルで使用できます。スマートプリフライトおよびプリフライトプロファイルでの変数の使用の詳細については、PitStop Proのマニュアルを参照してください。ジョブチケットを使用した変数定義の詳細については、PitStop Serverのマニュアルを参照してください。いずれのマニュアルも*http://www.enfocus.com/en/support/manuals*にあります。

4.4.5. StatusCheckについて

StatusCheck は、Adobe AcrobatおよびAdobe Acrobat Reader用の無料プラグインです。これにより、Adobe Acrobatで開かれたPDF文書のCertified PDFのステータスを即座にチェックすることが可能になります。Certified PDFのステータスは、PDFファイルが正常にプリフライトされているかどうかを示します。

このセクションでは、*StatusCheck*のインストール方法と、*Connector*によって処理と配信が行われた*PDF*ファイルなどに埋め込まれたプリフライトレポートにアクセスするために、*StatusCheck*をどのように使用するかについて説明します。

注**:** PitStop Proをインストール済みの場合は、StatusCheckはPitStop Proのインストールに含まれているプラグインのためインストールする必要はありません。Certified PDFの詳しい情報については、*Enfocus Webサイトで入手できるPitStop Proのリファレンスガイド*の「Certified PDF 文書の操作」を参照してください。

4.4.5.1. StatusCheckのダウンロードとインストール

StatusCheckは、Connect内のPitStopエンジンで処理されたPDFファイルに埋め込まれたプリフライト結果を参照できるようにする、Adobe AcrobatまたはAdobe Acrobat Reader用の無料プラグインです。

StatusCheckをダウンロードしてインストールする手順

1. *Enfocus Webサイト*上のStatusCheckの製品ページに移動します。
2. ［ダウンロード］ボタンをクリックします。
3. 登録フォームに必要事項を入力します。
4. ［送信］をクリックします。
   ダウンロードリンクが記された電子メールを受信することになります。
5. この電子メール内のダウンロードリンクをクリックして、インストールの指示に従います。

StatusCheckはAdobe Acrobat（Reader）のプラグインであるため、Adobe Acrobatを開始すると自動的に起動されます。StatusCheckのインストール後、追加のメニュー項目である、［**Certified PDF**］が現れ、StatusCheckの機能にアクセスできるようになります。

4.4.5.2. PDFファイルのプリフライトレポートのチェック（StatusCheck使用）

PDFファイルのプリフライトレポートをチェックする手順（StatusCheck使用）

1. PDFをAdobe ReaderまたはAdobe Acrobatで開きます。
2. メニューから、［**Certified PDF**］ > ［**Certified PDF**］を選択します。
   ［**Enfocus Certified PDF**パネル］が表示されます。

   このボタンに PDF 文書の Enfocus Certified PDF 状況が次のように示されます。

ボタン	意味
	現在の PDF 文書は、Certified PDF 文書ではありません。
	現在のPDF文書は、Certified PDFワークフロー内にありますが、プリフライトおよび検証は成功しませんでした。その理由としては、PDF文書がプリフライトされたときにエラーが発生したか、前回プリフライトされたときから変更されている、ということが考えられます。
	現在のPDF文書はCertified PDF文書で、正常にプリフライトおよび検証されています。

ボタン	意味

3. ［プリフライト］セクションで、［結果を表示］ボタンをクリックします。

   ボタンの下に使用したプリフライトプロファイルの名前が表示されます。

   Enfocusナビゲータが表示されます。［説明］フィールドにすべてのエラーと警告が（ある場合に）表示されます。

Certified PDFについて、およびEncofus Certified PDFパネルのオプションについて詳しく知りたい場合は、*Enfocus Webサイトで入手できるPitStop Proのリファレンスガイド*の「Certified PDF 文書の操作」を参照してください。

4.5. 配信オプション

各Connectorに対して、配信されるファイル（ジョブファイル、プリフライトレポート、ジョブチケット）と配信先の場所を定義できます。最大2個の場所（「配信ポイント」）を定義できます。ファイルはローカルまたはリモート（(S)FTP、HTTP(S)、電子メール、Enfocus Switch送信ポイント、Dropboxにアップロードなど）で配信できます。

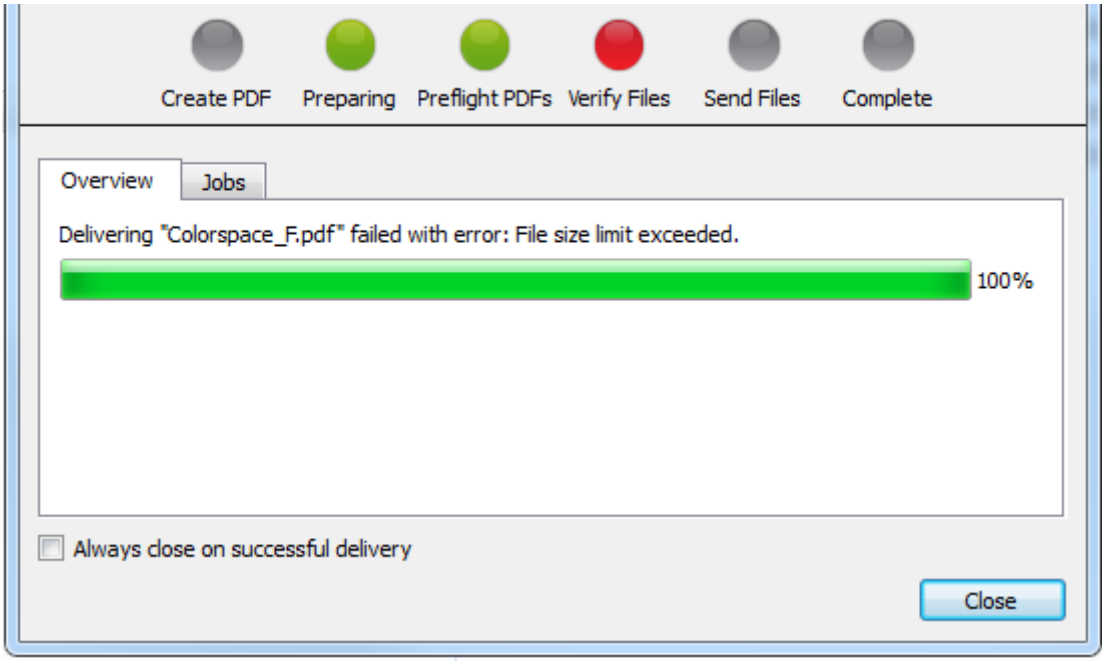
コンフィギュレーション

*[プリフライト]タブ*でローカル保存を有効にするか、*[配信]タブ*でリモート配信を有効にする必要があります。[配信]タブで、配信ポイントを選択するか、作成する必要があります。詳細については、配信ポイント 84 ページのを参照してください。

使用

Connectorのユーザはファイル配信について悩む必要はありません。

- ローカル配信の場合、Connectorの初回使用時に、どこにファイルを配置するか尋ねられます。
- リモート配信の場合、Connectorのプロパティに応じて、認証情報が求められたり、（次の例で示すように）問題がある場合にはその旨通知されたりします。問題がある場合、Connectorの製造元に問い合わせる必要があります。サーバの詳細な設定に何か発生しているか、ファイルサイズの制限 (Connector の製造元による設定) を超過している可能性があります。



4.5.1. 配信 タブ

[配信**]**タブでは、破棄されたファイル、印刷されたファイル、またはConnectorにエクスポートされたファイルのリモート配信の設定を行うことができます。この機能を使用するには、必ず**[**リモート配信を有効にする**]**チェックボックスを選択してください。タブのタイトルが緑色になり、このタブ上のプロパティが編集可能になります。このチェックボックスがオフの場合、処理されたファイルは外部サーバーに配信されません。ただし、**[PDF**作成**]**タブの**[**ローカルファイル保存**]**が有効な場合は、**[**名前を付けて保存**]**を使用して保存できます。

注**:** Connect 13アップデート2では、配信パス（FTP、HTTP）と変数コンテキストを使用する場所（変数電子メールアドレスなど）で、変数を使用できます。このためには、テキストフィールドを右クリックし、コンテキストメニューから［変数］を選択します。

プロパティ	意味
プライマリ配信ポイント	選択したファイルの配信先と配信方法を指定します。リストから配信ポイントプリセットを選択するか、作成できます。選択した配信ポイントプリセットの詳細は、プライマリ配信ポイントの下のフィールドに表示されます。プロパティは選択した配信方法によって異なります。 リモート配信が有効な場合、プライマリ配信ポイントは必須です。 詳細については、次を参照してください • 配信ポイント 84 ページの • 配信ポイントのプリセットの作成 85 ページの

プロパティ	意味
	• 配信ポイントのプリセットの編集 86 ページの [構成]ボタンを使用すると、この特定のConnector プロジェクトの配信ポイントを変更できます。このボタンを使用して行われた変更は、配信ポイントプリセットに影響しません。 詳細については、配信ポイントの変更 87 ページのを参照してください。
セカンダリ配信ポイント	必要に応じて、2番目の場所を指定します。このセカンダリ配信ポイントは任意で、プライマリ配信ポイントと同じ方法で構成します。 例えば、ジョブファイルを1つの配信ポイント（Dropboxフォルダなど）に配信し、プリフライトレポートをセカンダリ配信ポイント（FTPサーバなど）に配信できます。
セカンダリ配信ポイント配信応答	HTTPS応答システムを使用している場合は、配信応答設定を指定します。プライマリ配信ポイントがHTTP(S)を使用し、セカンダリ配信ポイントが定義されている場合にのみ、このオプションを使用できます。 [構成]ボタンを使用して、必要に応じて設定を変更します。 • 応答タイプ: JSON、XML、TEXT • 応答タグ: セカンダリ配信ポイントからのファイルが配信されるべきかどうかを決定するために使用されるタグ。 *HTTPS応答システム*を参照してください。
非 **PDF** ファイルを許可	選択すると、他のファイルタイプ（PDFファイル以外のファイルを含む）も許可されます。非 PDF ファイルは送信前にプリフライトされません。 [構成]ボタンを使用して、許可されるファイルタイプを定義します。許可されたファイルタイプの定義 100 ページのを参照してください。 **注:** [構成]ボタンを使用してファイルタイプが定義されていない場合は、制限がなく、Connectorはすべてのタイプのファイルを許可します。
電子メール通知	選択されている場合、ファイルがConnectorに配信されたときに毎回電子メール通知が送信されます。[構成]ボタンを使用して、電子メール通知設定を構成します。通知メールの設定 99 ページのを参照してください。

4.5.2. 配信ポイント

配信ポイントは、Connectorによって処理されたファイルの配信先と配信方法を指定します（リモート配信が有効の場合）。

配信ポイントには次の情報が含まれます。

- 配信方法に関する情報（HTTP、FTP、Switch送信ポイント）
- 選択した場所を特定し、そこにアクセスするために必要な各種詳細情報（サーバー名、認証情報など）。

配信ポイントのプリセットは定義済みの配信ポイントです。テンプレートとして機能します。配信ポイントをConnector プロジェクトに設定するときは、これらのプリセットの1つから始めて、使用する特定のプロジェクト用に変更する必要があります。

配信ポイントのプリセットには次の2つのタイプがあります。

- Enfocus Connectによって提供される、デフォルトの配信ポイント のプリセット。配信ポイントにつき1つのプリセットを使用できます。これらのプリセットには、（選択した配信方法に使用されているデフォルトポートを除いて）入力済みの値はありません。以前に入力された情報を流用することはできません。

- カスタマイズされた配信ポイントのプリセット、すなわちユーザ自身で作成した配信ポイントのプリセット。これらのプリセットには通常、定期的に必要となる値が含まれています。たとえば、接続のための一般的な設定をすべて含んでいるFTP サーバ用プリセットを作成して、［配信］タブでの設定時に、配信用ディレクトリ、ユーザ名とパスワードを顧客ごとにカスタマイズすることが考えられます。

  プロジェクトの配信ポイントを設定するときに、配信ポイントのプリセットから開始して、その特定のプロジェクト（証明書など）のために変更する必要がある値の修正のみを行うことができます。

プライマリ配信ポイントとセカンダリ配信ポイントとの比較

プライマリ配信ポイントは、［配信］タブが有効になると自動的に有効になります。セカンダリ配信ポイントはオプションです。両方の配信ポイントに対して、それぞれどのファイル（ジョブファイル、ジョブチケット、プリフライトレポートなど）が配信されるかを選択できます。

注: Enfocus Switchで作業する場合、ジョブチケットはプライマリ配信ポイントに基づくものになります。ジョブチケット 43 ページのを参照してください。

4.5.3. 配信ポイントのプリセットの作成

このトピックでは、すべてのConnector プロジェクトで使用可能な、新しい配信ポイントのプリセットを作成する方法を説明します。

新しい配信ポイントを作成する手順

1. 1つのConnector プロジェクトの［配信］タブに切り替えます。
2. ［リモート配信を有効にする］チェックボックスをオンにします。
3. プライマリ配信ポイントのリストから［プリセットの編集］を選択します。
4. をクリックします。
5. ［配信ポイントのプリセットの編集］ダイアログで、必要に応じて詳細を入力します。

変更可能なプロパティは配信方法によって異なります。詳細については、次を参照してください

- 配信方法: *Dropbox* 88 ページの
- 配信方法: 電子メール 89 ページの
- 配信方法: *Enfocus Switch*または*Enfocus Switch 2017+* 91 ページの
- 配信方法：*FTP*または*SFTP* 93 ページの
- 配信方法: *HTTP*または*HTTPS* 94 ページの
- 配信方法: ローカルフォルダ 98 ページの

注: これらのセクションでは、選択している配信方法と適切な接続に必要な設定を理解していることを前提とします。理解していない場合は、ローカルのネットワーク管理者に問い合わせてください。

6. **[OK]** をクリックします。
7. **[**完了**]**をクリックします。
8. 変更内容を検証するには、［配信］タブで、新しい配信ポイントプリセットを選択し、リストの下に表示されたプロパティをチェックします。

4.5.4. 配信ポイントのプリセットの編集

このトピックでは、以前に定義した配信ポイントのプリセットを変更する方法を説明します。

注: 更新した配信ポイントのプリセットを以前に定義したプロジェクトで使用するには、そのプリセットを再度選択してプロジェクトに適用する必要があります。

配信ポイントのプリセットを編集する手順

1. 1つのConnector プロジェクトの［配信］タブに切り替えます。
2. ［リモート配信を有効にする］チェックボックスをオンにします。
3. プライマリ配信ポイントのリストから［プリセットの編集］を選択します。
4. 編集する配信ポイントのプリセットを選択します。
5. > ［編集］を選択します。
6. ［配信ポイントのプリセットの編集］ダイアログで、必要に応じて詳細を変更します。

   変更可能なプロパティは配信方法によって異なります。詳細については、次を参照してください

   - 配信方法: *Dropbox* 88 ページの

- 配信方法: 電子メール 89 ページの
- 配信方法: *Enfocus Switch*または*Enfocus Switch 2017+* 91 ページの
- 配信方法：*FTP*または*SFTP* 93 ページの
- 配信方法: *HTTP*または*HTTPS* 94 ページの
- 配信方法: ローカルフォルダ 98 ページの

注: これらのセクションでは、選択している配信方法と適切な接続に必要な設定を理解していることを前提とします。理解していない場合は、ローカルのネットワーク管理者に問い合わせてください。

7. **[OK]** をクリックします。
8. **[**完了**]**をクリックします。
9. 変更内容を検証するには、［配信］タブで、変更した配信ポイントプリセットを選択し、リストの下に表示されたプロパティをチェックします。

4.5.5. 配信ポイントの変更

このトピックでは、配信ポイントのプリセットを変更せずに、特定のプロジェクトの配信ポイントを変更する方法について説明します。

配信ポイントを変更する手順

1. 関係するプロジェクトの［配信］タブに切り替えます。
2. 変更する配信ポイントの［設定］ボタンをクリックします。
3. 必要な変更を行います。

   変更可能なプロパティは配信方法によって異なります。詳細については、次を参照してください

   - 配信方法: *Dropbox* 88 ページの
   - 配信方法: 電子メール 89 ページの
   - 配信方法: *Enfocus Switch*または*Enfocus Switch 2017+* 91 ページの
   - 配信方法：*FTP*または*SFTP* 93 ページの
   - 配信方法: *HTTP*または*HTTPS* 94 ページの
   - 配信方法: ローカルフォルダ 98 ページの

注: これらのセクションでは、選択している配信方法と適切な接続に必要な設定を理解していることを前提とします。理解していない場合は、ローカルのネットワーク管理者に問い合わせてください。

4. **[OK]** をクリックします。
5. **[**完了**]**をクリックします。
6. 変更内容を検証するには、［配信］タブで、変更された配信ポイントのプロパティをチェックします。

4.5.6. 配信方法:プロパティ

4.5.6.1. 配信方法: Dropbox

［配信方法: Dropbox］を使用して、ファイルを特定のDropboxディレクトリに配信できます。

注: Dropboxのアカウントが必要です。

Dropboxにファイルを配信するよう配信ポイントを設定する手順

1. ブラウザを開いてDropboxのアカウントにログインします。

   注: Dropboxを配信ポイントとして設定する前にログインしている必要があります。

2. Connectでは、配信ポイント（またはプリセット）を設定するダイアログで、次の操作を行います。

   ［プリセット］を設定している場合:

   a. ［配信プリセット］フィールドで、`Dropbox-CustomerX`のような意味のある名前を、配信プリセットに対して入力します。
   b. ［配信方法］リストから、［**Dropbox**］を選択します。

   特定の配信ポイントを（［設定］ボタンを使用して）を設定している場合、配信プリセットと配信方法は編集できません。これらは［配信］タブの［プライマリ/セカンダリ配信ポイント］のリストで選択されたプリセットによって決められています。

3. ［認証コードの取得**...**］をクリックします。
   ［Dropbox - サインイン］ページが表示されます。
4. ConnectがDropboxのフォルダおよびファイルにアクセスすることを許可するには、［許可］をクリックします。
5. 認証コードを［Connect］ダイアログの［認証コード］フィールドにコピーアンドペーストします。
6. **[**アクティベート**]**をクリックします。

7. ファイル配信用のディレクトリを選択するには、［参照］をクリックして、適切なフォルダ（現在のConnectorの専用フォルダなど）を選択します。

   ヒント**:** 顧客ごとに配信ポイントのプリセットを設定することを推奨します。そうすることで、Connectorの作成時に、認証コードを生成してアクティベートする必要がなくなります。現在のプロジェクト用の適切なフォルダを選択するだけで済みます。

8. 特定のサイズを超えたファイルを再利用する場合、**[**ファイルサイズ上限**]**を定義します。

   ファイル（入力ファイル、ジョブチケット、プリフライトレポートのいずれか）がこの制限を超えてしまう場合、ユーザに対して警告が表示され、ファイルはConnectorによって処理されません。

9. 配信前にファイルを圧縮する（サイズを縮小する）場合は、［圧縮］を有効にします。

10. 圧縮ファイルをパスワードフィールドで指定したパスワードで暗号化する場合は、パスワード使用を有効にします。

11. 配信ポイントに配信しないようにするファイルタイプのチェックボックスをオフにします。

    デフォルトでは、すべてのファイルタイプが選択されており、配信対象となります。

    ファイルタイプについては、次のことを留意してください。

    - ジョブファイルは、処理済みの入力ファイルのことです。
    - ジョブチケットは、Connectorの［ジョブチケット］タブが有効になっている場合にのみ配信可能です。
    - プリフライトレポートは（［プリフライト］タブで）［**PDF**とともに別個のプリフライトレポートを送信する］オプション (Connect YOU)またはプリフライトタブの［プリフライトレポートを送信］ (Connect ALL) が有効になっている場合にのみ配信可能です。

4.5.6.2. 配信方法: 電子メール

配信方法: 電子メールを使用して、電子メールでファイルを配信できます。

注**:** 一部のメールサービスはサポートされていません。ほとんどの場合、Microsoft Exchange Serverで動作します。Yahoo MailおよびGmailはサポートされていますが、SSLが必要になります。

メールでファイルを配信するよう配信ポイントを設定する手順

1. 配信ポイント（またはプリセット）を設定するダイアログで、次の操作を行います。

   ［プリセット］を設定している場合:

   a. ［配信プリセット］フィールドで、`Email-Delivery-CustomerX`のような意味のある名前を、配信プリセットに対して入力します。
   b. ［配信方法］リストから、［**E** メール］を選択します。

特定の配信ポイントを（［設定］ボタンを使用して）を設定している場合、配信プリセットと配信方法は編集できません。これらは［配信］タブの［プライマリ/セカンダリ配信ポイント］のリストで選択されたプリセットによって決められています。

2. 使用するメールサーバーを指定します。
   - Yahooメールの場合は、`smtp.mail.yahoo.com`を使用
   - Gmailの場合は、`smtp.gmail.com`を使用
3. ポートを指定します。デフォルトは25です。

   YahooまたはGmailの場合は、ポート465を使用します。
4. ユーザーとパスワードを定義します。
5. （処理済みファイルを含んだ）メールメッセージの設定を行います。
   a. **[E** メールメッセージの設定**]** ボタンをクリックします。
   b. 差出人と宛先のメールアドレスを入力します。

      注**:** 複数のアドレスの場合は、宛先**:** *janel@enfocus.com;frankm@gmail.com*のように、アドレスをセミコロンで（場合により後にスペースを入れて）分けるようにしてください。
   c. 件名と本文テキストを作成します。
   d. ジョブの変数情報を追加するには、変数の挿入ボタン（またはテキストフィールドを右クリックし、コンテキストメニューから変数を選択）をクリックし、変数を選択します。宛先フィールドと、件名、本文テキストには、変数を使用できます（コンテキストメニューを使用）。
   e. **[OK]** をクリックします。
6. 特定のサイズを超えたファイルを再利用する場合、**[**ファイルサイズ上限**]**を定義します。

   ヒント**:** ファイル（入力ファイル、ジョブチケット、プリフライトレポートのいずれか）がこの制限を超えてしまう場合、ユーザに対して警告が表示され、ファイルはConnectorによって処理されません。
7. 配信前にファイルを圧縮する（サイズを縮小する）場合は、［圧縮］を有効にします。
8. 圧縮ファイルをパスワードフィールドで指定したパスワードで暗号化する場合は、パスワード使用を有効にします。
9. 配信ポイントに配信しないようにするファイルタイプのチェックボックスをオフにします。

   デフォルトでは、すべてのファイルタイプが選択されており、配信対象となります。

   ファイルタイプについては、次のことを留意してください。
   - ジョブファイルは、処理済みの入力ファイルのことです。
   - ジョブチケットは、Connectorの［ジョブチケット］タブが有効になっている場合にのみ配信可能です。

- プリフライトレポートは（［プリフライト］タブで）［**PDF**とともに別個のプリフライトレポートを送信する］オプション (Connect YOU)またはプリフライトタブの［プリフライトレポートを送信］ (Connect ALL) が有効になっている場合にのみ配信可能です。

4.5.6.3. 配信方法: Enfocus SwitchまたはEnfocus Switch 2017+

配信方法: Enfocus SwitchまたはEnfocus Switch 2017+を使用して、Enfocus Switch送信ポイントで直接ファイルを配信できます。

注**:** Enfocus Switchは、PDFファイルの自動プリフライト、修正、および認証を1つのより大きな自動ワークフローに統合できるアプリケーションです。Enfocus Switch は、電子メールや FTP を通して、または Enfocus Connect から直接にジョブを自動的に受領したり、ファイルタイプやファイル命名規則に基づくジョブのソートとルーティングを行ったり、主要な専門化向けの出版関連アプリケーションの作業をすべて自動化することが可能です。このEnfocus製品の詳細な情報については、*https://www.enfocus.com/en/products/switch*にアクセスしてください。

Enfocus SwitchとEnfocus Switch 17+の違いを以下の表に示します。

配信方法	以下と一緒に使用する**...**
Enfocus Switch	• Switch 13以前。 • Switch 2017以降で、レガシーSwitchClientデスクトップアプリケーション経由でジョブを送信。分からない場合、Switch 設定: 内部コミュニケーションを確認してください。ジョブクライアントタイプは、レガシーに設定する必要があります。
Enfocus Switch 2017+	• Switch 2017以降で、Switch WebポータルおよびSwitch Web サービス（SOAP API）経由でジョブを送信。分からない場合、Switch 設定: 内部コミュニケーションを確認してください。ジョブクライアントタイプは、デフォルトに設定する必要があります。

Switch送信ポイントにファイルを配信するよう配信ポイントを設定する手順

1. 配信ポイント（またはプリセット）を設定するダイアログで、次の操作を行います。

［プリセット］を設定している場合:

a. ［配信プリセット］フィールドで、`Switch-Delivery-CustomerX`のような意味のある名前を、配信プリセットに対して入力します。

b. ［配信方法］リストから、［**Enfocus Switch**］を選択します。

特定の配信ポイントを（［設定］ボタンを使用して）を設定している場合、配信プリセットと配信方法は編集できません。これらは［配信］タブの［プライマリ/セカンダリ配信ポイント］のリストで選択されたプリセットによって決められています。

2. （*Switch 2017+*のみ）Switch Webポータルに接続するのに使用するプロトコルを、HTPPまたはHTTPSから選択します。

3. 「SwitchServer.enfocus.com」などドメイン名を含むサーバーDNS 名を指定します。IPアドレスも使用できます。

4. ポート番号を指定します。デフォルト値は 51008 です。

5. ログイン タイプリストから、次のいずれかのオプションを選択します。

   - ユーザとパスワードを求める:Connector はユーザに対してログイン用のユーザ名およびパスワードを要求します。ユーザーおよびパスワードフィールドを入力する必要はありません。
   - パスワードのみを求める:Connectorが、ユーザーフィールドに定義されたユーザ名を使用し、パスワードを要求します。
   - 上で指定された認証情報を使用する：Connectorが、ユーザーおよびパスワードフィールドで定義された認証資格情報を使用します。

   注: 動的送信ポイント選択の場合（次のステップで説明）、上で指定された認証情報を使用するを選択する必要があります。そうでない場合は、Connectorを構築する際、エラーが発生します。

6. 送信ポイントを決定します。

   Connectorにより、1つの定義済み送信ポイントにファイルが配信されるか、ファイルを送信する際Connectorユーザが送信ポイントを動的に選択できるようになります。

   - ファイルを送信する際Connectorユーザが送信ポイントを選択できるようにするには、**Switch**送信ポイントを定義チェックボックスをオフにします。ユーザが（Switchの権限に基づいて）アクセスできるすべての送信ポイントが記載されたドロップダウンリストが表示されます。

     注: 動的送信ポイントの選択は、プライマリ配信ポイントでのみ可能です。

   - 特定の送信ポイントを定義するには（ユーザに選択肢を与えない）、**Switch**送信ポイントを定義チェックボックスを選択して、送信ポイントを選択します。目的の送信ポイントがリストにない場合は、更新ボタンをクリックしてリストを更新します。

7. 特定のサイズを超えたファイルを再利用する場合、**[**ファイルサイズ上限**]**を定義します。

   ヒント: ファイル（入力ファイル、ジョブチケット、プリフライトレポートのいずれか）がこの制限を超えてしまう場合、ユーザに対して警告が表示され、ファイルはConnectorによって処理されません。

8. 配信前にファイルを圧縮する（サイズを縮小する）場合は、［圧縮］を有効化します。

9. 圧縮ファイルをパスワードフィールドで指定したパスワードで暗号化する場合は、パスワード使用を有効化します。

10. 配信ポイントに配信しないようにするファイルタイプのチェックボックスをオフにします。

    デフォルトでは、すべてのファイルタイプが選択されており、配信対象となります。

    ファイルタイプについては、次のことを留意してください。

- ジョブファイルは、処理済みの入力ファイルのことです。
- ジョブチケットは、Connectorの［ジョブチケット］タブが有効になっている場合にのみ配信可能です。
- プリフライトレポートは（［プリフライト］タブで）［**PDF**とともに別個のプリフライトレポートを送信する］オプション (Connect YOU)またはプリフライトタブの［プリフライトレポートを送信］ (Connect ALL) が有効になっている場合にのみ配信可能です。

4.5.6.4. 配信方法：FTPまたはSFTP

［配信方法: FTPまたはSFTP］（Secure FTP）を使用して、FTP サーバにファイルを配信できます。

FTP サーバにファイルを配信するよう配信ポイントを設定する手順

1. 配信ポイント（またはプリセット）を設定するダイアログで、次の操作を行います。

   ［プリセット］を設定している場合:

   a. ［配信プリセット］フィールドで、`FTP-Delivery-CustomerX`のような意味のある名前を、配信プリセットに対して入力します。

   b. ［配信方法］リストから、［**FTP**］または［**SFTP**］を選択します。

   特定の配信ポイントを（［設定］ボタンを使用して）を設定している場合、配信プリセットと配信方法は編集できません。これらは［配信］タブの［プライマリ/セカンダリ配信ポイント］のリストで選択されたプリセットによって決められています。

2. 「ftp.enfocus.com」などドメイン名を含むサーバーDNS 名を指定します。IPアドレスも使用できます。

3. ポートを指定します。デフォルトは、**FTP**は21、**SFTP**は22です。

4. ログイン タイプリストから、次のいずれかのオプションを選択します。

   - ユーザとパスワードを求める:Connector はユーザに対してログイン用のユーザ名およびパスワードを要求します。ユーザーおよびパスワードフィールドを入力する必要はありません。
   - パスワードのみを求める:ユーザーフィールドに定義されたユーザー名を使用し、パスワードを要求します。
   - 上で指定された認証情報を使用する：ユーザーおよびパスワードフィールドで定義された認証資格情報を使用します。

5. 接続タイムアウト（秒）を定義します。

   デフォルト値は30です。タイムアウトを大きくすると、接続が悪いかサーバーが配信要求に応答するのにもっと時間が必要な場合に有用です。

6. ファイルを配置する［ディレクトリ（**Directory**）］を指定します。参照**...**ボタンをクリックしてシステム上の任意のディレクトリを選択するか、フィールドにディレクトリを入力します。

注:

- **[参照]**ボタンは、有効なユーザーとパスワードを入力した場合にのみ使用できます。
- また、変数を使用してディレクトリを指定することもできます。このためには、テキストフィールドを右クリックし、コンテキストメニューから［変数］を選択します。

7. FTP サーバへの接続でパッシブ モードを使用するには、パッシブ モードを有効にします。このオプションは、SFTPでは使用できません。
8. 特定のサイズを超えたファイルを再利用する場合、**[**ファイルサイズ上限**]**を定義します。

   ヒント**:** ファイル（入力ファイル、ジョブチケット、プリフライトレポートのいずれか）がこの制限を超えてしまう場合、ユーザに対して警告が表示され、ファイルはConnectorによって処理されません。

9. 配信前にファイルを圧縮する（サイズを縮小する）場合は、［圧縮］を有効にします。
10. 圧縮ファイルをパスワードフィールドで指定したパスワードで暗号化する場合は、パスワード使用を有効にします。
11. 配信ポイントに配信しないようにするファイルタイプのチェックボックスをオフにします。

    デフォルトでは、すべてのファイルタイプが選択されており、配信対象となります。

    ファイルタイプについては、次のことを留意してください。

    - ジョブファイルは、処理済みの入力ファイルのことです。
    - ジョブチケットは、Connectorの［ジョブチケット］タブが有効になっている場合にのみ配信可能です。
    - プリフライトレポートは（［プリフライト］タブで）［**PDF**とともに別個のプリフライトレポートを送信する］オプション (Connect YOU)またはプリフライトタブの［プリフライトレポートを送信］ (Connect ALL) が有効になっている場合にのみ配信可能です。

4.5.6.5. 配信方法: HTTPまたはHTTPS

［配信方法: HTTPまたはHTTPS（セキュアHTTP）］を使用して、HTTP(S) URLにファイルを配信し、サーバーサイドスクリプトを実行できます。

次の表は、HTTPとHTTPSの相違点を説明しています。

プロパティ	**HTTP**	**HTTPS**
URL	http:// で始まる	https:// で始まる
デフォルトポート	80	443

プロパティ	HTTP	HTTPS
オペレーティング層	アプリケーション層	トランスポート層
セキュリティ保護	いいえ	はい
暗号化	いいえ	はい
証明書	いいえ	はい

注: Connect 12 update 2では、HTTP(S)サーバーを構成して、ジョブが配信されるたびに、Connectorに応答を送信できます。*HTTP(S)応答システム* 117 ページのを参照してください。

HTTP(S) URLにファイルを配信するよう配信ポイントを設定する手順

1. 配信ポイント（またはプリセット）を設定するダイアログで、次の操作を行います。

   ［プリセット］を設定している場合:

   a. ［配信プリセット］フィールドで、`HTTP(S)-Delivery-CustomerX`のような意味のある名前を、配信プリセットに対して入力します。

   b. ［配信方法］リストから、必要に応じて［**HTTP**］または［**HTTPS**］を選択します。

   特定の配信ポイントを（［設定］ボタンを使用して）を設定している場合、配信プリセットと配信方法は編集できません。これらは［配信］タブの［プライマリ/セカンダリ配信ポイント］のリストで選択されたプリセットによって決められています。

2. 必要なサーバ設定の詳細情報を入力します。

   - ［サーバ］: `10.31.178.56`または `enfocus.com`のような、HTTP(S)サーバのIPアドレスまたはホスト名です

   - ［ポート］: HTTP(S)サーバ上のポート番号です。デフォルトではHTTPには80、HTTPSには443が設定されています。

   - ［認証タイプ］: HTTP(S)サーバによって使用される認証テーマです。現在サポートされているタイプは次のとおりです。

     - 認証なし: ユーザ名やパスワードは必要ありません。

     - **Basic**認証: ユーザ名とパスワードは、暗号化されないbase64でエンコードされたテキストとしてHTTP(S)サーバに送信されます。

     - **Digest**認証: パスワードがハッシュ化された形式でHTTP(S)サーバに送信されます。

     - **OAuth**認証: Bearerトークンタイプとして、パスワードのみがHTTP(S)サーバに送信されます。

     - **NTLM**認証: HTTP上でのパスワードのキャプチャや反射攻撃を防止する、セキュアな「チャレンジ/レスポンス」方式が使用されます。

- ［ユーザ］: HTTP(S)サーバに接続するために必要なユーザ名
- ［パスワード］: HTTP(S)サーバに接続するために必要なパスワード
- タイムアウト：タイムアウト（秒）。デフォルト値は30です。タイムアウトを大きくすると、接続が悪いかサーバーが配信要求に応答するのにもっと時間が必要な場合に有用です。
- ［パス］：（upload.phpなどの）サーバ要求に参加するリソースへのフルパス。このパスは要求されたリソースの指定および/または検索のために使用されます。

  注: このパスでは大文字小文字が区別されません。

- ファイル変数: HTTPファイル変数はHTTP(S)サーバ上で、Connectorによって送信されたジョブを適切な場所までルーティングするために使用されます。サーバーサイドスクリプトによってファイルが正常にアップロードされるために固有の識別名が要求される場合、HTTPファイル変数を追加する必要があります。

3. 必要なパラメータを追加します。

a. をクリックします。

b. パラメータ名を入力します（nameなど）。

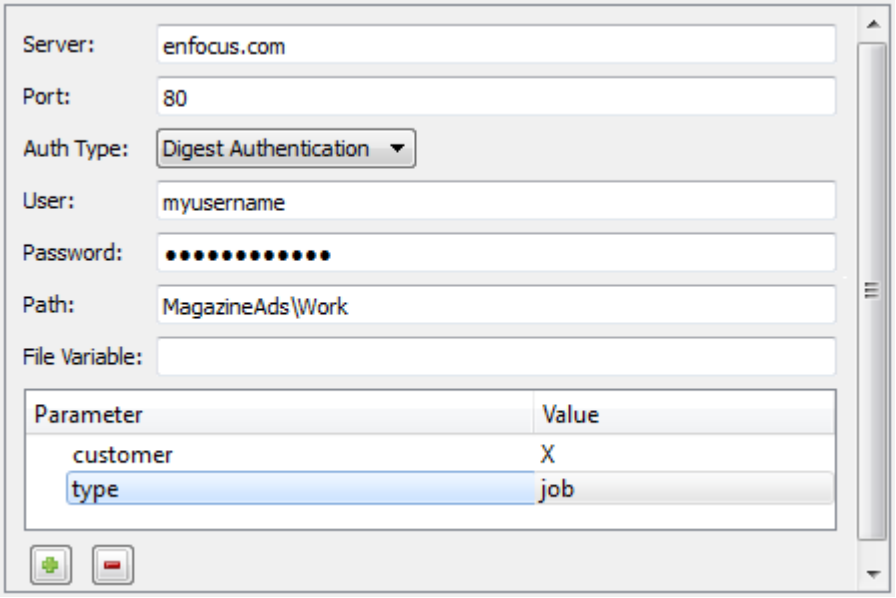
c. ［値］フィールドをダブルクリックして、編集可能な状態にします。

d. 値を入力します（customerXなど）。

変数を使用するためには、テキストフィールドを右クリックし、コンテキストメニューから［変数］を選択し、任意の変数を選択します。

パラメータは、URLまたはGET/POSTパラメータでのクエリー文字列の一部になることができます。必要な数のパラメータを追加することが可能です。

例:



上記の例でのサーバ設定の詳細は、次のようなURLになります。**http://enfocus.com/MagazineAds/Works?customer=X&type=jobs**

4. 特定のサイズを超えたファイルを再利用する場合、**[**ファイルサイズ上限**]**を定義します。

   ヒント**:** ファイル（入力ファイル、ジョブチケット、プリフライトレポートのいずれか）がこの制限を超えてしまう場合、ユーザに対して警告が表示され、ファイルはConnectorによって処理されません。

5. 配信前にファイルを圧縮する（サイズを縮小する）場合は、［圧縮］を有効にします。

6. 圧縮ファイルをパスワードフィールドで指定したパスワードで暗号化する場合は、パスワード使用を有効にします。

7. 配信ポイントに配信しないようにするファイルタイプのチェックボックスをオフにします。

   デフォルトでは、すべてのファイルタイプが選択されており、配信対象となります。

   ファイルタイプについては、次のことを留意してください。

   - ジョブファイルは、処理済みの入力ファイルのことです。
   - ジョブチケットは、Connectorの［ジョブチケット］タブが有効になっている場合にのみ配信可能です。
   - プリフライトレポートは（［プリフライト］タブで）［**PDF**とともに別個のプリフライトレポートを送信する］オプション (Connect YOU)またはプリフライトタブの［プリフライトレポートを送信］ (Connect ALL) が有効になっている場合にのみ配信可能です。

   HTTP配信が有効化されたConnectorは、サーバへの初回接続時に、証明書を取得します。その証明書が信頼できるストレージに格納されると、証明書が再び要求されることはありません。

非表示の属性

HTTPサーバにある配信済みファイルを整理するために、次の属性を使用できます。

- *Connector*アイデンティティ（定義タブに表示される一意のID）が「c_identity」属性を通過します。これは、HTTPサーバにジョブファイルを配信したConnectorを表します。
- *Job*アイデンティティが「c_jobid」属性を通過します。これはジョブごとに一意のIDで、指定されたジョブに関連するすべてのジョブファイル（プリフライトレポート、ジョブチケット、ファイル）を特定する際に役立ちます。

これらの属性は非表示であるため、Connectで見ることができません。

4.5.6.6. 配信方法: ローカルフォルダ

［配信方法: ローカルフォルダ］を使用して、Connectorへの初めてのファイル送信時にConnectorのユーザによって選択されるローカルフォルダにファイルを配信できます。

ローカルフォルダにファイルを配信するよう配信ポイントを設定する手順

1. 配信ポイント（またはプリセット）を設定するダイアログで、次の操作を行います。

   ［プリセット］を設定している場合:

   a. ［配信プリセット］フィールドで、`LocalFolder-CustomerX`のような意味のある名前を、配信プリセットに対して入力します。
   b. ［配信方法］リストから、［ローカルフォルダ］を選択します。

   特定の配信ポイントを（［設定］ボタンを使用して）を設定している場合、配信プリセットと配信方法は編集できません。これらは［配信］タブの［プライマリ/セカンダリ配信ポイント］のリストで選択されたプリセットによって決められています。

   注: 作成されたConnectorが使用されると、配信先フォルダの選択が発生します。この設定時には配信フォルダの定義は必要ありません。

2. 特定のサイズを超えたファイルを再利用する場合、**[**ファイルサイズ上限**]**を定義します。

   ヒント: ファイル（入力ファイル、ジョブチケット、プリフライトレポートのいずれか）がこの制限を超えてしまう場合、ユーザに対して警告が表示され、ファイルはConnectorによって処理されません。

3. 配信前にファイルを圧縮する（サイズを縮小する）場合は、［圧縮］を有効にします。
4. 圧縮ファイルをパスワードフィールドで指定したパスワードで暗号化する場合は、パスワード使用を有効にします。
5. 配信ポイントに配信しないようにするファイルタイプのチェックボックスをオフにします。

   デフォルトでは、すべてのファイルタイプが選択されており、配信対象となります。

   ファイルタイプについては、次のことを留意してください。

   - ジョブファイルは、処理済みの入力ファイルのことです。

- ジョブチケットは、Connectorの［ジョブチケット］タブが有効になっている場合にのみ配信可能です。
- プリフライトレポートは（［プリフライト］タブで）［**PDF**とともに別個のプリフライトレポートを送信する］オプション (Connect YOU)またはプリフライトタブの［プリフライトレポートを送信］ (Connect ALL) が有効になっている場合にのみ配信可能です。

4.5.7. 通知メールの設定

ファイルがConnectorに配信されるたびに通知メールを送信するようにするには、［配信］タブの［電子メール通知の送信］オプションを有効にして、次の説明通りに通知メールを設定する必要があります。

通知メールを設定する手順

1. 使用するメールサーバーを指定します。
   - Yahooメールの場合は、`smtp.mail.yahoo.com`を使用
   - Gmailの場合は、`smtp.gmail.com`を使用

   注: 一部のメールサービスはサポートされていません。ほとんどの場合、Microsoft Exchange Serverで動作します。Yahoo MailおよびGmailはサポートされていますが、SSLが必要になります。

2. ポートを指定します。デフォルトは25です。

   YahooまたはGmailの場合は、ポート465を使用します。

3. ユーザーとパスワードを定義します。
4. 差出人と宛先のメールアドレスを入力します。

   注: 複数のアドレスの場合は、宛先: *annc@enfocus.com;frankm@gmail.com*のように、アドレスをセミコロンで（後にスペースを入れずに）分けるようにしてください

5. 件名と本文テキストを作成します。

   ジョブの変数情報を追加するには、変数の挿入ボタン（またはテキストフィールドを右クリックし、コンテキストメニューから変数を選択）をクリックし、変数を選択します。

   User Company、Current Document Name、User Name、Time、Unique ID、Date、およびConnector Nameなどの定義済みの変数がいくつか存在します。独自の変数を追加することはできません。

   注: ConnectはPDFファイルに追加された標準PDFメタデータの情報を検索します。

   プロジェクトでジョブチケットをが有効な場合は、これらのジョブチケットで使用されるメタデータフィールドを変数として使用することもできます。これらは[変数の使用]ダイアログの2番目の部分に表示され、「JT」という文字が先頭に付きます。例え

ば、%JTCustomer%です（=ジョブチケットには「Customer」というラベルのメタデータフィールドが含まれます）。現在の値（ダイアログの下部）は、ジョブチケットで選択された既定値です。

実行時に、これらの変数は適切な値に置換されます。

6. 設定をテストするには、**[**テスト通知の送信**]** ボタンをクリックします。
サンプルメールが宛先フィールドに記されたアドレスに送信されます。このメールでは変数は解決されません。

7. **[OK]** をクリックします。

4.5.8. 許可されたファイルタイプの定義

既定では、ConnectorはPDFファイルだけを許可します。ただし、他のファイルタイプを許可するようにConnectorを設定できます。

手順

1. [配信]タブで、**[**非**PDF**ファイルを許可**]**を選択します。

2. 制限を許可の設定をクリックします。

3. [ファイルタイプ制限]ダイアログの上部で、該当するオプションを選択します。
   - 除外（これらのファイルタイプ）: 特定のファイルタイプを除外します。Connectorは、このダイアログで選択したファイルタイプ以外のすべてのファイルタイプを許可します。
   - 含める（これらのファイルタイプ）:特定のファイルタイプを含めます。Connectorは選択したファイルタイプだけを許可します。

4. ダイアログの左側で、選択するファイルタイプをクリックします。

   必要なファイルタイプがリストにない場合、ボタンをクリックして、すべてのプロジェクトで使用可能なファイルタイプを追加できます。他のボタンでは、ファイルタイプを削除()または編集 () できます。灰色表示のファイルタイプは既定値であるため、編集または削除できません。ファイルタイププロパティ 101 ページの も参照してください。

5. 矢印ボタンをクリックします。
選択したファイルがダイアログの右側に移動されます。

   ヒント**:** 別のユーザーからプロジェクトをインポートした場合、右側には、ファイルタイプのリスト（左側）にないファイルタイプが含まれる場合があります。独自のConnectプロジェクトでも使用するには、選択して**[**インポート**]**をクリックします。

6. 許可または禁止するすべてのファイルタイプで、手順4と5を繰り返します。

7. 必要に応じて、メッセージを修正します。

許可されないファイルタイプがConnectorに送信された場合は、このメッセージが表示されます。**%1** (ファイルタイプ拡張子)または**%2** (説明)を使用して、選択したファイルタイプを参照できます。例えば、メッセージ「このConnectorは%1ファイル(%2)だけを許可します」は、「このConnectorはdocとxlsファイル（Microsoft Word文書およびMicrosoft Excelファイル）だけを許可します」になります。「ファイルタイププロパティ 101 ページの」を参照してください。

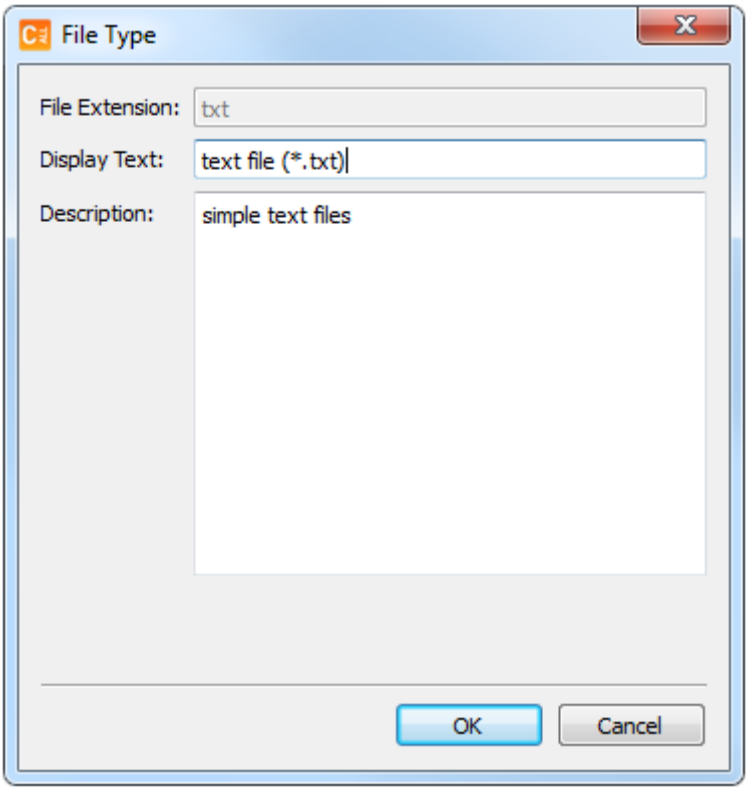
4つ以上のファイルタイプが選択されている場合、3つのファイルタイプだけが表示され、「など」という文字が最後に付きます。

許可されていないファイルを送信すると、メッセージが表示され、ファイルが処理されません。Connectorのジョブタブで、該当するファイルにはステータス（制限）がオレンジで表示されます。

4.5.9. ファイルタイププロパティ

このトピックでは、[ファイルタイプ制限]ダイアログで使用できるファイルタイプのプロパティの概要について説明します。

プロパティ	意味
ファイル拡張子	ファイルタイプ拡張子（ドットなし）。このフィールドは読み取り専用です。ファイルタイプ拡張子は、Connectorが送信されたファイルを許可するかどうかを決定します。 メッセージのファイル拡張子を参照して、禁止されたファイルタイプについてユーザーに警告する場合は、%1を使用します。（許可されたファイルタイプの定義 100 ページのの手順7も参照）
表示テキスト	Connectの[ファイルタイプ制限]ダイアログに表示されるテキスト。
説明	Connectの[ファイルタイプ制限]ダイアログにツールチップとして表示されるテキスト。 メッセージのこのフィールドを参照して、禁止されたファイルタイプについてユーザーに警告する場合は、%2を使用します。（許可されたファイルタイプの定義 100 ページのの手順7も参照）



4.6. 更新オプション（Connect ALL）

Connectorの新しいバージョンが利用可能になると、自動的に更新が行われるように設定することができます。

機能の概要

Connectorを初めて作成すると、（Connectorの更新プロパティで指定したとおりに）サーバーにアップロードされます。その後、Connectorは起動されるたびに、更新サーバーに接続して、次のように現在のバージョンと更新サーバー上のバージョンを比較します。

- バージョンが同じである場合、Connectorのユーザはそのconnectorの使用を継続します。
- 新しいバージョンがある場合は、ユーザは、更新が利用可能な状態になり、ダウンロードしてインストール可能であるという通知を受け取ります。

注:

- 更新サーバーには、FTP、SFTP、HTTP、HTTPSサーバーを指定できます。
- 更新サーバーを使用している場合、「リモートダウンロード」オプションを有効にできます。これで、2つのより小さく移植性が高いバージョンのConnectorが生成されます。詳細については、*Connectorのリモートダウンロード（Connect ALL）* 116 ページのを参照してください。

コンフィギュレーション

更新機能は、*[更新]タブ*で有効化および設定する必要があります。

詳細な技術情報については、自動更新メカニズム 104 ページのを参照してください。

使用

新しいConnectorのバージョンがある場合、新バージョンをダウンロードできる場所へのリンクが記載されたプロンプトが表示されます。使用期限中、前バージョンを引き続き使用することが可能です。猶予期間（Connectorプロパティで定義）の後またはユーザーが古いバージョンを使用している場合は、Connectorが動作しません。

4.6.1. 更新 タブ

[更新]タブ（Connect ALLでのみ使用可能）では、新しいバージョンが利用可能な場合に、自動的にConnectorを更新するための設定を構成できます。

この機能を使用するには、必ず**[更新を有効にする]**チェックボックスを選択してください。タブのタイトルが緑色になり、このタブ上のプロパティが編集可能になります。

プロパティ	意味
リモートダウンロードの有効化	選択すると、2つの追加のアプリケーションファイルRemote _<Connector名>.exe (Windowsで使用)およびRemote _<Connector名>.app (Macで使用)が作成されます。これらの新しいConnectorは約6〜7 MBのファイルサイズで、非常に移植性が高くなっています。*Connectorのリモートダウンロード（Connect ALL）* 116 ページのを参照してください。
アップロード	更新サーバーへのConnectorのアップロード方法を指定します（更新方法や、Connectorをアップロードおよびダウンロードするサーバーを指定してアクセスするために必要な詳細など）。リストからプリセットを選択するか、作成できます。選択したプリセットの詳細は、更新の下のフィールドに表示されます。プロパティは、選択した更新方法（HTTP、HTTPS、FTP、SFTP）によって異なります。 **注:** (S)FTPおよびHTTP(S)プリセットは[配信]タブプリセットと共有されます。更新機能でサポートされていない他のプリセットタイプ（電子メールまたはDropboxなど）は[更新]タブで無視されます。 詳細については、次を参照してください • 自動更新メカニズム 104 ページの • 更新プリセットの作成 107 ページの • 更新プリセットの編集 107 ページの **[構成]**ボタンを使用すると、この特定のConnector プロジェクトの更新詳細を変更できます。このボタンを使用して行われた変更は、プリセットに影響しません。

プロパティ	意味
	詳細については、更新サーバーの詳細の変更 108 ページのを参照してください。
ダウンロード	Connectorのダウンロード方法を指定します。ダウンロード設定は、アップロード設定と同じ方法で構成されます。 入力した情報は**[**ダウンロード**]**の下のフィールドに表示されます。
Identity	アイデンティティは自動的に生成されたユニークIDです。このフィールドの値はFTP サーバに対してユニークである必要があります。アップロード後、このフィールドを編集することはできません。詳細については、自動更新メカニズム 104 ページのを参照してください。
使用期限	選択すると、設定された期間を経過すると（日数、週数、月数）、前のバージョンのConnectorが自動的に無効になります。この期間中、顧客は以前のバージョンのConnectorを使用できます。期限後は、最新バージョンのみが動作します。 設定された猶予期間は、選択した日付よりも新しいConnectorにのみ適用されます。デフォルトでは、これはConnectorの作成日ですが、必要に応じて変更できます。

4.6.2. 自動更新メカニズム

ユーザの顧客がすべてConnectorの最新バージョンを使用していることを確認するために、Connect ALLで利用可能な自動更新メカニズムを使用できます。このメカニズムでは、最新バージョンのConnectorを自動的に任意の更新サーバー（FTP、SFTP、HTTP、HTTPS）にアップロードし、顧客が使用するバージョンと比較します。

注**:** この機能を利用しない場合は、Connector プロジェクトの**[**更新**]**タブの**[**更新を有効にする**]**チェックボックスを無効にするだけです。

動作手順

1. Connectorを設定するときには、**[**更新**]**タブで使用する更新サーバーの設定を入力します。
   - サーバーアドレス
   - Connectorをアップロードするためのログイン認証情報
   - 顧客用のログイン認証情報
2. Connector の作成時に、そのConnectorはバージョン情報も含めて、[アップロード]設定（ユーザ名およびパスワード）を使用して、(S)FTP/HTTP(S)サーバーにコピーされます。
3. ユーザの顧客がConnectorを実行すると、そのConnectorは(S)FTP/HTTP(S)サーバーに接続して（[ダウンロード]ユーザ名とパスワードを使用して）、Connector自身のバージョンとサーバーにあるバージョンとを比較します。
   - バージョンが同じである場合、顧客はそのConnectorをそのまま継続して使用できます
   - 新しいバージョンがある場合、顧客に対して、新バージョンをダウンロードできる場所へのリンクが記載されたプロンプトが表示されます。使用期限中、顧客は前バージョン

を引き続き使用することが可能です。使用期限後、または顧客が以前のバージョンを使用している場合、Connectorは動作しなくなります。

- サーバーがオフラインや見つからないという理由でConnectorがサーバーに到達できない場合、警告が24時間ごとに表示されますが、Connectorは無限または有効期間（[更新]タブで定義）まで動作し続けます。

- サーバーのConnectorプロジェクトが見つからないか不完全な場合、警告が表示されますが、Connectorは24時間だけ動作し続けます。これによって、問題を検出および修正しながら、Connectorを使用し続けることができます。問題が24時間以内に修正されない場合、Connectorはシャットダウンし、更新サーバーのConnectorプロジェクトが復元されるまで動作しなくなります。その時点で、Connectorは自動的に更新され、動作し続けます。

  ヒント: フィールドでConnectorをシャットダウンする場合は、更新サーバーから対応するConnectorプロジェクトを削除し、復元しないようにできます。ユーザーは通知を受信し、24時間後にConnectorが動作を停止します。

ご使用の***Connector***で自動更新システムを使用するための必要条件

自動更新システムを使用するには、次の項目が必要となります。

- (S)FTPまたはHTTP(S)サーバー

  注:

  - 更新機能で使用するサーバーは、Connectorからのファイルの配信で使用されるサーバーと同じにできます。ただし、更新機能では別のディレクトリを使用することをお勧めします。

  - FTPへのアップロードとHTTPからのダウンロードなど、アップロードとダウンロードで異なる配信方法を使用できます。仕組み

    - アップロードサーバー: Connectorを作成すると、ConnectorはIDフィールドで指定された名前を使用してディレクトリを作成します（後半を参照）。ConnectorはFTPサーバ上でこのフォルダにアップロードされます。

    - ダウンロードサーバー: 新しいバージョンが使用可能かどうかを確認するには、HTTP（ダウンロード）サーバーがこのフォルダにアクセスできる必要があります。IDフィールドを使用して新しいConnectorを識別し、Connectへの応答として要求されたConnectorを送信しようとします。

    選択した方法に関係なく、アップロードおよびダウンロードサーバーに入力されたデータによって、**Connector**が**Connector**を検出できる必要があります（IDフィールドで識別。以下を参照）。Connectorは必ずしも同じディレクトリに保存する必要はありません。HTTP更新の場合、HTTPサーバーが、データベースのファイルを保持するか、サーバー上の別の物理的な場所を保持するかを選択できます。アップロードまたはダウンロード方法がConnectorへの正しいパスを検出できるかぎり、任意の場所を選択できます。

- Connector およびバージョン情報をアップロードするためのEnfocus Connectのログイン。このバージョンアップロードログインには、読み取り／書き込みアクセスが必要です。

- Connectorのログイン（バージョンをチェックし、顧客が新しいバージョンをダウンロードできるようにするため）。このログインの権限を「読み取り専用」に制限することをお勧めします。

注: 自動更新システムを使用してジョブ配信をリモートサーバーを統合するときには、次のように、サーバーごとにユーザーログインと読み取り/書き込み権限を設定することをお勧めします。

- 配信機能の書き込み権限（[配信]タブを参照）。
- アップロード機能の読み取り/書き込み権限（[更新]タブを参照）。
- ダウンロード機能の読み取り専用権限（[更新]タブを参照）。

自動更新システムの設定方法

この機能を利用するには、既存のConnectorの**[更新]**タブで**[更新を有効にする]**タブを選択し、必要な情報を確実に入力します。サーバー情報（Connectorのアップロードとダウンロード）はプリセットに保存されます。更新プリセットには次の2つのタイプがあります。

- デフォルトプリセット（更新方法ごとに1つ）はEnfocus Connectによって設定され、値が入力されていません。以前に入力された情報を流用することはできません。

- カスタムプリセットは、独自に作成できるプリセットです。これらのプリセットには通常、定期的に必要となる値が含まれています。たとえば、接続のための一般的な設定をすべて含んでいるFTP サーバ用プリセットを作成して、[更新]タブでの設定時に、更新用ディレクトリ、ユーザ名とパスワードを顧客ごとにカスタマイズすることが考えられます。

注: 更新プリセットは、配信ポイントプリセットとまったく同じ方法で使用されます。配信ポイントプリセット（HTTP(S)/(S)FTPで設定）を再利用するか、「更新」プリセットを使用して、配信ポイントを設定できます。

参照：

- 更新 タブ 103 ページの

注: Connectorプロジェクトリストのアイコンは、更新サーバーのプロジェクトのステータスを反映します。「*Connector プロジェクトリストのアイコン* 27 ページの」を参照してください。

ユニーク***ID***と***Connector***のアイデンティティ

新しいプロジェクトを作成するとき、次の2つの識別子が自動的に生成されます。

- グローバルに一意である、*a3bb69ef4de511e3ffeaf01faf15cf0d*のような**[ユニークID]**（**[定義]**タブに表示）

  このユニーク**ID**は変更しないでください。ただし、唯一の例外として、今後プロジェクトを持つことがないConnectorに対して更新を行うために、新しいプロジェクトを作成し、その新しいプロジェクトのユニークIDを古いバージョンのユニークIDに変更しなくてはならない、という場合があります。

- デフォルトではユニークIDと同じである、アイデンティティ（**[更新]**タブに表示）。

  IDは、更新サーバー上でConnectorを識別するために使用されます。IDは変更可能です（推奨はされません）が、サーバーに対して一意である必要があります。

PitStop Connect 09 Connectorなどとの下位互換性のために、アイデンティティが作成されます。09 Connectorにはユーザー調整可能なアイデンティティがありました。このため、グローバルレベルでは一意ではありませんでした。バージョン10ではユニークIDが追加され、グローバルユニークIDとなりました。アイデンティティは下位互換性目的でのみ保持されました。

4.6.3. 更新プリセットの作成

このトピックでは、すべてのConnector プロジェクトで使用可能な、Connectorを更新するためのプリセットを作成する方法を説明します。このようなプリセットには更新方法に関する詳細情報（FTP、SFTP、HTTP、またはHTTPS）と、Connectorをアップロードおよびダウンロードするためにサーバーを識別してアクセスするのに必要なさまざまな詳細情報が含まれています。

注: 更新メカニズムはConnect ALLでのみ使用できます。

新しい「更新」プリセットを作成するには

1. 1つのConnector プロジェクトの**[更新]**タブに切り替えます。
2. **[更新を有効化]**チェックボックスを選択します。
3. アップロードリストから**[プリセットの編集]**を選択します。
4. をクリックします。
5. **[プリセットの編集]**ダイアログで、必要に応じて詳細を入力します。

   変更可能なプロパティは更新方法によって異なります。詳細については、次を参照してください

   - *更新方法: HTTPまたはHTTPS* 110 ページの
   - *更新方法：FTPまたはSFTP* 109 ページの

   注: これらのセクションでは、選択している更新方法と適切な接続に必要な設定を理解していることを前提とします。理解していない場合は、ローカルのネットワーク管理者に問い合わせてください。

6. **[OK]** をクリックします。
7. **[完了]**をクリックします。
8. 変更内容を検証するには、**[更新]**タブで、新しいプリセットを選択し、リストの下に表示されたプロパティをチェックします。

4.6.4. 更新プリセットの編集

このトピックでは、Connectorを更新するために前の手順で定義したプリセットを変更する方法を説明します。

注: 更新したプリセットを以前に定義したプロジェクトで使用するには、そのプリセットを再度選択してプロジェクトに適用する必要があります。

更新プリセットを編集するには

1. 1つのConnector プロジェクトの**[更新]**タブに切り替えます。
2. **[更新を有効化]**チェックボックスを選択します。
3. アップロードまたはダウンロードリストから**[プリセットの編集]**を選択します。
4. 編集するプリセットを選択します。
5. > ［編集］を選択します。
6. **[プリセットの編集]**ダイアログで、必要に応じて詳細を変更します。

   変更可能なプロパティは更新方法によって異なります。詳細については、次を参照してください

   - 更新方法: *HTTP*または*HTTPS* 110 ページの
   - 更新方法：*FTP*または*SFTP* 109 ページの

   注: これらのセクションでは、選択している更新方法と適切な接続に必要な設定を理解していることを前提とします。理解していない場合は、ローカルのネットワーク管理者に問い合わせてください。
7. **[OK]** をクリックします。
8. **[完了]**をクリックします。
9. 変更内容を検証するには、**[更新]**タブで、変更したプリセットを選択し、リストの下に表示されたプロパティをチェックします。

4.6.5. 更新サーバーの詳細の変更

このトピックでは、プリセットを変更せずに、特定のプロジェクトの更新サーバーの詳細を変更する方法について説明します。

注: プリセットの作成および変更については、前述の更新プリセットの作成 107 ページのと更新プリセットの編集 107 ページのを参照してください。

特定のプロジェクトの更新サーバーの詳細を変更するには

1. 関係するプロジェクトの**[更新]**タブに切り替えます。
2. 変更するアップロードまたはダウンロードサーバーの**[設定]**ボタンをクリックします。
3. 必要な変更を行います。

   変更可能なプロパティは配信方法によって異なります。詳細については、次を参照してください

- 更新方法: *HTTP*または*HTTPS* 110 ページの
- 更新方法：*FTP*または*SFTP* 109 ページの

> **注:** これらのセクションでは、選択している更新方法と適切な接続に必要な設定を理解していることを前提とします。理解していない場合は、ローカルのネットワーク管理者に問い合わせてください。

4. **[OK]** をクリックします。
5. **[**完了**]**をクリックします。
6. 変更内容を検証するには、**[**更新**]**タブで、変更されたアップロードまたはダウンロードサーバーのプロパティをチェックします。

4.6.6. 更新方法:プロパティ

4.6.6.1. 更新方法：FTPまたはSFTP

Connectorの更新で使用するFTP/SFTPサーバーの設定を構成するには

1. 更新サーバーの設定を構成するダイアログで、次の操作を行います。

   ［プリセット］を設定している場合:

   a. **[**プリセット**]**フィールドで、`FTP-UPDATE-CustomerX`のような意味のある名前を、プリセットに対して入力します。
   b. ［配信方法］リストから、［**FTP**］または［**SFTP**］を選択します。

   特定の更新サーバーを（**[**設定**]**ボタンを使用して）設定している場合、プリセットと配信方法は編集できません。これらは[更新]タブの[アップロード/ダウンロード]のリストで選択されたプリセットによって決められています。

2. 「ftp.enfocus.com」などドメイン名を含むサーバーDNS 名を指定します。IPアドレスも使用できます。

   > **注:** IPアドレスの代わりに、更新サーバーのDNSエイリアスを使用することをお勧めします。この方法で、IPアドレスが変更された場合でも、フィールドの更新サーバーとConnector間のリンクが維持されます。

3. ポートを指定します。デフォルトは、**FTP**は21、**SFTP**は22です。
4. ログイン タイプリストから、次のいずれかのオプションを選択します。
   - ユーザとパスワードを求める:Connector はユーザに対してログイン用のユーザ名およびパスワードを要求します。ユーザーおよびパスワードフィールドを入力する必要はありません。
   - パスワードのみを求める:ユーザーフィールドに定義されたユーザー名を使用し、パスワードを要求します。

- 上で指定された認証情報を使用する：ユーザーおよびパスワードフィールドで定義された認証資格情報を使用します。

5. ファイルを配置する［ディレクトリ（**Directory**）］を指定します。**[参照...]**ボタンをクリックし、システム上のディレクトリを選択します。

   注: **[接続]**を使用し、(S)FTPサーバへの接続を検証します。

6. **[OK]** をクリックします。

4.6.6.2. 更新方法: HTTPまたはHTTPS

次の表は、HTTPとHTTPSの相違点を説明しています。

プロパティ	**HTTP**	**HTTPS**
URL	http:// で始まる	https:// で始まる
デフォルトポート	80	443
オペレーティング層	アプリケーション層	トランスポート層
セキュリティ保護	いいえ	はい
暗号化	いいえ	はい
証明書	いいえ	はい

Connectorの更新で使用するHTTPまたはHTTPSサーバーの設定を構成するには

1. 更新サーバーの設定を構成するダイアログで、次の操作を行います。

   ［プリセット］を設定している場合:

   a. **[プリセット]**フィールドで、`HTTP(S)-Update-CustomerX`のような意味のある名前を、プリセットに対して入力します。

   b. ［配信方法］リストから、必要に応じて［**HTTP**］または［**HTTPS**］を選択します。

   特定の更新サーバーを（**[設定]**ボタンを使用して）設定している場合、プリセットと配信方法は編集できません。これらは[更新]タブの[アップロード/ダウンロード]のリストで選択されたプリセットによって決められています。

2. 必要なサーバ設定の詳細情報を入力します。

   - ［サーバ］:`10.31.178.56`または `enfocus.com`のような、HTTP(S)サーバのIPアドレスまたはホスト名です

     注: IPアドレスの代わりに、更新サーバーのDNSエイリアスを使用することをお勧めします。この方法で、IPアドレスが変更された場合でも、フィールドの更新サーバーとConnector間のリンクが維持されます。

- ［ポート］: HTTP(S)サーバ上のポート番号です。デフォルトではHTTPには80、HTTPSには443が設定されています。
- ［認証タイプ］: HTTP(S)サーバによって使用される認証テーマです。現在サポートされているタイプは次のとおりです。
  - 認証なし: ユーザ名やパスワードは必要ありません。
  - **Basic**認証: ユーザ名とパスワードは、暗号化されないbase64でエンコードされたテキストとしてHTTP(S)サーバに送信されます。
  - **Digest**認証: パスワードがハッシュ化された形式でHTTP(S)サーバに送信されます。
  - **OAuth**認証: Bearerトークンタイプとして、パスワードのみがHTTP(S)サーバに送信されます。
  - **NTLM**認証: HTTP上でのパスワードのキャプチャや反射攻撃を防止する、セキュアな「チャレンジ/レスポンス」方式が使用されます。
- ［ユーザ］: HTTP(S)サーバに接続するために必要なユーザ名
- ［パスワード］: HTTP(S)サーバに接続するために必要なパスワード
- ［パス］:（upload.phpなどの）サーバ要求に参加するリソースへのフルパス。このパスは要求されたリソースの指定および/または検索のために使用されます。

  注: このパスでは大文字小文字が区別されません。

- ファイル変数: HTTPファイル変数はHTTP(S)サーバ上で、Connectorによって送信されたジョブを適切な場所までルーティングするために使用されます。サーバーサイドスクリプトによってファイルが正常にアップロードされるために固有の識別名が要求される場合、HTTPファイル変数を追加する必要があります。

3. 必要なパラメータを追加します。

a. をクリックします。

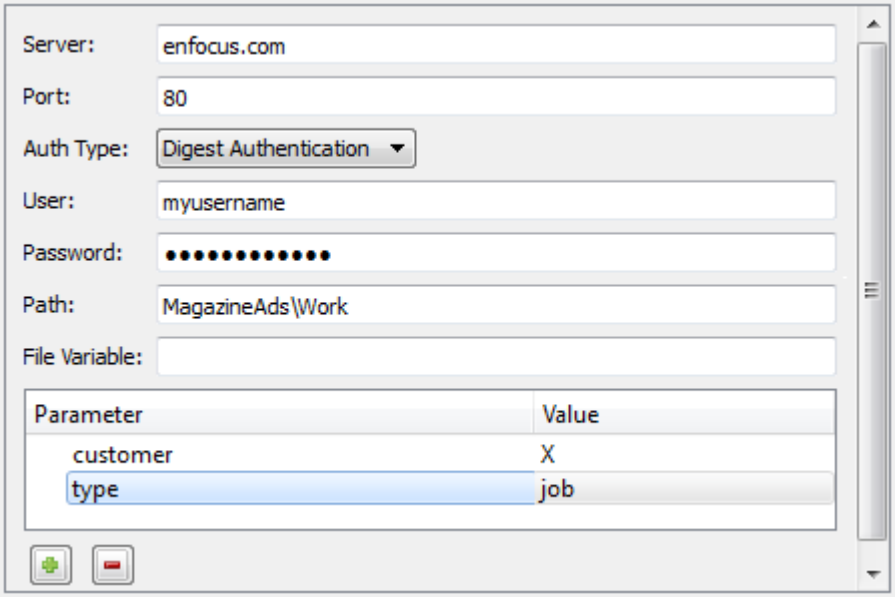
b. パラメータ名を入力します（nameなど）。

c. ［値］フィールドをダブルクリックして、編集可能な状態にします。

d. 値を入力します（customerXなど）。

パラメータは、URLまたはGET/POSTパラメータでのクエリー文字列の一部になることができます。必要な数のパラメータを追加することが可能です。

例:



上記の例でのサーバ設定の詳細は、次のようなURLになります。**http://enfocus.com/MagazineAds/Works?customer=X&type=jobs**

HTTP配信が有効化されたConnectorは、サーバへの初回接続時に、証明書を取得します。その証明書が信頼できるストレージに格納されると、証明書が再び要求されることはありません。

4. **[OK]** をクリックします。

4.6.7. Connector の更新

さまざまなConnector（更新を有効をオン）を変更した場合、すべての変更されたConnectorを1回でアップロードできます。

手順

1. 更新するすべてのConnectorをグループ化します。「グループでプロジェクトを整理 33 ページの」を参照してください。

   変更されアップロードされていないConnectorは、Connectorプロジェクトリストで アイコンが表示されます。

   更新が有効ではないConnectorが同じグループになると、何も処理されません。

2. グループを右クリックします。

3. コンテクストメニューから［**Connector**の更新］を選択します。
   ダイアログが表示され、すべてのConnectorのリストが更新されます。エラーと警告（ある場合）は各Connectorで個別に報告されます。

4. **[**続行**]**をクリックします。

5. **[**閉じる**]**をクリックします。

Connectorがアップロードされ、アイコンが緑のチェックに変わります。

4.6.8. HTTP更新 - サーバ側

この章ではHTTP更新メカニズムの技術的な内容を扱い、HTTPサーバ側の実装例を記載します。

4.6.8.1. Connectorの識別

c_identity

*Connector*アイデンティティ（更新タブに表示される一意のID）が「c_identity」属性を通過します。これは、更新されたConnectorとHTTP(s)サーバ上の現在のConnectorが、同じConnectorを指していることを確認するために使用されます（Connector名が一意でない可能性があるため）。

この属性は非表示であるため、Connectで見ることができません。

アップロードパスおよびダウンロードパスの設定

Connector作成中に、アップロードおよびダウンロードのパスもチェックされます。FTP(S)とは異なり、HTTPのメソッドはアップロードおよびダウンロードのパスをチェックするために直接使用することができません。HTTPサーバがデータベースやサーバの別の物理的な場所にConnectorを保管できるため、正確な場所はアップロードおよびダウンロードURLパラメータ、またはサーバ端に実装されたメソッドを経由して検知される必要があります。

「c_identity」を使用して、アップロードまたはダウンロードしたConnectorをデータベーステーブルに転送することが可能です。

アップロードURLの例：

```
http://www.mycompany.com/connect/upload.php?c_identity=abcd12345...
|<--- server address--->|<- resource path->|<- parameters ...
```

ダウンロードURLの例：

```
http://www.mycompany.com/connect/download.php?c_identity=abcd12345...
|<--- server address--->|<- resource path -->|<- parameters ...
```

注: サーバによるメソッドでは、すべてのConnectorに対するupload.phpおよびdownload.phpは通常同じです。（同じHTTP配信プリセットをすべてのConnectorが使用できます。）要求されたConnectorを検索するには、サーバが「c_identity」を使用する必要があります。

例

アップロードおよびダウンロードには異なる配信方法が使用される場合がありますので注意してください（自動更新メカニズム 104 ページのも参照）。次に示すのは、使用例です。

FTP/SFTPを使用してConnectorをサーバにアップロードするための、Connectプロジェクトを作成します。Connectが指定されたアイデンティティフィールド（更新タブ上）の名前でディレクトリを作成し、FTP サーバ上のそのフォルダにConnectorをアップロードします。

HTTPサーバは、このディレクトリからConnectorへアクセスできる必要があります。HTTPサーバがアイデンティティパラメータを使用して新しいConnectorを特定し、要求されたConnectorへ応答として送信します。

4.6.8.2. HTTPサーバ側の実装例

PHP Webサーバ設定

1. ワークステーションでWebサーバをセットアップします。
2. アップロードスクリプトとダウンロードスクリプトを<任意のファイルの名前>.php、たとえば「upload.php」と「download.php」としてコピーし、貼り付けます
3. これらのスクリプトをWebサーバに配置します（例：DOCUMENT_ROOT）
4. アップロードスクリプトとダウンロードスクリプトを格納する***update***という名前のフォルダを作成します。

クライアントの内部テスト

次のサイトは、HTTP/HTTPSパラメータのテスト（アップロードとダウンロードではなく）に使用できます。 *http://httpbin.org/*

Macのビルトイン***Web***サーバを有効化**/**無効化する

MacにはビルトインWebサーバがあり、コマンドラインツールのユーティリティで有効化することができます。管理者権限またはルート権限が必要ですので、注意してください。

Webサーバを有効化する場合、ターミナルを開き、次のコマンドを実行します。

```
> sudo launchctl load -w /System/Library/LaunchDaemons/org.apache.httpd.plist
```

Webサーバを無効化する場合、ターミナルを開き、次のコマンドを実行します。

```
> sudo launchctl unload -w /System/Library/LaunchDaemons/org.apache.httpd.plist
Icon
```

ファイルの場所：

- 構成ファイル：/private/etc/apache2/httpd.conf
- エラーログファイル：/private/var/log/apache2/error_log
- ログファイル：/private/var/log/apache2/access_log

Webサーバのルートパスは、***httpd.conf***ファイルで変更できます。

Webサーバの構成

- サーバにアップロードするファイルサイズの制限は、サイズの大きなファイルに対応できるように、200MBまで増加する必要があります。Connectorのサイズは、通常100～200MBです。
- Connectorをアップロードするフォルダには、読み取り**/**書き込みアクセスを許可するようにしてください。

- /XAMPP\apache\conf\httpd.confのドキュメントルートパスを構成します

4.6.8.3. アップロードスクリプトのサンプル

```
<?php
ini_set('display_errors',1);
error_reporting(E_ALL);
// Where the file is going to be placed .
$target_path = "update/";
$ConnectorId = $_POST['c_identity'];
if ( !empty($ConnectorId) )
{
    $target_path = "$target_path$ConnectorId/";
    if (!file_exists($target_path) )
    {
        mkdir( $target_path, 0777, true );
    }
}
/* Add the original filename to our target path. */
$target_path = $target_path . basename( $_FILES['file']['name']);

if(move_uploaded_file($_FILES['file']['tmp_name'], $target_path))
{
    echo "The file ".  basename( $_FILES['file']['name']).
    " has been uploaded";
}
else
{
    echo "There was a problem uploading your file.";
}
?>
```

4.6.8.4. ダウンロードスクリプトのサンプル

```
<?php
ini_set('display_errors',1);
ini_set('zlib.output_compression', 'Off');
error_reporting(E_ALL);
ob_start();
$path = $_SERVER['DOCUMENT_ROOT']."/update/";
$ConnectorId = $_GET['c_identity'];
if ( !empty($ConnectorId) )
{
    $path = "$path$ConnectorId/";
}
$file = $path.basename($_GET['file']);
if (file_exists($file))
{
 header('Content-Description: File Transfer');
 header('Content-Type: application/octet-stream');
 header('Content-Disposition: attachment; filename=' . urlencode(basename($file)));
 header('Expires: 0');
 header('Cache-Control: must-revalidate, post-check=0, pre-check=0');
 header('Pragma: public');
 header('Content-Length: ' . filesize($file));
 ob_clean();
 flush();
 ob_flush();
if(!readfile($file))
{
     error_log("Read file from download.php failed. Check if its a zero kb file");
}
exit;
}
?>
```

4.7. Connectorのリモートダウンロード（Connect ALL）

Connectorのリモートダウンロードは更新サーバーを使用して、完全に機能するConnectorをエンドユーザーに配布します。Remote Connectorは、完全なConnectorよりも小さくて移植性が高く、Remote Connectorの電子メール配信やWebサイトからの高速ダウンロードなどの多くの配布オプションを提供します。

4.7.1. リモートダウンロードの有効化

有効な更新サーバーが定義されている状態で、[更新]タブの**[**リモートダウンロードを有効にする**]**チェックボックスを選択すると、Remote Connectorの作成を追加できます。選択すると、2つの追加のアプリケーションファイルRemote _<Connector名>.exe (Windowsで使用)とRemote _<Connector名>.app (Macで使用)が、Connectorプロジェクトフォルダの更新サーバーとローカルで作成されます。これらの新しいConnectorは約6〜7 MBのファイルサイズで、非常に移植性が高くなっています。

4.7.2. Remote Connectorの配布

Remote Connectorは他のConnectorのように配布できます。ただし、サイズが小さいため、電子メールなどの他の通信方法で配布できます。サイズはほとんどの電子メールサーバーで設定されている上限の10 MB未満です。

ウイルスセキュリティブロックの回避に関する注記

Remote Connectorは非常に移植性が高いものですが、一部の電子メールサーバーやNorton 360などのローカルウイルス保護ソフトウェアによっては、セキュリティリスクと見なされることがあります。これは、有効なインストーラに含まれていないカスタムの未署名アプリケーションであるためです。

Remote Connectorが電子メールサーバーによって拒否されないようにするには、パスワードアクセスを設定してRemote Connectorを圧縮(.zip)できます。これは、独自の圧縮ユーティリティを使用してConnect外から実行する必要があります。あるいは、処理されたファイルを圧縮してパスワード保護するためだけに使用する簡易Connectorを作成できます。.exeまたは.appがパスワード保護された.zipに保存されている場合でも、電子メールサーバーによる拒否を避けるために、「.exe」拡張子を削除しなければならない場合があります。

Remote Connectorがローカルのウイルス対策保護ソフトウェアによって拒否または隔離される場合、通常は、隔離されたアプリケーションを復元して使用できます。これは使用されるプラットフォームとウイルス対策保護ソフトウェアによって異なる場合があります。

4.7.3. Remote Connectorのインストールと使用

Remote Connectorがリモートワークステーションで配布および起動されるときには、更新サーバーにリンクし、ローカルワークステーションのデスクトップに自動的に完全なConnectorをダウンロードしてダウンロードします。完全なConnectorがインストールされたら、Remote Connectorをローカルコンピュータから破棄できます。

注: エンドユーザーはダウンロードがまもなく開始し、ダウンロードが完了したらアプリケーションが自動的に起動するという通知を受信します。このメッセージダイアログで「OK」をクリックすると、WindowsのタスクバーまたはMac OSのメニューバーにダウンロードの進行状況が表示されます。

4.8. HTTP(S)応答システム

Connectorの配信方法としてHTTP(S)を定義すると、ジョブがサーバーに配信されるたびに、ConnectorへのURLを使用してHTTP(S)サーバーを応答させることができます。URLはユーザーの既定のブラウザで自動的に開き、次の内容が表示されることがあります。

- 一般ページ、ファイルの受信を確認
- カスタムページ、印刷Webサーバーで生成、ジョブまたはジョブチケットを使用して「チェックアウトページ」または注文概要を表示
- プロモーションWebページ
- ...

注: このページはジョブごとに**1**回だけ表示されます。ジョブに個別に送信される複数のファイル(ジョブ、ジョブチケット、プリフライトレポートファイル)が含まれる場合、最初のファイルがHTTP(S)で受信されたときにだけWebページが表示されます。

動作手順

1. ユーザーはConnectorにジョブを送信します。
2. ConnectorはこのジョブをHTTP(S)サーバーに送信します(Connector設定に基づき、POSTメソッドを使用)。すべてのユーザー定義属性(ファイル変数など)はPOSTメソッド呼び出しに含まれます。
3. HTTP(S)サーバーはジョブファイルを受信し、応答を返します(XML、JSON、簡易文字列テキスト)。
4. Connectorはこの応答を受信し、ユーザーの既定のブラウザで対応するURLを開きます。

セカンダリ配信ポイント - 配信応答

このシステムを使用して、ファイルを受信する顧客が設定した条件に基づいて、処理されたジョブファイルの配信を許可または拒否できます。例えば、顧客がエラーがあるプリフライト

済みファイルを受信したくない場合は、HTTP(S)でこれらのファイルを拒否し、Connectorで警告を表示できます。仕組み

- Connectorはプライマリ配信ポイント（ジョブチケットなど）で選択されたファイルをHTTP(S)サーバーに配信します。
- HTTP(S)サーバーは、受信するファイルから必要な情報（プリフライトステータスなど）を抽出し、応答を返します。
  - セカンダリ配信ポイントで選択されたファイルも送信する場合（エラーなしでプリフライトされた場合など）は、応答タグがTrueに設定されます。
  - ファイルを送信しない場合、応答タグがFalseに設定されます。
- Connectorは応答を処理し、応答タグの値に基づいて、ファイルを送信するか、通知を表示します。

注**:** 応答タグが無効であるか、見つからない場合は、Trueであると見なされ、ファイルが送信されます。

実装方法

- ジョブの到着時に応答を返すように、HTTPまたはHTTPSサーバーを設定します。PHPまたはJavaScriptなどのスクリプト言語を使用してこのことができます。
- 応答がXML、JSON、または簡易文字列テキストであることを確認します。詳細については、*HTTP(S)応答システムの例* 118 ページのを参照してください。
- 配信応答メカニズムを実装するには、配信 タブ 83 ページので**[**セカンダリ配信ポイント配信応答**]**チェックボックスを有効にして設定します。

4.8.1. HTTP(S)応答システムの例

例***: https://www.enfocus.com/upload_file.php***

項目	説明
説明	POST構文を使用してファイルをアップロードします
URL構造	https://www.enfocus.com/upload_file.php? param1=value1&param2=value2...&**c_identity= 95c2feb0fb8511e3...** **&c_jobid=ae0982fce864...**
方法:	POST
パラメータ	ユーザー指定: HTTP(S)配信方法で定義されたユーザー指定パラメータがPOSTの一部として送信されます。 注**:** Connectorがジョブチケットとともに送信するように定義されている場合は、ジョブチケットパラメータを使用することをお勧めします。 **c_identity**: Connector ID ([定義]タブに表示)はこの属性によって提供されます。これにより、サーバーはジョブの受信元のConnectorを指定できます。 **c_jobid**: 一意のジョブIDがジョブを特定し、HTTP(S) POSTメソッド属性の一部として送信されます。ジョブIDは同じジョブに属する

項目	説明
	すべてのファイル(ジョブファイル(PDFまたはPDF以外)、ジョブチケット、プリフライトレポート)で同じです。このIDによって、サーバーはジョブごとに一意の応答を生成できます(ジョブファイルごとではない)。 異なるジョブに同じ名前があることがありますが、ジョブIDは異なります。
Return	ファイルを配信するために使用されるPOSTメソッドへの応答としてHTTP(S)によって送信される応答文字列。 これは、次の書式のJSON文字列、XML文字列、またはURLエンコード文字列です。 • **JSON:** { "url": “http://www.enfocus.com/en/products” } 使用されるキーは「**url**」です(大文字と小文字は区別されない)。このキーの値は有効なURLです。 • **XML:** <url>http://www.enfocus.com/en/products</url> 実際にConnectorは応答XMLツリー構造の**URL**タグを検索します。応答XMLツリー構造にある最初の**URL**タグを取得します。 • 文字列: http://www.enfocus.com/en/products あらゆる有効なURLエンコード文字列を応答として送信できます。

5. Connectorの使用

ConnectorはConnectから作成するスタンドアロンのアプリケーションです。Connectorには、ユーザがConnector プロジェクトで定義するすべての機能が含まれています。ジョブチケットのキャプチャ、PDF作成、PDFプリフライト、および任意のファイルのリモートサーバへの配信が可能です。Connect ALLではConnectorを内外のユーザに配布するようにすることができます。一方、Connect YOUでは1つのワークステーションのみで実行可能なConnectorが生成されます。

Enfocus Connectorの設定に関する質問については、Connectorの製造元に問い合わせください。

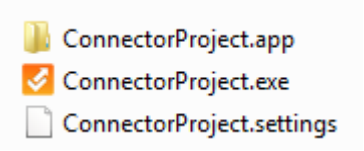
5.1. Enfocus Connectorの使用

Connectorの使用は非常に簡単です。

高レベルの概要については、以下をご確認ください。各ステップについて、より詳細に説明されています。

1. Connectorを次のように設定します。
   - （必要に応じて）Connectorをダウンロードしたり（Macでは.app、Windowsで.exe）ローカルハードドライブ上の場所を特定したりします。
   - Connectorアプリケーションをダブルクリックして、起動します。仮想プリンタまたはプラグインサポートが有効の場合、これらのサービスをインストールするよう求められます。

   「*Enfocus Connectorの設定* 125 ページの」を参照してください。

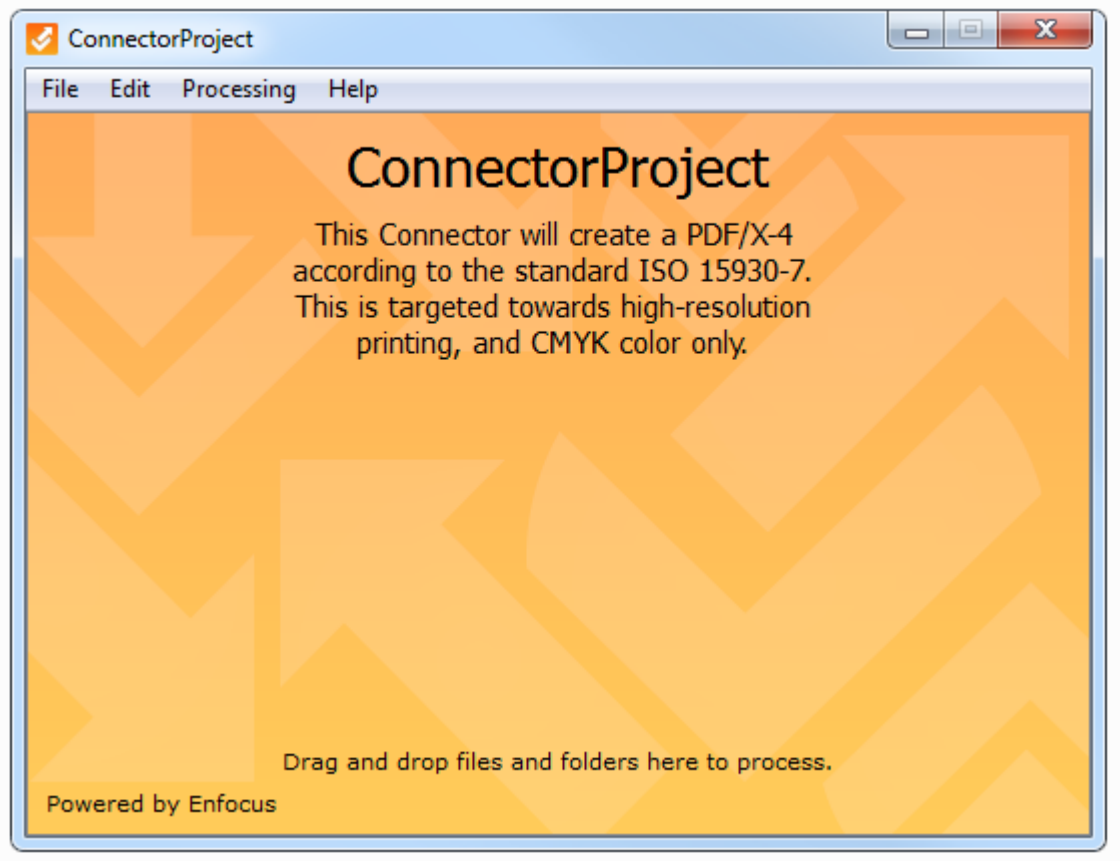
   

2. 次の操作で、1つ以上のファイルをConnectorに送信します。
   - ファイルまたはフォルダをドラッグアンドドロップ
   - （設定されている場合は）印刷を実行、または
   - （設定されている場合）プラグインから書き出し

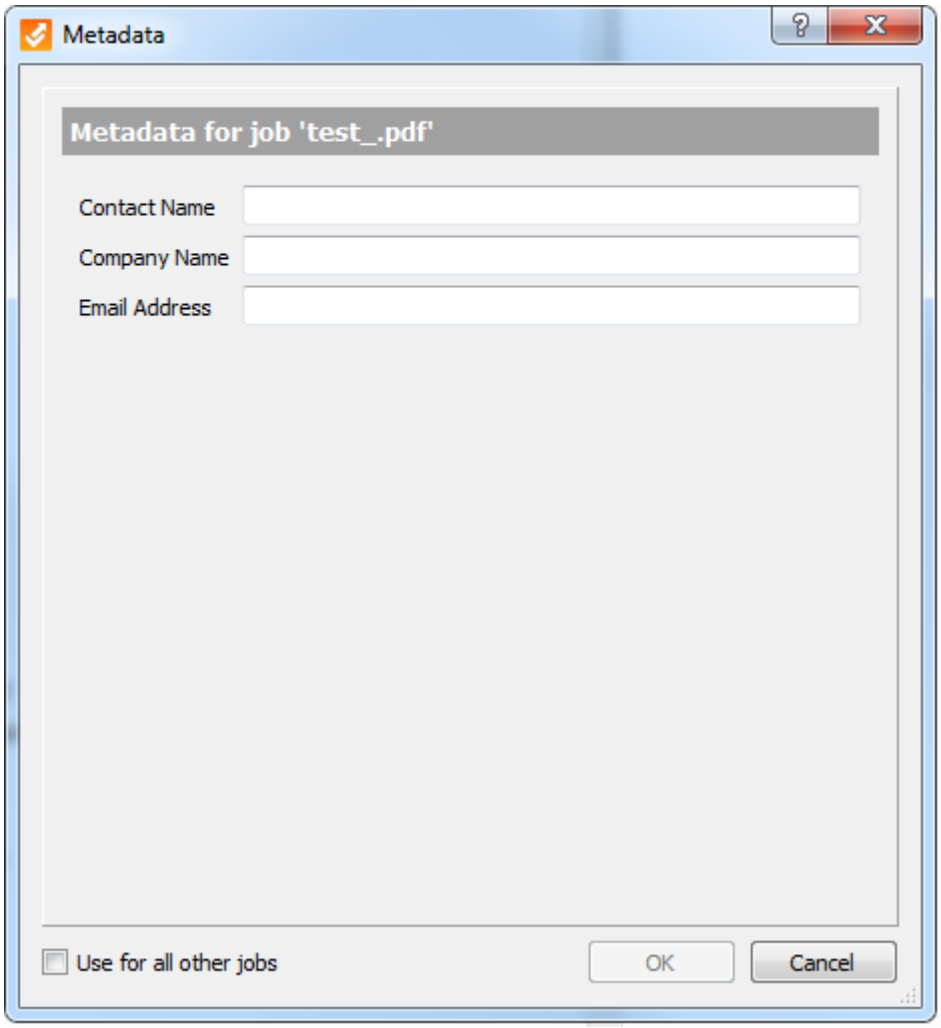
   これらの操作を、Connectorアプリケーションのアイコン上、またはConnectorウィンドウ内に行うことで、処理が開始します。

   注: Connectorに配信ポイントのために定義されたローカルディレクトリがある場合、送信先のフォルダを選択するよう求められます。

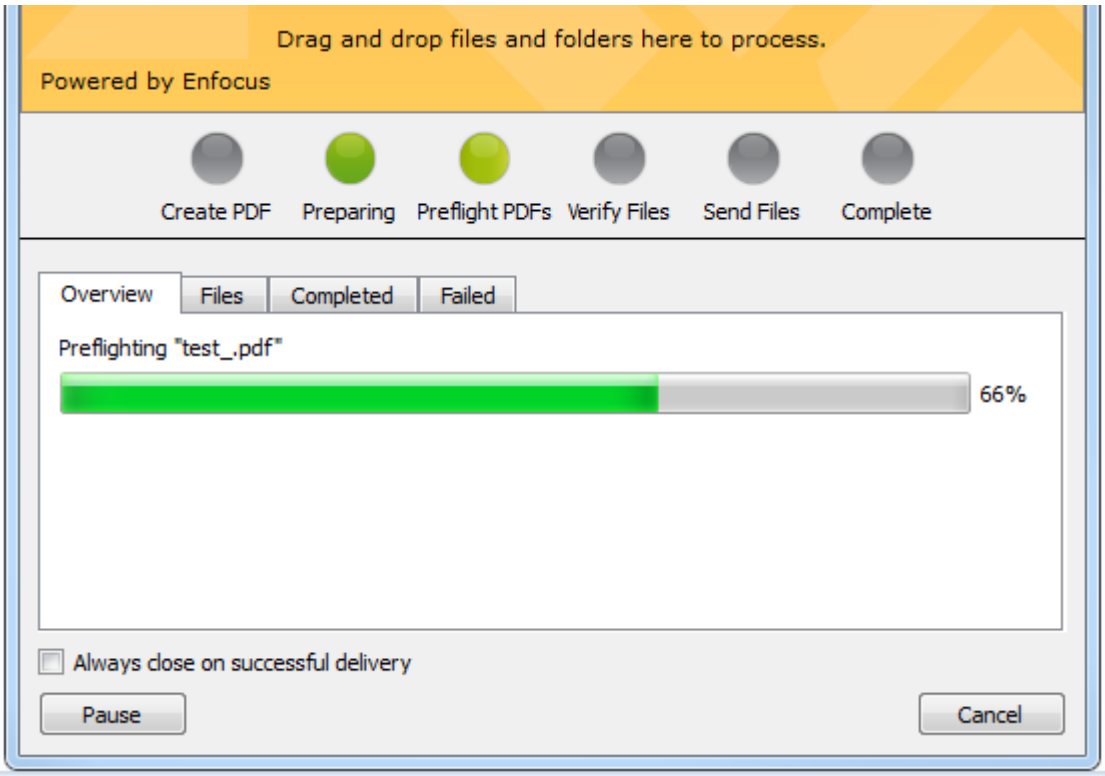
   「*Enfocus Connectorへのファイルの送信* 129 ページの」を参照してください。



3. Connectorの設定に応じて、1つ以上のダイアログがポップアップ表示され、サーバへの配信のための認証情報やジョブ関連の情報（所属する会社名、メールアドレスなど、詳しくはスクリーンショットを参照などの）追加情報の入力がユーザに対して求められる場合があります。ジョブ関連のデータ（メタデータ）は処理済みジョブとともに（バックグラウンドで）XML、TXTまたはCSVファイルとして送信され、ジョブチケットと呼ばれるものになります。「追加情報の入力 133 ページの」を参照してください。

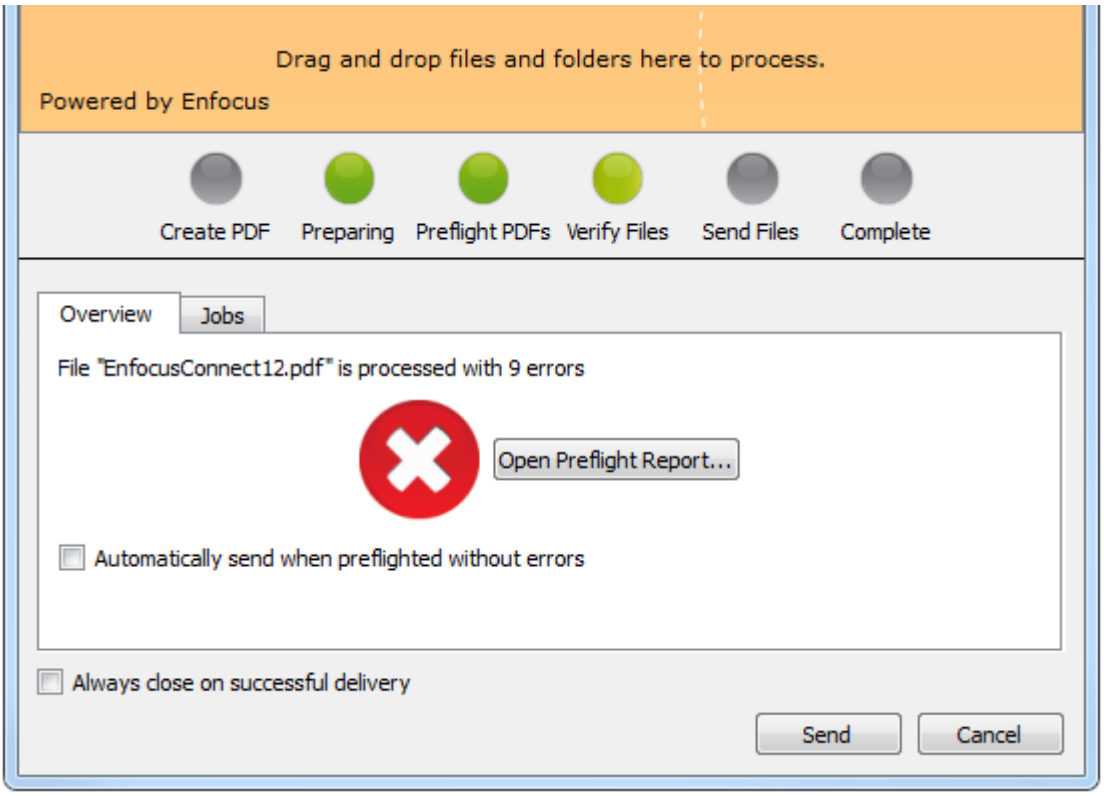


4. メインのConnectorウィンドウの下部で、ファイルの進行状況をチェックします。「ファイルの進行状況のチェック 135 ページの」を参照してください。



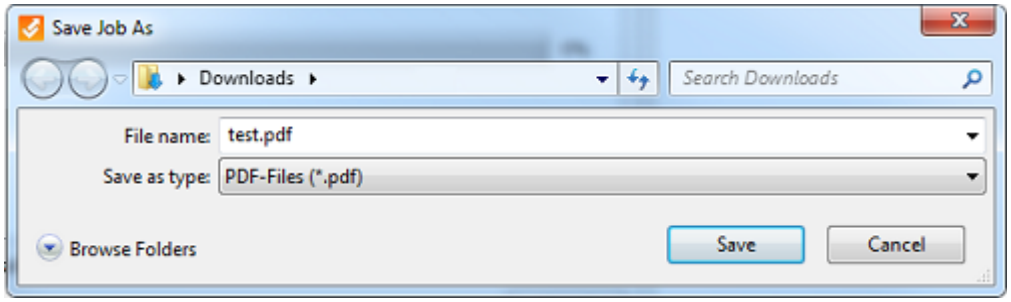
5. ConnectorがPDFファイルをプリフライトおよび検証するよう設定されている場合、プリフライトの結果が表示されます。（Connectorの作成者がこの機能を無効にしていない限り）ユーザによってプリフライトレポートを再確認する機会が得られます。

「プリフライト結果の検証 137 ページの」を参照してください。



Connectorの設定によって、処理済みファイルは自動的に配信されます。または、ローカルファイル保存が有効になっている場合は、ファイルを保存するように求められます。ファイルの保存先として、前回［名前を付けて保存］ボタンが表示されたときのものが記憶されています。

以下のスクリーンショットは、処理されたファイルをローカルで保存することになる場合に表示されるダイアログです。



注: Connector設定によっては、ローカルコピーを印刷できない場合や、スタンプやバナーが追加される場合があります。これは、不正利用からファイルを保護するためのものです。

5.1.1. Enfocus Connectorの設定

Enfocus Connectorを設定する手順

1. Enfocus Connectorをご使用のコンピュータ上の任意の場所にダウンロードまたは作成します。

   Connectorがzipファイルの場合、まず解凍する必要があります。推奨ツールはWinZipまたは7-Zip (Windows)およびThe Unarchiver (Mac OS)です。

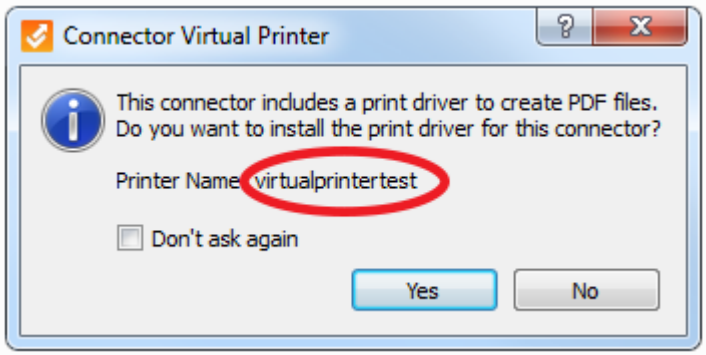
2. Enfocus Connector（.exe または .app）をダブルクリックして、使用を開始します。

   Connectorを起動するとすぐに、自動的に、Enfocus Printer Processorアイコンに関連付けられた[Extra]メニュー（Mac）または通知領域のメニュー（Windows）に追加されます。メニューバー（*Mac*）またはタスクバー（*Windows*）からの*Connector*の起動 127 ページのを参照してください。

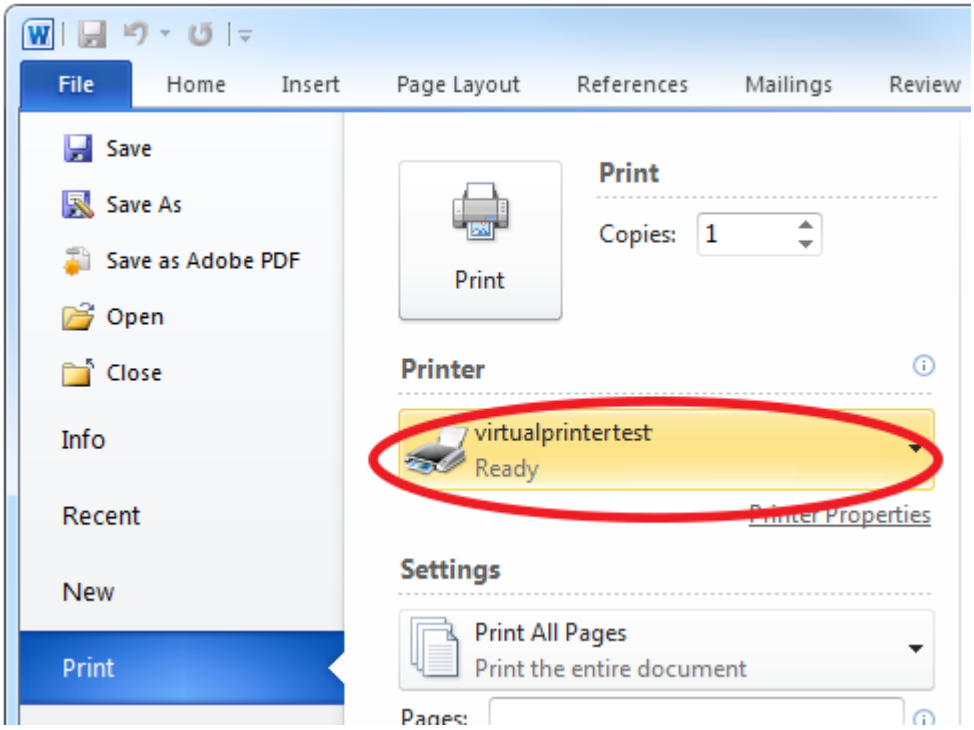
3. Connectorに仮想プリンタがある場合、Connectorは初回起動時にプリントドライバをインストールするよう提案します。**[**はい**]**をクリックします。

   仮想プリンタでは、任意のアプリケーションから直接Connectorにファイルを印刷することが可能です。Connectorに含まれているプリントドライバをインストール済みの場合、使用するアプリケーションのプリンター覧にConnectorのプリンタ名が表示されます。

   下の例では、プリンタ名は*virtualprintertest*です。



   この名前は、Microsoft Wordなどの使用するアプリケーションのプリンター覧に表示されます。

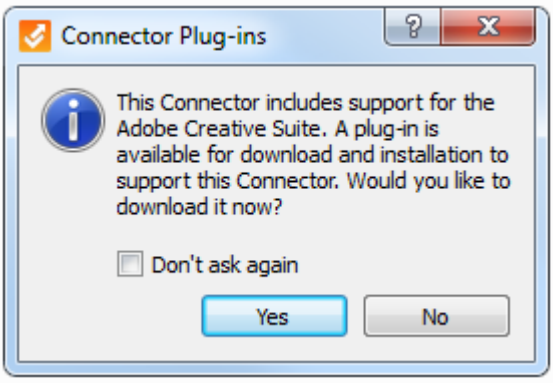


注:

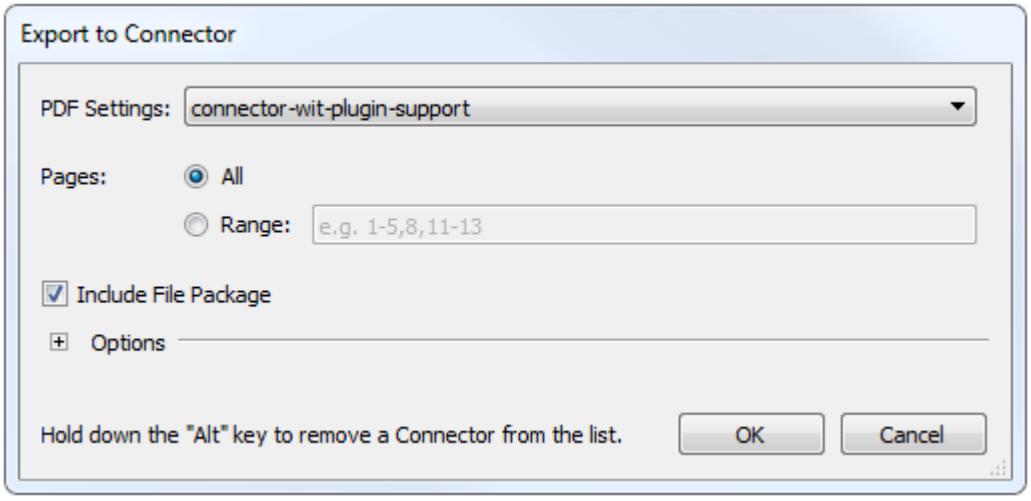
- 仮想プリンタがインストールされている場合、プラグインサポート（次のステップを参照）を常に利用できますが、プラグインのダウンロードおよびインストールについての通知が得られない場合があります（これはConnectorプロパティに依存します）。
- Enfocus Connectorをアンインストールするには、コンピュータから Connector を削除するだけで済みます。仮想プリンタは他のプリンタと同様に削除できます。

4. Connectorが**[プラグインダウンロード]**を有効化するよう設定されている場合（また、プラグインが未インストールの場合）、Connectorは操作手順とダウンロードおよびインストールが可能なプラグインの一覧が掲載されているWebサイトへのリンクを提供します（これはConnectorプロパティに依存します）。**[はい]**をクリックして、画面の指示に従います。

   プラグインサポートを使用すると、内部PDF書き出し機能によって、Adobe InDesignやAdobe Illustratorなどの特定のサードパーティ製アプリケーション内からPDFファイルを作成し、追加処理のため直接Connectorに送信できます。



たとえば、Plug-in for InDesignをインストールすると、InDesignで追加オプションがファイルメニューにあります（たとえば**Connector**に書き出しオプション）。このオプションをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



Connectorを使用できる準備が整いました。

5.1.1.1. メニューバー（Mac）またはタスクバー（Windows）からのConnectorの起動

システムで1回以上起動されたすべてのConnectorは、システムのメニューバー（Mac）またはタスクバー（Windows）のEnfocus Printer Processorアイコンを使用して起動できます。結果として、システムのさまざまな場所にあるConnectorを検索する必要がありません。すべて1つのリストにあり、簡単にアクセスできます。

デスクトップまたはコンピュータからConnectorを削除する場合でも、メニューバーまたはタスクバーを使用してアクセスできます。

メニューバー/タスクバーからConnectorを起動するには

1. Enfocus Printer Processorアイコンを右クリックします。

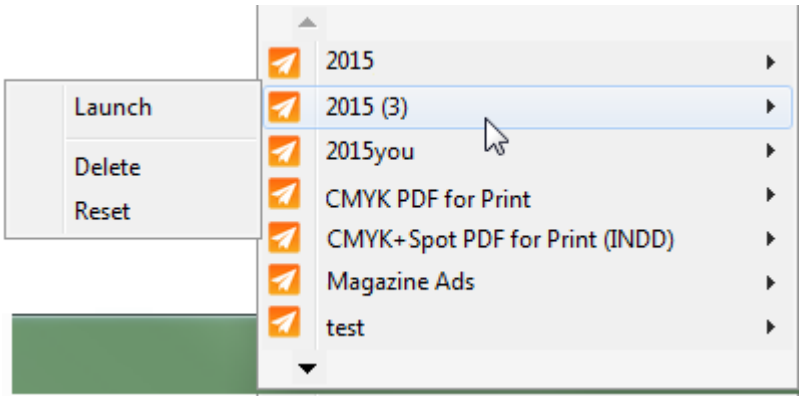
   Macでは、アイコンはメニューバーの右側（画面の上部）にあります。

Windowsでは、アイコンはタスクバーの通知領域（画面の下部）にあります。アイコンが表示されない場合、まずタスクバーに追加しなければならないことがあります。「*タスクバーへのEnfocus Printer Processorアイコンの追加(Windows)* 129 ページの」を参照してください。

Connectorのリストがアルファベット順に表示されます。

2. 起動するConnectorをクリックします。
3. サブメニューから起動を選択します。
   - このサブメニューには2つの他のオプションがあります。
     - 削除: Connectorをメニューから削除し、ローカルConnectorをリセットします。システムからはConnectorを削除しません。Connectorを後から起動する場合、もう一度メニューに追加されます。
     - リセット: Connector（ある場合はユーザー環境設定、設定キャッシュ、プリンタ、プラグインなど）をリセットします。Connectorはメニューから削除されません。

       注: *Connector*が古いバージョンの*Connect*（*13*より前）で作成された場合、このオプションは灰色表示されます。Connectorをリセットするには、起動して、処理 > **Connector**のリセットをクリックします。その後、*Connector*の名前の前に小さい星が表示されます。Connectorを起動しないことを示します（起動オプションは灰色になります）。まず、元のConnectorを再起動する必要があります。
   - このオプションは、該当する言語のConnect言語パックがソフトウェアとともにインストールされている場合、ユーザーのシステム言語で表示されます。それ以外の場合、英語で表示されます。



Connectorはただちに起動します。

5.1.1.2. タスクバーへのEnfocus Printer Processorアイコンの追加(Windows)

既定では、Enfocus Printer Processorアイコン( )がシステムのタスクバーに表示されます。ただし、表示されない場合は、次の手順で追加できます。

1. コントロールパネルを開きます。
2. タスクバーとスタートメニューを選択します。
3. 通知領域のタスクバータブで、**[カスタマイズ]**をクリックします。
4. アイコンのリストで、Enfocus Printer Processorを検索し、動作の下で**[アイコンと通知を表示]**を選択します。
5. **[OK]** をクリックします。

5.1.2. Enfocus Connectorへのファイルの送信

次の方法でファイルを送信できます。

- ファイルまたはフォルダをConnectorアイコン上に、またはConnectorウィンドウ内にドラッグアンドドロップします。「*Enfocus Connectorへのファイルの手動送信* 130 ページの」を参照してください。
- 仮想プリンタがConnector用にインストールされている場合、ファイルを他のアプリケーションから直接Connectorに印刷できます。「*Connectorへのファイルの印刷* 130 ページの」を参照してください。
- プラグインサポートがConnectorに対して有効になっている場合（デフォルトではPDF作成が有効になっていた場合）、別のアプリケーションからファイルを書き出したり、Connectorに直接送信することができます。「プラグインサポートの使用によるファイルの送信 131 ページの」を参照してください。

注: ジョブチケットの配信がConnectorで有効になっている場合、ジョブを送信せずに、ジョブチケットを配信することが可能です。「ジョブチケットのみの配信 132 ページの」を参照してください。

5.1.2.1. Enfocus Connectorへのファイルの手動送信

注: 複数のファイル（PDFまたは非PDF）を一度に送信することができます。複数のファイルがあるフォルダも一度に送信可能です。

Connectorにファイルを送信する手順

次のいずれかを実行します。

- ConnectorメインウィンドウまたはConnectorアイコンにファイルおよび/またはフォルダをドラッグアンドドロップします。
- Connector ウィンドウで［ファイル］ > ［ドロップ］を選択して送信するファイルを選択します。

  複数のファイルを選択するには、選択を行っている間、**Ctrl**キーを押し続けます。

注: Connectorの作成者は、PDFファイルだけを許可するように制限できます。この制限が有効な場合、PDF以外のファイルを送信すると、エラーメッセージが表示されます。

5.1.2.2. Connectorへのファイルの印刷

Connector用の仮想プリンタをインストール済みである場合（*Enfocus Connectorの設定* 125 ページのを参照）、ご使用のシステム上の任意のアプリケーションからConnectorにファイルを印刷できます。印刷されたファイルは、Connectorで定義された仕様に従って、PDFに変換されます。

これにより、ファイルの作成や設計に使用したアプリケーションから直接ファイルを印刷できるため、時間を節約できます。

Connectorにファイルを印刷する手順

1. 関係するアプリケーションを開きます。
2. Connectorに送信するファイルを開きます。
3. ［印刷］ダイアログを開きます。
4. [プリンタリスト]から、Connector用としてインストールされている［仮想プリンタ］の名前を選択します。
5. ［印刷］をクリックします。
   仮想プリンタはPostScriptファイルを作成し、Adobe NormalizerでPDF以外のファイルに変換してから、Connectorに送信します。Connectorのメインウィンドウが自動的に開きます。

Connectorの設定に応じて、追加情報の入力やプリフライトの結果の検証がユーザに対して求められます。

5.1.2.3. プラグインサポートの使用によるファイルの送信

ConnectorにPDF作成が含まれている場合、InDesignまたはIllustratorからPDFファイルを作成できます（プラグインをインストール済みの場合）。また作成したファイルを直接Connectorに送信できます。「*Enfocus Connectorの設定* 125 ページの」を参照してください。

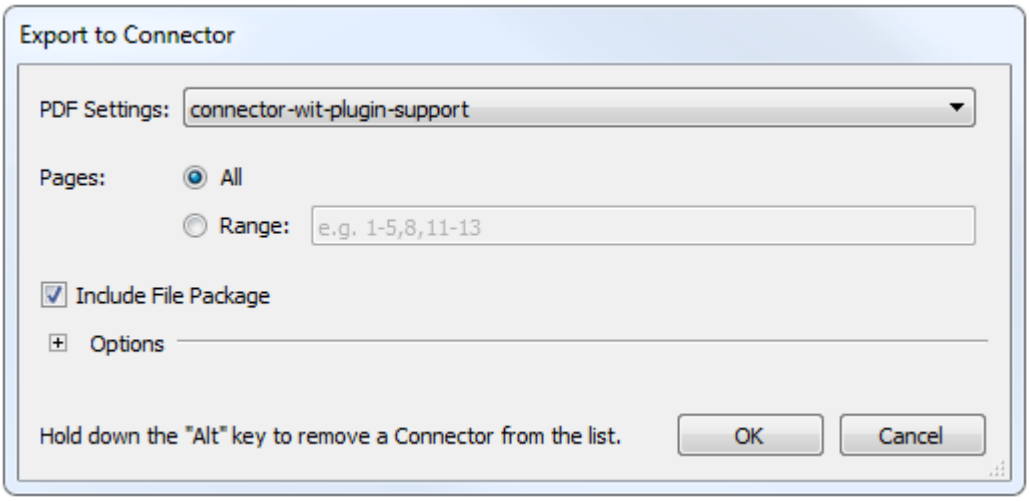
InDesignまたはIllustratorでプラグインを使用すると、Connectは［書き出し］機能を利用して、透過性などの特殊機能をサポートするようにすることができます。また、プラグインを使用することによって、トンボやブリードなどの設定に直接アクセスできるようになります。

プラグインサポートを使用してファイルを送信する手順

1. Adobe InDesignなどの関係するサードパーティ製アプリケーションを開きます。
2. Connectorに送信する必要があるドキュメントを開きます。
3. ［ファイル］ > ［**Connector**に書き出し］を選択します。

   注: このオプションは、サードパーティのプラグインがインストールされている場合にのみ使用できます。

   ［**Connector**に書き出し］ダイアログが表示されます。



4. ［**PDF**設定］ドロップダウンで、ファイルの送信先のConnectorの［PDF設定名］を選択します。

   注: PDF設定名をサードパーティ製アプリケーションの［**PDF**設定］リストから削除する場合は、PDF設定リストで選択し、Altキーを押し続けます。**[OK]**ボタンが**[**削除**]**に変わります。このボタンをクリックすると、現在選択されている設定名はリストに表示されなくなります。

5. どの［ページ］が書き出されるかを指定します。

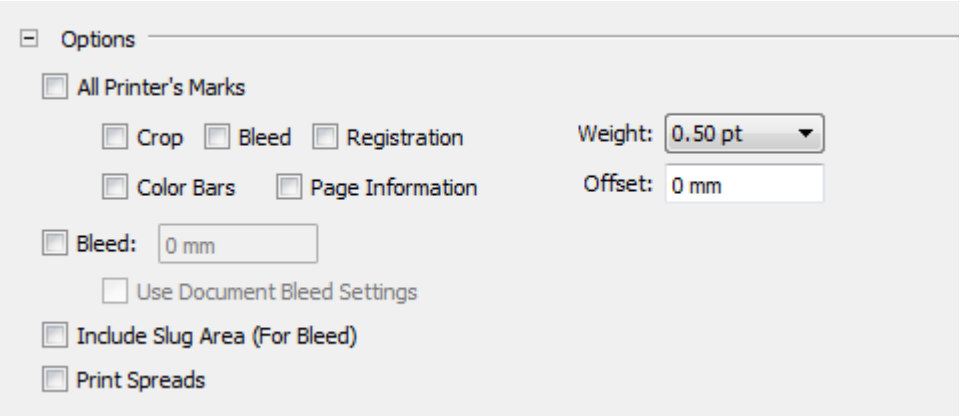
- 文書全体を書き出すには、［すべて］を選択します。
- 文書の一部のみを書き出すには、［範囲］を選択してページの範囲（1-5など）を定義します。

6. 使用可能かつグレーアウト表示されていない場合、ファイルパッケージを含めるを有効または無効にします。

   このセクションが使用可能になるかどうか、およびオフにできるかどうかは、Connectorの設定に応じて変わります。このオプションが有効な場合、最新バージョンの文書がConnectorに書き出されます（未保存の場合も）。

7. 使用可能な場合、⊟をクリックして、［オプション］セクションを展開するか、適切な設定を選択します。

   このセクションが使用可能になるかどうかは、Connectorの設定に応じて変わります。これらのオプションが使用できない場合、Connectorで定義されたPDF設定が使用されます。



8. **[OK]** をクリックします。

アプリケーションの書き出し機能を使用してファイルがPDFとして書き出されます。プラグインによってバックグラウンドでPDFが作成されると、直接Connectorに送信され、プリフライトや配信などの追加処理が行われます。Connectorのメインウィンドウが自動的に開きます。

5.1.2.4. ジョブチケットのみの配信

Connectorがジョブチケットを配信するよう設定されている場合、ジョブを送信せずにジョブチケットを起動して配信することができます。これは、新規レコードの作成や、MISまたは他のジョブ追跡システムでの既存のレコードの修正に役立ちます。Connectorはジョブチケットを、別のデータベースシステムで抽出して処理することが可能な、定義済みのフォルダまたはサーバに送信します。

注: Connectorプロパティで、ジョブチケット、およびジョブチケットの配信をサポートする配信ポイントが、ジョブチケットのみの配信を有効にするよう定義されている必要があります。Connectorがジョブチケットのみの配信をサポートしていない場合、［ファイル］ > ［ジョブチケットの送信］オプション（この手順のステップ1を参照）は無効になります。

ジョブチケットを配信する手順

1. Connectorのメインウィンドウで、［ファイル］ > ［ジョブチケットの送信］をクリックします。

   注: また、Ctrl+J（Windows）またはCmd+J（Mac）のショートカットキーを使用することもできます。

   ［メタデータ］ダイアログがポップアップ表示されます。

2. 必要な詳細情報を入力します。

   注: このConnectorに送信されるすべてのジョブに対して同じ値を使用する場合は、［その他のジョブに使用する］チェックボックスを選択します。

3. **[OK]** をクリックします。
   ジョブチケットが正常に配信されたことを伝えるダイアログが表示されます。

4. ダイアログを閉じるには［**OK**］をクリックします。

5.1.3. 追加情報の入力

Connectorにファイルを送信するときに、追加情報を入力するように指示される場合があります。

Connectorの作成者がConnectorの設定で必要とされる情報および方法を定義しています。一部の情報は必須で、それらの情報が入力されていない場合、Connectorが停止します。

ダイアログボックスが表示される場合があります。

1. ファイル配信の設定

   複数のファイルを送信済みの場合、［ファイルの配信］ダイアログがポップアップ表示されます。

   次の情報を入力します。

   - ファイルが別個のジョブとして処理されるか1つのジョブとして処理されるかを指定します。

     1つのジョブとして送信されると（Connectorでジョブチケットが有効になっている場合）、1つのジョブチケットのみが表示されます。別個のジョブとして送信すると、ユーザは処理された各ファイルについてジョブチケットを取得します。

   - ファイルを1つのジョブとして処理することを選択した場合は、ジョブの名前を入力します。

     名前を入力しないと、リスト内の最初のファイルの名前が使用されます。処理されたファイルは、この名前のzipファイルに圧縮されます。

   - このダイアログでの設定どおりにすべてのファイルが処理されるようにするには、［常にこれらの設定を使用する］を選択します。

ダイアログが次回にポップアップ表示されると、選択された設定（別個のジョブまたは1つのジョブ）がデフォルト設定になります。

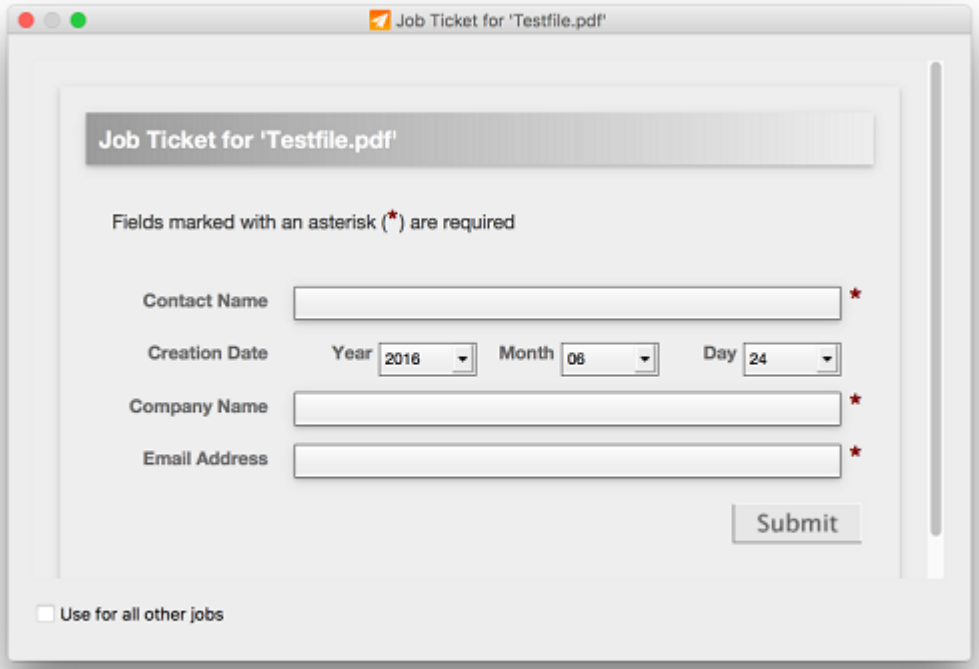
2. 配信設定

- Connectorがファイルをローカルフォルダに配信するように設定されている場合、処理済みファイル用のプライマリ（およびオプションとしてセカンダリ）の出力フォルダを選択するよう求められます。選択したフォルダの設定は、ファイルをConnectorに初めて送信するときなどに、1回だけ行う必要があります。設定の変更は、後で［Connector環境設定］で行うことができます（［編集］ > ［環境設定］ > ［フォルダの配信］を選択）。

- 選択したEnfocus Switch送信ポイントにファイルを配信するようにConnectorを設定している場合、適切な送信ポイントをリストから選択するよう求められます。このリストには、アクセスできるすべての送信ポイントが表示されます。

3. ジョブチケット（メタデータ）。この場合、[メタデータ]ダイアログがポップアップ表示され、ジョブの追加情報を入力できます。必要な値を入力し、**[OK]**をクリックします。

   ダイアログの内容、外観および質感は、Connectorの作成者によってカスタマイズ可能で、ここで示される内容とは異なります。HTMLジョブチケットが外部サイトにリンクしている場合、コンテンツを表示する際にサイトの認証情報の入力を要求される場合があります。プロキシ設定に関する問題は、*Connector環境設定*で解決できます。



注: このConnectorに送信される他のすべてのジョブに対して同じ値を使用する場合は、［その他のジョブに使用する］チェックボックスを選択します。

4. ファイル転送のログオン情報。配信サーバ用のユーザ名および/またはパスワードがConnectorで定義されていない場合、これらの認証情報を入力するよう求められます。ログオン認証情報が埋め込まれている場合、入力は求められません。

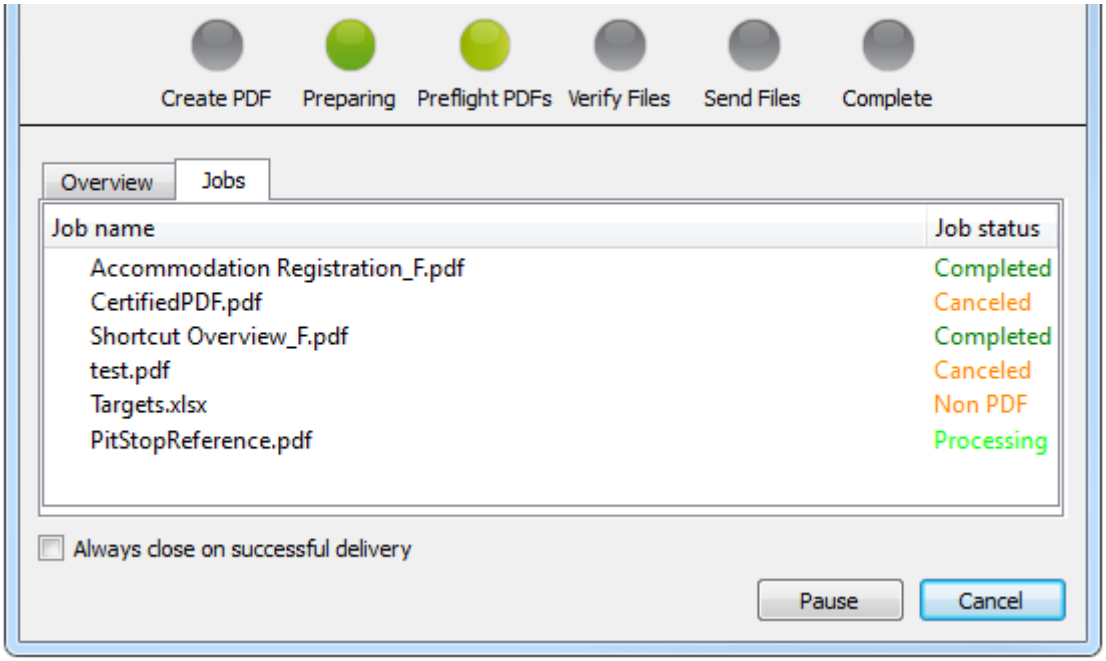
5.1.4. ファイルの進行状況のチェック

ファイルをConnectorに送信したら、Connectorのメインウィンドウの下部に処理中のファイルに関する情報が表示されます。

- グレー/緑色の円は、ファイルが通っている別個のステップを示すものです。ファイルが処理中の場合、現在のステップが点滅表示されます。
- 処理中のファイルに関する情報は、2つのタブで示されます。
  - 概要タブには、現在のステップ情報、プリフライト情報（該当時）など、またはエラー情報が表示されます。

    ヒント: エラーの場合、エラーにマウスを置き、ヒントと問題の説明を表示します。

  - ジョブタブには、次のような、Connectorのすべてのアクティブなファイルとステータスが表示されます。
    - 完了: ジョブが正常に処理され配信された場合に表示されます。
    - キャンセル: ジョブが手動でキャンセルされた場合に表示されます。
    - 制限 : 送信ファイルタイプが許可されていない場合は、処理されません。
    - 処理中: ジョブが現在処理中の場合に表示されます。
    - 失敗: 許容されているファイル サイズを超過したなど、何かの理由でジョブを処理または配信できなかった場合に表示されます。

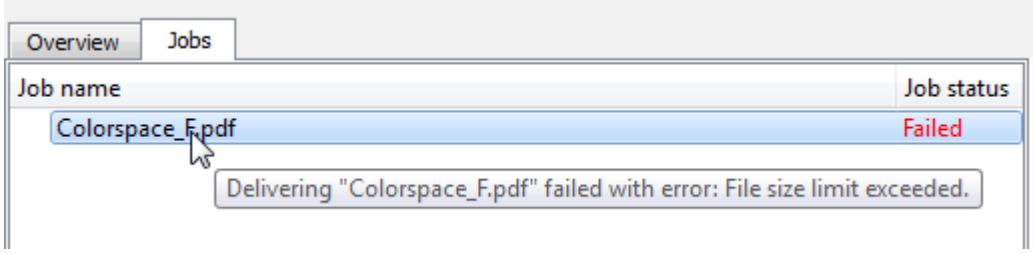


- ファイルが正常に配信されると、多くの場合、それらをチェックする必要はありません。［配信が完了したら必ず閉じる］チェックボックスをオンにすると、Connectorのウィンドウはファイルの配信後に自動的に閉じます。［プロセス］メニューからこのオプションを有効または無効にすることもできます。

- ［キャンセル］ボタンを使用してアクティブジョブの処理を停止することができます。その場合、アクティブジョブ（現在処理中のファイル）のみをキャンセルするか、キューにあるすべてのジョブ（Connectorに送信されたすべてのジョブ）をキャンセルするか、選択可能になります。

- ［一時停止］ボタンを使用すると、処理を数分間停止できます。停止すると、［一時停止］ボタンは［再開］ボタンに変わります。ジョブを続行するには、［再開］をクリックします。

ヒント：ジョブがなぜ失敗したかを知るには、ジョブの名前の上にマウスを移動して、ツールチップを確認します。



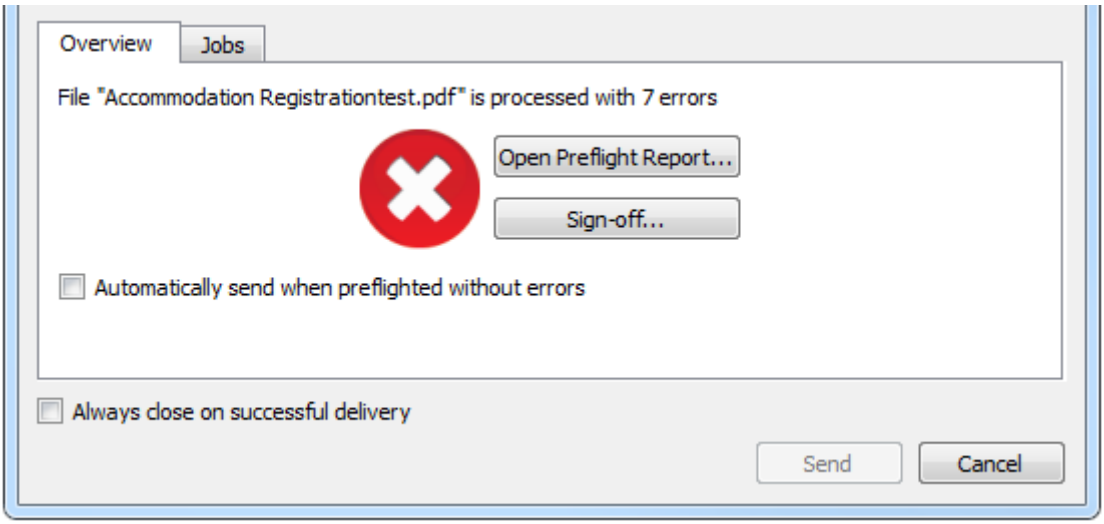
5.1.5. プリフライト結果の検証

PDF プリフライトがConnectorで有効になっている場合、ConnectorはEnfocus PitStopの技術を使用して、処理中のPDFファイルの設定および他の要素の検証を行います。チェック項目の設定はConnectorの作成者によって行われ、100以上の品質チェックを含めることができます。

プリフライト検証が有効でない場合、プリフライトが発生しても、Connectorはユーザの検証のために一時停止しません。

アイコンはプリフライト結果を示します。

- 緑のチェックマークは、PDFが正常にプリフライト処理されたことを示します。
- オレンジのチェックマークは、重要度が低い問題などの警告付きでPDFが処理されたことを示します。
- 赤い十字（以下のスクリーンショットを参照）は、PDFのプリフライトチェックが失敗したことを示します。



- プリフライトレポートを表示するには、［プリフライトレポートを開く］ボタンをクリックします。
- 特定のエラーについてサインオフするには、［サインオフ］ボタンをクリックします。

注:

- ［サインオフ］ボタンは、プリフライトプロファイルで設定されていて、Connectorの作成者が許可している場合にのみ使用可能です。
- エラーについてサインオフすると、そのエラーは警告として扱われ、ファイルが正常にプリフライトされるのを妨げないようになります。これは便利な機能で、ドキュメントの作成者がエラーの状態を承認したり、エラーの追加情報のやり取りを行うことが可能になります。

1. **[**サインオフ**]** ボタンをクリックします。［サインオフ］ウィンドウが開きます。

2. サインオフをクリックして、すべてのエラーを一度にサインオフします。必要に応じて、サインオフの理由を入力します。
3. リストで1つ以上のエラーを選択し、選択項目をサインオフをクリックし、選択したエラーだけをサインオフします。必要に応じて、サインオフの理由を入力します。

- ファイルがエラーまたは警告なしでプリフライトされた場合に［ファイルの検証］ステップをスキップするには、［エラーなくプリフライトされた場合、自動的に送信］を有効にします。この機能は、［プロセス］メニューから有効にすることもできます。
- ファイルを配信するには、［送信］ボタンをクリックします。

注: Connectorでプリフライトを通過したPDFファイルのみの配信が許可されている場合、ファイルにエラー（警告ではない）があると、［送信］ボタンが無効になります。最初にエラーをサインオフするか、［キャンセル］をクリックし、ファイルのエラーを訂正してファイルを再送信します。

5.2. Connector環境設定の設定（オプション）

Enfocus Connectorのユーザとして、環境設定の数を設定することもできます。

Connectorの環境設定を行う手順

1. Connectorのメインウィンドウで、［編集］ > ［環境設定］を選択します。
2. ［ユーザ環境設定］ダイアログで、適切なカテゴリを選択します。
   - 全般
   - ネットワーク（タイムアウトオプションの設定用）
   - ネットワーク **>** Eメール
   - ネットワーク **>** プロキシ
   - ネットワーク **>** フォルダ配信

   対応する環境設定がダイアログの右側に表示されます。
3. 必要に応じて環境設定に入力します。
   次の説明を参照してください。
   - *Connector環境設定 - 全般* 138 ページの
   - *Connector環境設定 - ネットワーク > Eメール* 139 ページの
   - *Connector環境設定 - ネットワーク > プロキシ* 140 ページの
   - *Connector環境設定 - ネットワーク > フォルダの配信* 140 ページの
4. **[OK]** をクリックします。

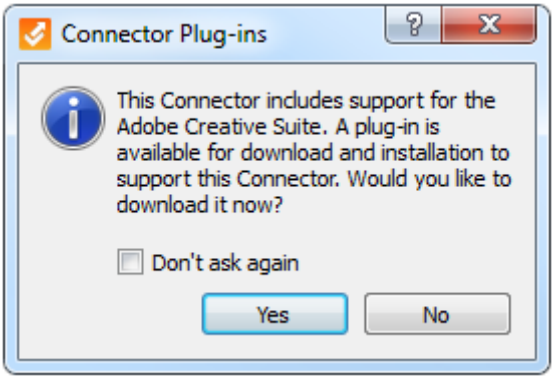
5.2.1. Connector環境設定 - 全般

次の表では、カテゴリ［全般］におけるConnectorのユーザ環境設定の概要を示します。

環境設定	意味
通知をリセット	このオプションは、プラグインのダウンロードや、仮想プリンタのインストールを求めるメッセージなど、あらゆる警告をリセットします。

例

Connectorプラグインの通知で［再確認しない］を選択した場合、［環境設定］ペインで［通知をリセット］ボタンをクリックしない限り、警告メッセージは二度とポップアップ表示されなくなります。



5.2.2. Connector環境設定 - ネットワーク > Eメール

次の表では、カテゴリ［**E**メール］におけるConnectorのユーザ環境設定の概要を示します。

注: Connectorがファイルの配信をメール送信で（処理済みファイルを添付して）行うように設定されている場合のみ、これらの環境設定を変更できます。事前設定済みの配信方法を変更することはできません。変更可能なのは設定済みのメールサーバのみです。

環境設定	意味
SMTPサーバー	メールサーバの名前
ポート	メールサーバのポート
SSL の使用	SSLが有効の場合、メールサーバとの通信が保護されます。
認証が必要です	無効の場合、ユーザの認証情報は不要です。 有効の場合、ユーザの認証情報が必要になります。アカウント名とパスワードのフィールドがアクティブになり、入力する必要があります。

注: ［デフォルトを復元］ボタンを使用すると、変更内容を取り消したり、Connectorで設定された設定に戻ることができます。

5.2.3. Connector環境設定 - ネットワーク > プロキシ

次の表では、カテゴリ［プロキシ］におけるConnectorのユーザ環境設定の概要を示します。

注: これらの環境設定が関係するのは、ConnectorがHTTP、HTTPS、SFTPまたはFTPを経由してファイルを配信するよう設定されている場合のみです。外部HTMLジョブチケットの場合も同様です。（Webサイト上の）外部ジョブチケットへの接続がブロックされる場合は、Connector環境設定からHTTPプロキシ設定をセットアップできます。

環境設定	意味
プロキシなし	システムのプロキシ設定は無視されます（プロキシの設定なし）。
プロキシ設定を自動検出	プロキシ設定がシステムから読み込まれます（デフォルトの設定）。
手動プロキシ設定	プロキシ設定は手動で設定されます。必要な詳細情報を入力します。 • プロキシ：サーバのIPアドレス • ポート：サーバのポート番号 有効化された機能の詳細のみ入力できます。（たとえば、ConnectorでFTP配信がオンでない場合は、FTPプロキシフィールドが灰色で表示されます。） これらの設定はシステムのプロキシ設定よりも優先して適用されます。

5.2.4. Connector環境設定 - ネットワーク > フォルダの配信

次の表では、カテゴリ［フォルダの配信］におけるConnectorのユーザ環境設定の概要を示します。

注: これらの環境設定が関係するのは、Connectorがローカルフォルダにファイルを配信するよう設定されている場合のみです。Connectorの初回起動時に、設定された配信ポイントそれぞれに対して出力フォルダを選択するよう求められます。選択したフォルダがここに表示されます。必要に応じて変更することができます。

環境設定	意味
プライマリ	プライマリ配信ポイントとして使用される出力フォルダ。
セカンダリ	セカンダリ配信ポイントとして使用される出力フォルダ。設定されたセカンダリ配信ポイントがない場合、このフィールドはグレーアウト表示のままです。

5.3. トラブルシューティング

Connectorを開こうとするとエラーが発生します

最初に、オペレーティングシステムに合った正しいConnectorであるかどうかを確認します。Windowsは.exe、Mac OSは.appです。正しい場合、Connectorの製造元に問い合わせてください。

ファイルを送信するときに次の設定エラーのいずれかが発生します。

- **Enfocus Switch** サーバーに接続することができません
- **FTP** サーバーに接続することができません
- 送信ポイントがアクティブな状態ではありません

上記のすべての場合において、選択した配信ポイントが使用できない、またはConnectorがサーバーに接続できない状態になります。これは、サーバーが使用できないか、インターネット接続がダウンしているか、サーバー側の設定が変更されたために発生している可能性があります。

最初にローカルインターネット接続を確認し、Connectorが外部と通信できることを確認してください。通信できない場合は、しばらく待機してから、ファイルまたはジョブを再送信してください。問題が解決しない場合は、Connectorの製造元に問い合わせ、表示される特定のメッセージを伝えてください。

ファイルを送信するときに「パスワードが未入力か、間違ったパスワードを提供しています」というエラーが発生します

正しいパスワードを入力して、処理を進めてください。

ファイルにはプリフライトエラーがあります

プリフライト エラーが出た場合、次のいずれかを実行します。

- キャンセルをクリックします。ソースファイルでエラーを修正するか、PitStop ProでPDFファイルを修正します（*http://www.enfocus.com/products/pitstop-pro*を参照してください）。Connector に新しいファイルまたは修正済みのファイルをドロップします。
- サインオフ**...**をクリックして、プリフライトエラーをサインオフし、PDFがプリフライトに通るようにします。
- 続行をクリックして、ファイルの送信を続行します（Connector の作成者が許可したファイルのみ可能です）。

詳細については、*www.enfocus.com*のEnfocus Webサイトのサポートセクションを参照してください。

ファイアウォールの外側で作業する **-** 設定上書き

外部ベンダーによって提供されたConnectorがファイアウォールの外側で動作せず、外部サーバーとの接続や電子メール通知の送信が失敗する場合があります。ネットワークセキュリティ

を保護し、ファイアウォールが原因の接続の問題を修正するために、Connector内でプロキシ設定および電子メール設定を調整できます。「*Connector*環境設定の設定（オプション） 138 ページの」を参照してください。

解決されない問題がある場合

上述の解決策が発生している問題に有効でない場合は、次を試すことも可能です。

- ［プロセス］ > ［ログを開く］を選択することによって、ログファイルを調べます。
- ［プロセス］ > ［ログを削除］を選択して、ログファイルをリセットし、Connectorを再び使用します。
- すべてのバックグラウンドファイル(プラグインと仮想プリンタのインストールファイルなど)を削除します。このためには、処理 > **Connector**のリセットを選択するか、（メニューバーかタスクバーから*Connector*を起動している場合は）サブメニューからリセットを選択します。これにより、Connectorをクリーン環境で実行可能になります。Connectorを再起動するときに、任意のプラグインおよび/または仮想プリンタを再インストールできます。

問題が解決しない場合は、Connectorの製造元に問い合わせてください。この場合、[バージョン情報]パネルに表示されるバージョン情報またはConnectorに関するその他の詳細情報を提供するように求められる場合があります。[バージョン情報]パネルを開くには、ヘルプ > バージョン情報をクリックします。

6. さらにサポートが必要な場合

1.Enfocus Connect製品ドキュメントを参照する

マニュアルのセット	説明	アクセス方法
Enfocus Connectユーザーガイド	Enfocus Connectの詳細情報と高度なトピック このガイドは、すべてのEnfocus Connectバージョン（YOU、ALL）についての説明を記載しています。	Enfocus Webサイトの［サポート］セクションに移動して、（マニュアル下の）Connect ALLまたはConnect YOUを選択します。ダイレクトリンク：*https://www.enfocus.com/en/support/manuals/connect-all-manuals* または、アプリケーション内からヘルプを開いて、［**F1**］を押すか、［ヘルプ］ > ［**Enfocus Connect ALL/YOU**のヘルプ］を選択します。
Enfocus Connectorユーザーガイド	Enfocus Connectorの使用に関する情報。このガイドはConnectorを使用している顧客に配布できます。	Enfocus Webサイトの［サポート］セクションに移動して、（マニュアル下の）Connect ALLまたはConnect YOUを選択します。ダイレクトリンク：*https://www.enfocus.com/en/support/manuals/connect-all-manuals*
プリフライトプロファイルライブラリ	Webサイトからのダウンロードで入手可能なプリフライトプロファイルの概要。	Enfocus Webサイトの［サポート］セクションに移動して、（ダウンロード下の）PitStop プリフライトプロファイルを選択します。ダイレクトリンク：*https://www.enfocus.com/en/support/downloads/pitstop-preflight-profiles*。 または、アプリケーション内からヘルプを開いて、［**F1**］を押すか、［ヘルプ］ > ［オンラインリソース］ > ［プリフライトプロファイルライブラリ］を選択します。
アクションリストライブラリ	Webサイトからのダウンロードで入手可能なアクションリストの概要。	Enfocus Webサイトの［サポート］セクションに移動して、（アクションリスト下の）PitStop アクションリストを選択します。ダイレクトリンク：*https://www.enfocus.com/en/support/downloads/pitstop-action-lists*。 または、アプリケーション内からヘルプを開いて、［**F1**］を押すか、［ヘルプ］ > ［オンラインリソース］ > ［アクションリストライブラリ］を選択します。

2.*Enfocus Connect*製品ビデオを参照する

デモ、チュートリアル、オンラインセミナー録画は*https://www.enfocus.com/en/support/product-videos*にあります

3.*Enfocus*ソリューション情報を参照する

Enfocusソリューション情報は、よくある質問への回答、問題の解決策、ヒント集を提供します。

ナレッジベースにアクセスするには、*https://www.enfocus.com/en/support/known-issues-and-solutions*に移動します。

注: また、［ヘルプ］ > ［ナレッジベース］メニューを選択して、ソリューション情報にアプリケーション内からアクセスすることも可能です。

4.販売代理店に問い合わせる

認定販売代理店の一覧はEnfocusのWebサイトで入手できます（*https://www.enfocus.com/en/resellers*）。

5.*Enfocus*のカスタマサポートに問い合わせる

Connectのマニュアルや Webサイトで問題に対する答えが見つからない場合は、*https://www.enfocus.com/supportportal*のサポートポータル上のフォームに問題の内容を入力して送信してください。

7. サードパーティのライセンス情報

```
This product includes lzw-ab.

    Copyright (c) David Bryant
    All rights reserved.

    Redistribution and use in source and binary forms, with or without
    modification, are permitted provided that the following conditions are met:

    * Redistributions of source code must retain the above copyright notice,
      this list of conditions and the following disclaimer.
    * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice,
      this list of conditions and the following disclaimer in the
      documentation and/or other materials provided with the distribution.
    * Neither the name of Conifer Software nor the names of its contributors
      may be used to endorse or promote products derived from this software
      without specific prior written permission.

    THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS"
    AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
    IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
    ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR
    ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
    DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR
    SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER
    CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY,
    OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
    OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-------------------------------------------------------------

This product includes Botan.

      Copyright (C) 1999-2009 Jack Lloyd
                    2001 Peter J Jones
                    2004-2007 Justin Karneges
                    2005 Matthew Gregan
                    2005-2006 Matt Johnston
                    2006 Luca Piccarreta
                    2007 Yves Jerschow
                    2007-2008 FlexSecure GmbH
                    2007-2008 Technische Universitat Darmstadt
                    2007-2008 Falko Strenzke
                    2007-2008 Martin Doering
                    2007 Manuel Hartl
                    2007 Christoph Ludwig
                    2007 Patrick Sona
      All rights reserved.

      Redistribution and use in source and binary forms, with or without
      modification, are permitted provided that the following conditions are
      met:

      1. Redistributions of source code must retain the above copyright
      notice, this list of conditions, and the following disclaimer.

      2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
      notice, this list of conditions, and the following disclaimer in the
      documentation and/or other materials provided with the distribution.

      THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR(S) "AS IS" AND ANY EXPRESS OR
      IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED
      WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE,
      ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR(S) OR CONTRIBUTOR(S) BE
      LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR
      CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF
      SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR
      BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY,
```

```
      WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE
      OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN
      IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-------------------------------------------------------------

This product includes ICC Profiles.

    Some ICC Profiles were created by FFEI Ltd. (www.ffei.co.uk) using Fujifilm
    ColourKit Profiler Suite (www.colourprofiling.com)

-------------------------------------------------------------

This product includes ICC Profiles.

    Some ICC profiles are copyright (C) by European Color Initiative, www.eci.org

-------------------------------------------------------------

This product includes ICC Profiles.

    Some ICC profiles are copyright (C) of WAN-IFRA, www.wan-ifra.org

-------------------------------------------------------------

This product includes ICC Profiles.

    Some ICC profiles are copyright (C) IDEAlliance(R). G7(R), GRACol(R) and
    SWOP(R) are all registered trademarks of IDEAlliance(C).

-------------------------------------------------------------

This product includes curl.

      Copyright (c) 1996 - 2015, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>.
      All rights reserved.

      Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose
      with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright
      notice and this permission notice appear in all copies.

      THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR
      IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY,
      FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN
      NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM,
      DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR
      OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE
      OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

      Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not
      be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings
      in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

-------------------------------------------------------------

This product includes LibTIFF.

      Copyright (c) 1988-1997 Sam Leffler
      Copyright (c) 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

      Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and
      its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided
      that (i) the above copyright notices and this permission notice appear in
      all copies of the software and related documentation, and (ii) the names of
      Sam Leffler and Silicon Graphics may not be used in any advertising or
      publicity relating to the software without the specific, prior written
      permission of Sam Leffler and Silicon Graphics.

      THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND,
      EXPRESS, IMPLIED OR OTHERWISE, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY
      WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

      IN NO EVENT SHALL SAM LEFFLER OR SILICON GRAPHICS BE LIABLE FOR
      ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY KIND,
      OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS,
      WHETHER OR NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF DAMAGE, AND ON ANY THEORY OF
      LIABILITY, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE
```

```
      OF THIS SOFTWARE.

-----------------------------------------------------------

This product includes Minizip.

       Copyright (C) 1998-2005 Gilles Vollant
      Modifications of Unzip for Zip64
       Copyright (C) 2007-2008 Even Rouault
      Modifications for Zip64 support on both zip and unzip
       Copyright (C) 2009-2010 Mathias Svensson
       http://result42.com
      Modifications for AES, PKWARE disk spanning
       Copyright (C) 2010-2014 Nathan Moinvaziri

      This software is provided 'as-is', without any express or implied
      warranty.  In no event will the authors be held liable for any damages
      arising from the use of this software.

-----------------------------------------------------------

This product includes zlib.

      Copyright (C) 1995-2004 Jean-loup Gailly and Mark Adler

      This software is provided 'as-is', without any express or implied
      warranty.  In no event will the authors be held liable for any damages
      arising from the use of this software.

-----------------------------------------------------------

This product includes gSOAP.

      EXHIBIT B.

      Part of the software embedded in this product is gSOAP software.
      Portions created by gSOAP are Copyright (C) 2001-2007 Robert A. van Engelen,
 Genivia inc. All Rights Reserved.

      THE SOFTWARE IN THIS PRODUCT WAS IN PART PROVIDED BY GENIVIA INC AND ANY EXPRESS
 OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF
 MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT
 SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY,
 OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE
 GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER
 CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR
 TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS
 SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-----------------------------------------------------------

This product includes iODBC.

      Copyright (C) 1995-2006, OpenLink Software Inc and Ke Jin.
      All rights reserved.

      Redistribution and use in source and binary forms, with or without
      modification, are permitted provided that the following conditions
      are met:

       1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice,
          this list of conditions and the following disclaimer.
       2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
          notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
          documentation and/or other materials provided with the distribution.
       3. Neither the name of OpenLink Software Inc. nor the names of its
          contributors may be used to endorse or promote products derived from
          this software without specific prior written permission.

      THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
      "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO,
      THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
      PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL OPENLINK OR CONTRIBUTORS
      BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY,
      OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF
      SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS
      INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN
```

```
      CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
      ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF
      THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-------------------------------------------------------------

This product includes JBIG2Lib.

    Portions of this product copyrights (C) 2002 Glyph & Cog, LLC.

-------------------------------------------------------------

This product includes IJG JPEG LIBRARY.
This software is copyright (C) 1991-1998, Thomas G. Lane.
      All Rights Reserved.

      This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.
-------------------------------------------------------------

This product includes Little CMS.

    Little CMS
    Copyright (c) 1998-2011 Marti Maria Saguer

    Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy
    of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal
    in the Software without restriction, including without limitation the rights
    to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell
    copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is
    furnished to do so, subject to the following conditions:

    The above copyright notice and this permission notice shall be included in
    all copies or substantial portions of the Software.

    THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR
    IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY,
    FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE
    AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER
    LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM,
    OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN
    THE SOFTWARE.

-------------------------------------------------------------

This product includes libpng.

      Copyright (c) 2000-2002 Glenn Randers-Pehrson

      The PNG Reference Library is supplied "AS IS".  The Contributing Authors
      and Group 42, Inc. disclaim all warranties, expressed or implied,
      including, without limitation, the warranties of merchantability and of
      fitness for any purpose.  The Contributing Authors and Group 42, Inc.
      assume no liability for direct, indirect, incidental, special, exemplary,
      or consequential damages, which may result from the use of the PNG
      Reference Library, even if advised of the possibility of such damage.
      There is no warranty against interference with your enjoyment of the
      library or against infringement.  There is no warranty that our
      efforts or the library will fulfill any of your particular purposes
      or needs.  This library is provided with all faults, and the entire
      risk of satisfactory quality, performance, accuracy, and effort is with
      the user.

-------------------------------------------------------------

This product includes libxml2.

    Copyright (C) 1998-2012 Daniel Veillard.  All Rights Reserved.

    Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy
    of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal
    in the Software without restriction, including without limitation the rights
    to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell
    copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is fur-
    nished to do so, subject to the following conditions:

    The above copyright notice and this permission notice shall be included in
    all copies or substantial portions of the Software.
```

```
    THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR
    IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FIT-
    NESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.  IN NO EVENT SHALL THE
    AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER
    LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM,
    OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN
    THE SOFTWARE.

------------------------------------------------------------

This product includes IP*Works!.

      Copyright (c) 2017 /n software inc. - All rights reserved.

      DISCLAIMER OF WARRANTY. THE LICENSED SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" WITHOUT
 WARRANTY OF ANY KIND, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE IMPLIED WARRANTIES OF
 MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. FURTHER, /N SOFTWARE
 SPECIFICALLY DOES NOT WARRANT, GUARANTEE, OR MAKE ANY REPRESENTATIONS REGARDING THE
 USE, OR THE RESULTS OF THE USE, OF THE LICENSED SOFTWARE OR DOCUMENTATION IN TERMS
 OF CORRECTNESS, ACCURACY, RELIABILITY, CURRENTNESS, OR OTHERWISE. THE ENTIRE RISK AS
 TO THE RESULTS AND PERFORMANCE OF THE LICENSED SOFTWARE IS ASSUMED BY YOU. NO ORAL
 OR WRITTEN INFORMATION OR ADVICE GIVEN BY /N SOFTWARE OR ITS EMPLOYEES SHALL CREATE
 A WARRANTY OR IN ANY WAY INCREASE THE SCOPE OF THIS WARRANTY, AND YOU MAY NOT RELY
 ON ANY SUCH INFORMATION OR ADVICE.  FURTHER, THE LICENSED SOFTWARE IS NOT FAULT-
TOLERANT AND IS NOT DESIGNED, MANUFACTURED OR INTENDED FOR USE OR RESALE AS ON-LINE
 CONTROL EQUIPMENT IN HAZARDOUS ENVIRONMENTS REQUIRING FAIL-SAFE PERFORMANCE, SUCH AS
 IN THE OPERATION OF NUCLEAR FACILITIES, AIRCRAFT NAVIGATION OR COMMUNICATION SYSTEMS,
 AIR TRAFFIC CONTROL, DIRECT LIFE SUPPORT MACHINES, OR WEAPONS SYSTEMS, IN WHICH THE
 FAILURE OF THE LICENSED SOFTWARE COULD LEAD DIRECTLY TO DEATH, PERSONAL INJURY, OR
 SEVERE PHYSICAL OR ENVIRONMENTAL DAMAGE ("HIGH RISK ACTIVITIES"). /N SOFTWARE AND ITS
 SUPPLIERS SPECIFICALLY DISCLAIM ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTY OF FITNESS FOR HIGH
 RISK ACTIVITIES.
      LIMITATION ON LIABILITY. TO THE MAXIMUM EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW,
 IN NO EVENT WILL /N SOFTWARE'S TOTAL AGGREGATE AND CUMULATIVE LIABILITY TO YOU FOR
 ANY AND ALL CLAIMS OF ANY KIND ARISING HEREUNDER EXCEED THE AMOUNT OF LICENSE FEES
 ACTUALLY PAID BY YOU FOR THE LICENSED SOFTWARE GIVING RISE TO THE CLAIM IN THE TWELVE
 MONTHS PRECEDING THE CLAIM. /N SOFTWARE'S LICENSORS AND THEIR SUPPLIERS SHALL HAVE NO
 LIABILITY TO YOU FOR ANY DAMAGES SUFFERED BY YOU OR ANY THIRD PARTY AS A RESULT OF
 USING THE LICENSED SOFTWARE, OR ANY PORTION THEREOF. NOTWITHSTANDING THE FOREGOING,
 IN NO EVENT SHALL /N SOFTWARE, ITS LICENSORS, OR ANY OF THEIR RESPECTIVE SUPPLIERS
 BE LIABLE FOR ANY LOST REVENUE, PROFIT OR DATA, OR FOR INDIRECT, PUNITIVE, SPECIAL,
 INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY CHARACTER, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION,
 ANY COMMERCIAL DAMAGES OR LOSSES, HOWEVER CAUSED AND REGARDLESS OF THE THEORY OF
 LIABILITY, ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LICENSED SOFTWARE, OR ANY
 PORTION THEREOF, EVEN IF /N SOFTWARE, ITS LICENSORS AND/OR ANY OF THEIR RESPECTIVE
 SUPPLIERS HAVE BEEN INFORMED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. SOME STATES DO NOT
 ALLOW THE EXCLUSION OF INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, SO THE ABOVE LIMITATIONS
 MAY NOT APPLY. EACH EXCLUSION OF LIMITATION IS INTENDED TO BE SEPARATE AND THEREFORE
 SEVERABLE.

------------------------------------------------------------

This product includes IP*Works! SSH.

      Copyright (c) 2017 /n software inc. - All rights reserved.

      DISCLAIMER OF WARRANTY. THE LICENSED SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" WITHOUT
 WARRANTY OF ANY KIND, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE IMPLIED WARRANTIES OF
 MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. FURTHER, /N SOFTWARE
 SPECIFICALLY DOES NOT WARRANT, GUARANTEE, OR MAKE ANY REPRESENTATIONS REGARDING THE
 USE, OR THE RESULTS OF THE USE, OF THE LICENSED SOFTWARE OR DOCUMENTATION IN TERMS
 OF CORRECTNESS, ACCURACY, RELIABILITY, CURRENTNESS, OR OTHERWISE. THE ENTIRE RISK AS
 TO THE RESULTS AND PERFORMANCE OF THE LICENSED SOFTWARE IS ASSUMED BY YOU. NO ORAL
 OR WRITTEN INFORMATION OR ADVICE GIVEN BY /N SOFTWARE OR ITS EMPLOYEES SHALL CREATE
 A WARRANTY OR IN ANY WAY INCREASE THE SCOPE OF THIS WARRANTY, AND YOU MAY NOT RELY
 ON ANY SUCH INFORMATION OR ADVICE.  FURTHER, THE LICENSED SOFTWARE IS NOT FAULT-
TOLERANT AND IS NOT DESIGNED, MANUFACTURED OR INTENDED FOR USE OR RESALE AS ON-LINE
 CONTROL EQUIPMENT IN HAZARDOUS ENVIRONMENTS REQUIRING FAIL-SAFE PERFORMANCE, SUCH AS
 IN THE OPERATION OF NUCLEAR FACILITIES, AIRCRAFT NAVIGATION OR COMMUNICATION SYSTEMS,
 AIR TRAFFIC CONTROL, DIRECT LIFE SUPPORT MACHINES, OR WEAPONS SYSTEMS, IN WHICH THE
 FAILURE OF THE LICENSED SOFTWARE COULD LEAD DIRECTLY TO DEATH, PERSONAL INJURY, OR
 SEVERE PHYSICAL OR ENVIRONMENTAL DAMAGE ("HIGH RISK ACTIVITIES"). /N SOFTWARE AND ITS
 SUPPLIERS SPECIFICALLY DISCLAIM ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTY OF FITNESS FOR HIGH
 RISK ACTIVITIES.
      LIMITATION ON LIABILITY. TO THE MAXIMUM EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW,
 IN NO EVENT WILL /N SOFTWARE'S TOTAL AGGREGATE AND CUMULATIVE LIABILITY TO YOU FOR
```

```
 ANY AND ALL CLAIMS OF ANY KIND ARISING HEREUNDER EXCEED THE AMOUNT OF LICENSE FEES
 ACTUALLY PAID BY YOU FOR THE LICENSED SOFTWARE GIVING RISE TO THE CLAIM IN THE TWELVE
 MONTHS PRECEDING THE CLAIM. /N SOFTWARE'S LICENSORS AND THEIR SUPPLIERS SHALL HAVE NO
 LIABILITY TO YOU FOR ANY DAMAGES SUFFERED BY YOU OR ANY THIRD PARTY AS A RESULT OF
 USING THE LICENSED SOFTWARE, OR ANY PORTION THEREOF. NOTWITHSTANDING THE FOREGOING,
 IN NO EVENT SHALL /N SOFTWARE, ITS LICENSORS, OR ANY OF THEIR RESPECTIVE SUPPLIERS
 BE LIABLE FOR ANY LOST REVENUE, PROFIT OR DATA, OR FOR INDIRECT, PUNITIVE, SPECIAL,
 INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY CHARACTER, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION,
 ANY COMMERCIAL DAMAGES OR LOSSES, HOWEVER CAUSED AND REGARDLESS OF THE THEORY OF
 LIABILITY, ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LICENSED SOFTWARE, OR ANY
 PORTION THEREOF, EVEN IF /N SOFTWARE, ITS LICENSORS AND/OR ANY OF THEIR RESPECTIVE
 SUPPLIERS HAVE BEEN INFORMED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. SOME STATES DO NOT
 ALLOW THE EXCLUSION OF INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, SO THE ABOVE LIMITATIONS
 MAY NOT APPLY. EACH EXCLUSION OF LIMITATION IS INTENDED TO BE SEPARATE AND THEREFORE
 SEVERABLE.

-------------------------------------------------------------

This product includes OpenSSL.

      Copyright (c) 1998-2011 The OpenSSL Project.  All rights reserved.

      Redistribution and use in source and binary forms, with or without
      modification, are permitted provided that the following conditions
      are met:

      1. Redistributions of source code must retain the above copyright
         notice, this list of conditions and the following disclaimer.

      2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
         notice, this list of conditions and the following disclaimer in
         the documentation and/or other materials provided with the
         distribution.

      3. All advertising materials mentioning features or use of this
         software must display the following acknowledgment:
         "This product includes software developed by the OpenSSL Project
         for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"

      4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to
         endorse or promote products derived from this software without
         prior written permission. For written permission, please contact
         openssl-core@openssl.org.

      5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL"
         nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written
         permission of the OpenSSL Project.

      6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following
         acknowledgment:
         "This product includes software developed by the OpenSSL Project
         for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

      THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY
      EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
      IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
      PURPOSE ARE DISCLAIMED.  IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR
      ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
      SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT
      NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES;
      LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
      HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,
      STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
      ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED
      OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-------------------------------------------------------------

This product includes OpenSSL.

      Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
      All rights reserved.

      Redistribution and use in source and binary forms, with or without
      modification, are permitted provided that the following conditions
      are met:
      1. Redistributions of source code must retain the copyright
```

```
         notice, this list of conditions and the following disclaimer.
      2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
         notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
         documentation and/or other materials provided with the distribution.
      3. All advertising materials mentioning features or use of this software
         must display the following acknowledgement:
         "This product includes cryptographic software written by
         Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
         The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library
         being used are not cryptographic related :-).
      4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from
         the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
         "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

      THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS'' AND
      ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
      IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
      ARE DISCLAIMED.  IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
      FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
      DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
      OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
      HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
      LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
      OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
      SUCH DAMAGE.

-------------------------------------------------------------

This product includes Qt.

      The software uses Qt, licensed under LGPL v3. The Qt Toolkit is Copyright (C)
 2016 The Qt Company Ltd.

      Portions of this software are copyright (C) 2006-2015 The FreeType Project
 (www.freetype.org). All rights reserved.

      Copyright (C) 1991-2011, Thomas G. Lane, Guido Vollbeding.
      This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

      Secure Hash Algorithm SHA-3 - brg_endian
      Copyright (c) 1998-2008, Brian Gladman, Worcester, UK. All rights reserved.

      LICENSE TERMS

      The redistribution and use of this software (with or without changes)
      is allowed without the payment of fees or royalties provided that:

       1. source code distributions include the above copyright notice, this
          list of conditions and the following disclaimer;

       2. binary distributions include the above copyright notice, this list
          of conditions and the following disclaimer in their documentation;

       3. the name of the copyright holder is not used to endorse products
          built using this software without specific written permission.

      DISCLAIMER

      This software is provided 'as is' with no explicit or implied warranties
      in respect of its properties, including, but not limited to, correctness
      and/or fitness for purpose.

-------------------------------------------------------------

This product includes QtDeclarative.

      The Qt Toolkit is Copyright (C) 2016 The Qt Company Ltd.

-------------------------------------------------------------

This product includes QtCopyDialog.

      Copyright (c) 2009 Nokia Corporation and/or its subsidiary(-ies).
      All rights reserved.

      BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO
      WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW.
```

```
      EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR
      OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY
      KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
      IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
      PURPOSE.  THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE
      LIBRARY IS WITH YOU.  SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME
      THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

------------------------------------------------------------

This product includes QtMigration.

        Copyright (C) 2013 Digia Plc and/or its subsidiary(-ies).

        Redistribution and use in source and binary forms, with or without
        modification, are permitted provided that the following conditions are
        met:
          * Redistributions of source code must retain the above copyright
            notice, this list of conditions and the following disclaimer.
          * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
            notice, this list of conditions and the following disclaimer in
            the documentation and/or other materials provided with the
            distribution.
          * Neither the name of Digia Plc and its Subsidiary(-ies) nor the names
            of its contributors may be used to endorse or promote products derived
            from this software without specific prior written permission.

        THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
        "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
        A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT
        OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
        SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
        DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
        THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
        (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
        OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE."

------------------------------------------------------------

This product includes QtService.

        Copyright (C) 2010 Nokia Corporation and/or its subsidiary(-ies).

        Redistribution and use in source and binary forms, with or without
        modification, are permitted provided that the following conditions are
        met:
          * Redistributions of source code must retain the above copyright
            notice, this list of conditions and the following disclaimer.
          * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
            notice, this list of conditions and the following disclaimer in
            the documentation and/or other materials provided with the
            distribution.
          * Neither the name of Nokia Corporation and its Subsidiary(-ies) nor
            the names of its contributors may be used to endorse or promote
            products derived from this software without specific prior written
            permission.

        THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
        "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
        A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT
        OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
        SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
        DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
        THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
        (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
        OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

------------------------------------------------------------

This product includes QtSingleApplication.

        Copyright (C) 2010 Nokia Corporation and/or its subsidiary(-ies). All rights
 reserved.
```

```
        Redistribution and use in source and binary forms, with or without
        modification, are permitted provided that the following conditions are
        met:
          * Redistributions of source code must retain the above copyright
            notice, this list of conditions and the following disclaimer.
          * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
            notice, this list of conditions and the following disclaimer in
            the documentation and/or other materials provided with the
            distribution.
          * Neither the name of Nokia Corporation and its Subsidiary(-ies) nor
            the names of its contributors may be used to endorse or promote
            products derived from this software without specific prior written
            permission.

        THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
        "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
        A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT
        OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
        SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
        DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
        THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
        (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
        OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.


-------------------------------------------------------------

This product includes Qt SQL driver plugin (qsqlodbc).

      Copyright (C) 1992-2008 Trolltech ASA. All rights reserved.

      Warranty Disclaimer: The Licensed Software is licensed to Licensee
      "as is". To the maximum extent permitted by applicable law, Trolltech on
      behalf of itself and its suppliers, disclaims all warranties and
      conditions, either express or implied, including, but not limited to,
      implied warranties of merchantability, fitness for a particular purpose,
      title and non-infringement with regard to the Licensed Software.

      Limitation of Liability: If, Trolltech's warranty disclaimer
      notwithstanding, Trolltech is held liable to Licensee, whether in
      contract, tort or any other legal theory, based on the Licensed
      Software, Trolltech's entire liability to Licensee and Licensee's
      exclusive remedy shall be, at Trolltech's option, either (A) return of
      the price Licensee paid for the Licensed Software, or (B) repair or
      replacement of the Licensed Software, provided Licensee returns to
      Trolltech all copies of the Licensed Software as originally delivered to
      Licensee. Trolltech shall not under any circumstances be liable to
      Licensee based on failure of the Licensed Software if the failure
      resulted from accident, abuse or misapplication, nor shall Trolltech
      under any circumstances be liable for special damages, punitive or
      exemplary damages, damages for loss of profits or interruption of
      business or for loss or corruption of data. Any award of damages from
      Trolltech to Licensee shall not exceed the total amount Licensee has
      paid to Trolltech in connection with this Agreement.

-------------------------------------------------------------

This product includes QtSql.

      Copyright (c) 2009 Nokia Corporation and/or its subsidiary(-ies).

      BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO
      WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW.
      EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR
      OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY
      KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
      IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
      PURPOSE.  THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE
      LIBRARY IS WITH YOU.  SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME
      THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

-------------------------------------------------------------

This product includes QtWebEngine.
```

```
      The software uses QtWebEngine, licensed under LGPL v3. The Qt Toolkit is
 Copyright (C) 2016 The Qt Company Ltd.

------------------------------------------------------------

This product includes chromium.

        Copyright 2015 The Chromium Authors. All rights reserved.

        Redistribution and use in source and binary forms, with or without
        modification, are permitted provided that the following conditions are
        met:

           * Redistributions of source code must retain the above copyright
        notice, this list of conditions and the following disclaimer.
           * Redistributions in binary form must reproduce the above
        copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer
        in the documentation and/or other materials provided with the
        distribution.
           * Neither the name of Google Inc. nor the names of its
        contributors may be used to endorse or promote products derived from
        this software without specific prior written permission.

        THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
        "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
        A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT
        OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
        SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT
        LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
        DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
        THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
        (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE
        OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

------------------------------------------------------------

This product includes zlib.

      Copyright (C) 1995-2004 Jean-loup Gailly and Mark Adler

      This software is provided 'as-is', without any express or implied
      warranty.  In no event will the authors be held liable for any damages
      arising from the use of this software.

------------------------------------------------------------
```

8. 著作権

© 2020 Enfocus BV all rights reserved.Enfocus は、Esko の子会社です。

Certified PDF は Enfocus BV の商標であり、特許出願中です。

Enfocus PitStop Pro、Enfocus PitStop Workgroup Manager、Enfocus PitStop Server、Enfocus Connect YOU、Enfocus Connect ALL、Enfocus Connect SEND、Enfocus StatusCheck、Enfocus CertifiedPDF.net、Enfocus PDF Workflow Suite、Enfocus Switch、Enfocus SwitchClient、Enfocus SwitchScripter、および Enfocus Browserは Enfocus BV の製品名です。

Acrobat、Acrobat、Distiller、InDesign、Illustrator、Photoshop、FrameMaker、PDFWriter, PageMaker、Adobe PDF Library™、Adobe ロゴ、Acrobat ロゴ、および PostScript は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Datalogics、Datalogics ロゴ、PDF2IMG™、および DLE™ は Datalogics, Inc. の商標です。

Apple、Mac、Mac OS、Macintosh、iPad および ColorSync は、米国およびその他の国における Apple Computer, Inc. の商標です。

WindowsおよびWindows Server は Microsoft Corporation の登録商標です。

ここで表示されるPANTONE® カラーはPANTONE認定基準に沿わない場合があります。正確なカラーについては最新の PANTONE カラー パブリケーションをご覧ください。PANTONE® およびその他の Pantone, Inc. の商標は Pantone, Inc. の所有物です。©Pantone, Inc., 2006。

OPI は Aldus Corporation の商標です。

Quark、QuarkXPress、QuarkXTensions、XTensionsおよびその他に使用されるXTensionsロゴはQuark, Inc.とQuark関連会社の商標です（Reg. U.S. Pat.& Tm.Off.）。

本製品およびその使用に関しては Markzware より米国特許第 5,963,641 号に基づく許諾を受けております。

その他のブランド名や製品名も、各所有権者の商標または登録商標である可能性があります。製品やサービスの全ての仕様、用語および説明は、事前の通知や助言なしに変更される場合があります。